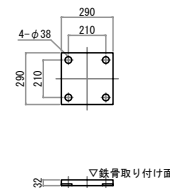


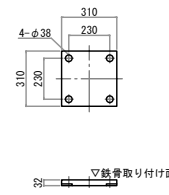
EM190-4-24

ベースプレート詳細図



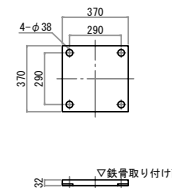
EM216-4-24

ベースプレート詳細図

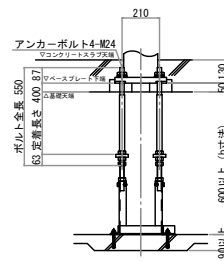


EM250-4-24

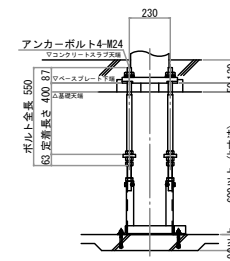
ベースプレート詳細図



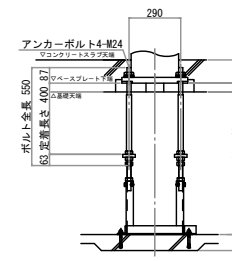
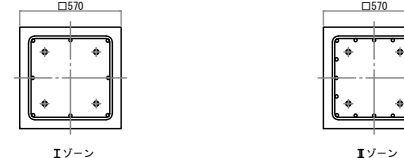
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



柱脚詳細例 (Fc24の場合)



柱脚詳細例 (Fc24の場合)



2026/7 最大板厚修正(EM全型式)

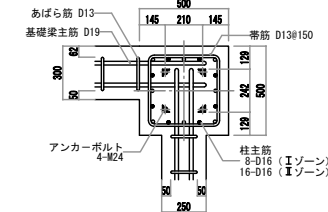
適用柱		円形鋼管柱 φ190.7 最大板厚：40mm					
アンカーボルト	4-M24						鉄筋の定着長さ (L)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	500	8-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	500	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	210
<中柱用>	500	8-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	500	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	210

適用柱		円形鋼管柱 φ216.3 最大板厚：40mm					
アンカーボルト	4-M24						鉄筋の定着長さ (L)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	520	8-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	520	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	200
<中柱用>	520	8-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	520	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	200

適用柱		円形鋼管柱 φ267.4 最大板厚：40mm					
アンカーボルト	4-M24						鉄筋の定着長さ (L)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	570	8-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	570	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	190
<中柱用>	570	8-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	570	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	190

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋		2	3	4	5	
D16	280~390	330~390	380~390			
D19	280~390	340~390				
D22	280~390	340~380				

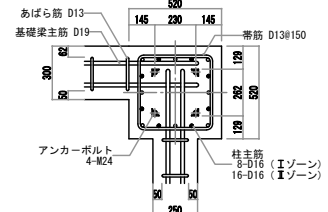


柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋		2	3	4	5	
D16	230~290	280~290				
D19	240~290					
D22	240~280					

注1) 上記柱主筋について、柱主筋○は Iゾーンの配筋量です。設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋		2	3	4	5	
D16	280~410	330~410	380~410			
D19	280~410	340~410	400~410			
D22	280~400	340~400	400			

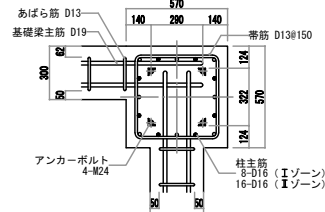


柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋		2	3	4	5	
D16	230~310	280~310				
D19	240~310	300~310				
D22	240~300	300				

注1) 上記柱主筋について、柱主筋○は Iゾーンの配筋量です。設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。

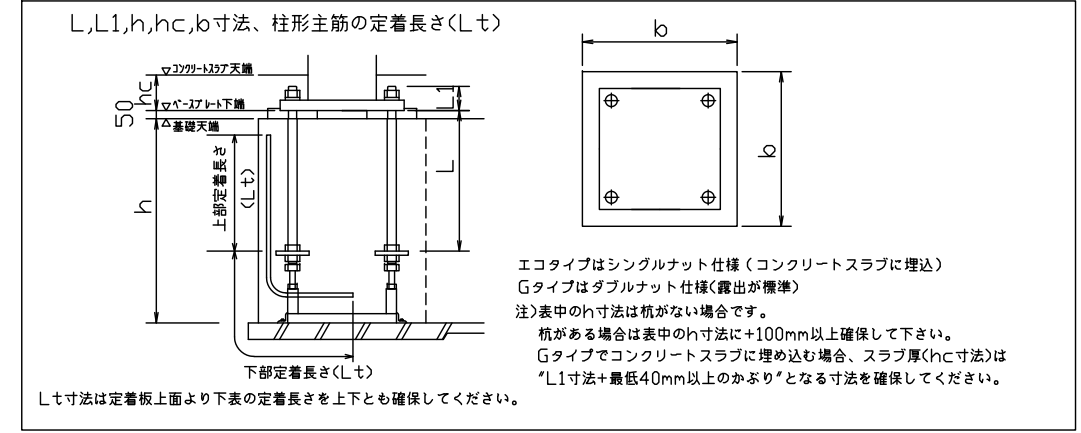
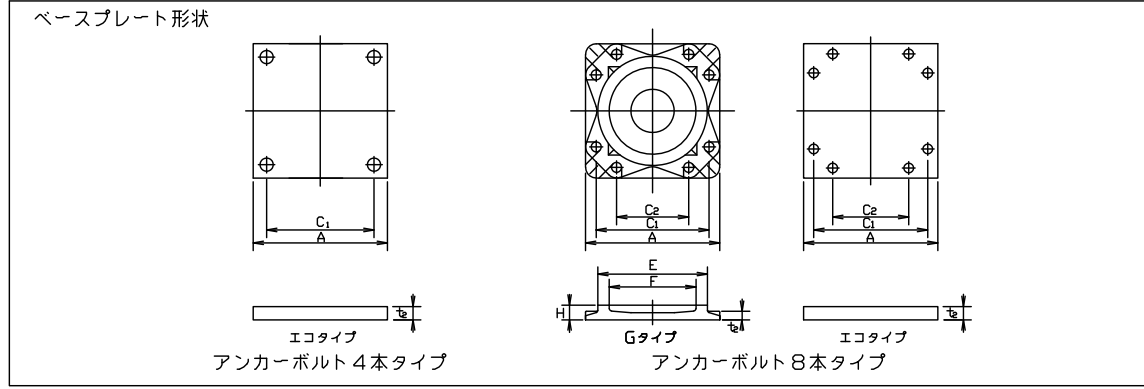
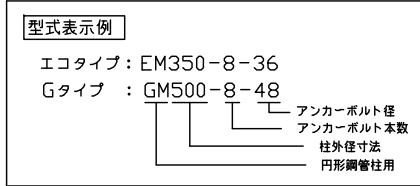
基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋		2	3	4	5	
D16	270~460	320~460	370~460	420~460		
D19	270~460	330~460	390~460	450~460		
D22	270~450	330~450	390~450	450		



柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋		2	3	4	5	
D16	230~370	280~370	330~370			
D19	240~370	300~370	360~370			
D22	240~360	300~360	360			

注1) 上記柱主筋について、柱主筋○は Iゾーンの配筋量です。設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。



2026/7 EM最大板厚修正

・ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

採用	通用柱	ハイベースNEO型式		アンカーボルト	回転バネ定数 10 ⁴ kn・m/rad	寸法 (mm)										質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎柱形設計例(Fc21) <側・隅柱用>		基礎柱形設計例(Fc21) <中柱用(4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>																				
		エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	E	F	H	te	ベースプレート	部品	セット質量	Iゾーン		IIゾーン			鉄筋の定着長さ Lt(mm)	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ Lt(mm)																	
																柱形 b (mm)	主筋量	帯筋				柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)		主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋												
	φ190.7	40	EM190-4-24	4-M24	13.8	290	210	-	-	-	-	-	32	22	14	36	400	87	600以上	130	500	8-D16	D13@150	500	16-D16	D13@150	210	500	8-D16	D13@150	500	16-D16	D13@150	210	500	8-D16	D13@150	500	16-D16	D13@150	210		
	φ216.3	40	EM216-4-24	4-M24	19.9	310	230	-	-	-	-	-	32	25	14	39	400	87	600以上	130	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	210	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	210	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	210		
	φ267.4	40	EM250-4-24	4-M24	28.4	370	290	-	-	-	-	-	32	35	14	49	400	87	600以上	130	570	8-D16	D13@150	570	16-D16	D13@150	200	570	8-D16	D13@150	570	16-D16	D13@150	200	570	8-D16	D13@150	570	16-D16	D13@150	200		
	φ300	40	EM300-4	-24	4-M24	38.3	420	340	-	-	-	-	32	45	15	60	400	87	600以上	130	620	8-D19	D13@150	620	12-D19	D13@150	200	620	8-D19	D13@150	620	12-D19	D13@150	200	620	8-D19	D13@150	620	12-D19	D13@150	200		
	φ318.5			-30	4-M30	61.0	430	340	-	-	-	-	-	-	40	59	23	82	400	110	600以上	150	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	290	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	290	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	290
	φ350	40	EM350-4-30	-30	4-M30	65.1	420	330	-	-	-	-	32	45	23	68	400	102	600以上	150	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	290	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	290	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	290		
	φ355.6			-30	8-M30	86.3	500	410	240	-	-	-	-	-	40	79	50	129	600	110	800以上	150	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	440	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	440	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	440
	φ400	40	EM400-8	-30	8-M30	119	540	450	280	-	-	-	40	92	51	143	600	110	800以上	150	740	16-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	490	740	12-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	490	740	12-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	490		
	φ406.4			-36	8-M36	148	560	470	270	-	-	-	-	-	48	119	81	200	720	125	900以上	170	770	16-D25	D13@150	800	24-D25	D13@100	570	770	12-D25	D13@150	800	24-D25	D13@100	570	770	12-D25	D13@150	800	24-D25	D13@100	570
	φ450			-42	8-M42	194	610	500	280	-	-	-	-	-	60	176	127	303	840	150	1100以上	190	810	20-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	730	810	20-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	730	810	20-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	730
	φ457.2	40	EM450-8	-30	8-M30	146	580	490	320	-	-	-	40	106	51	157	600	110	800以上	150	780	16-D22	D13@150	780	20-D22	D13@150	480	780	12-D22	D13@150	780	20-D22	D13@150	480	780	12-D22	D13@150	780	20-D22	D13@150	480		
	φ500			-36	8-M36	182	600	510	310	-	-	-	-	-	48	136	81	217	720	125	900以上	170	810	16-D25	D13@100	810	24-D25	D13@100	570	810	12-D25	D13@100	810	24-D25	D13@100	570	810	12-D25	D13@100	810	24-D25	D13@100	570
	φ508	40	EM500-8	-42	8-M42	249	650	540	320	-	-	-	60	199	127	326	840	150	1100以上	190	850	20-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	730	850	16-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	730	850	16-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	730		
	φ550			-36	8-M36	231	640	550	350	-	-	-	-	-	48	155	82	237	720	125	900以上	170	850	16-D25	D13@100	850	24-D25	D13@100	550	850	12-D25	D13@100	850	24-D25	D13@100	550	850	12-D25	D13@100	850	24-D25	D13@100	550
	φ558	40	EM550-8	-42	8-M42	301	700	590	370	-	-	-	60	231	128	359	840	150	1100以上	190	900	20-D25	D13@100	900	32-D25	D13@100	710	900	20-D25	D13@100	900	32-D25	D13@100	710	900	20-D25	D13@100	900	32-D25	D13@100	710		
	φ600			-36	8-M36	405	710	580	330	518	390	90	57	229	207	436	960	164	1200以上	-	950	24-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	770	950	20-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	770	950	20-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	770		
	φ609.6	40	GM500-8	-56	8-M56	470	740	600	320	100	69	282	308	590	1120	192	1350以上	-	950	32-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	990	950	28-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	990	950	28-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	990				
	φ650			-36	8-M36	269	680	590	390	-	-	-	-	-	48	175	82	257	720	125	900以上	170	900	20-D25	D13@100	900	24-D25	D13@100	540	900	16-D25	D13@100	900	24-D25	D13@100	540	900	16-D25	D13@100	900	24-D25	D13@100	540
	φ660.4	40	GM550-8	-64	8-M64	350	740	630	410	-	-	-	60	258	128	386	840	150	1100以上	190	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700		
	φ700			-48	8-M48	468	740	610	360	568	430	85	54	244	208	452	960	161	1200以上	-	950	28-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	770	950	24-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	770	950	24-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	770		
	φ711.2	40	GM600-8	-56	8-M56	543	770	630	350	100	65	301	310	611	1120	188	1350以上	-	1000	32-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	990	1000	28-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	990	1000	28-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	990				
	φ750			-36	8-M36	421	700	610	410	-	-	-	-	-	70	36	192	85	277	720	116	900以上	-	950	20-D25	D16@100	950	24-D25	D16@100	470	950	16-D25	D16@100	950	24-D25	D16@100	470	950	16-D25	D16@100	950	24-D25	D16@100
	φ762	40	GM650-8	-64	8-M64	747	850	690	390	110	75	408	449	857	1280	217	1600以上	-	1100	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180				
	φ800			-48	8-M48	563	780	650	400	620	480	85	52	273	210	483	960	159	1200以上	-	1000	28-D25	D16@100	1000	40-D25	D16@100	760	1000	24-D25	D16@100	1000	40-D25	D16@100	760	1000	24-D25	D16@100	1000	40-D25	D16@100	760		
	φ812.8	40	GM700-8	-64	8-M64	846	880	720	420	110	71	432	451	883	1280	213	1600以上	-	1100	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180				
	φ850			-48	8-M48	750	850	720	470	720	570	80	48	330	212	542	960	155	1200以上	-	1050	32-D25	D16@100	1050	40-D25	D16@100	750	1050	28-D25	D16@100	1050	40-D25	D16@100	750	1050	28-D25	D16@100	1050	40-D25	D16@100	750		
	φ900	40	GM750-8	-64	8-M64	958	920	760	460	105	70	471	453	924	1280	212	1600以上	-	1150	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180	1150	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180	1150	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1180				
	φ914.4			-48	8-M48	865	890	760	510	770	620	8																															

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/10

大臣認定 MSTL-0566 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042-0044,0046,0228~0230 (アンカー用ボルトセット)
BCJ評定 ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定 ST0059 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計者、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
Eコタイプ (E B型式、EM型式、EH型式)、高強度柱適用タイプ (KB型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	Eコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136 又はTMCP調	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メトリック並目	メトリック並目	メトリック並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP385B,C	—	—	強度区分5	SM490A	SS400

Eコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはEコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490B (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メトリック並目	メトリック並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比70%以下	強度区分5 (二重ナット時) 強度区分8 (一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044,0046,0228~0230)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用 ※5 電印を使用する場合があります

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

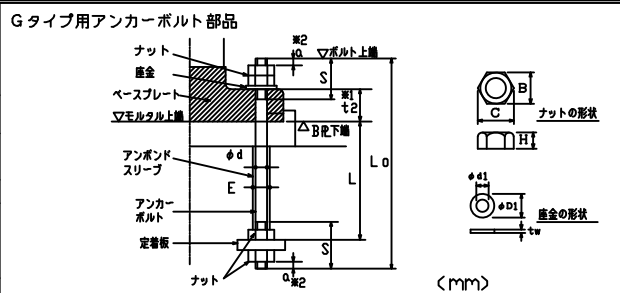
中心塗部分モルタル
○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金						
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ					
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	16	16	720	920	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	45	18	18	840	1040	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	22	22	960	1160	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	55	24	24	1120	1320	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	28	28	1280	1480	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1650	79	58	105	121	12	74	125

※1 t2はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3 表中のエコタイプ上段はE B、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、Eコタイプ下段はE B、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

△注意 Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

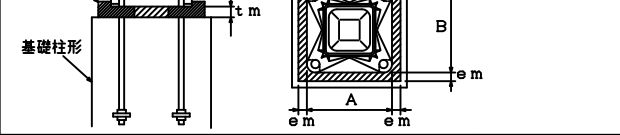
ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
Eコタイプ	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	38	45	53	61	70	79	87	-

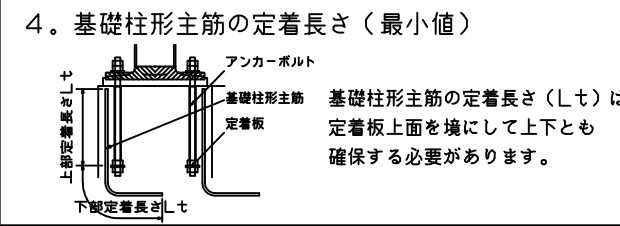
定着板 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通) (mm)

ねじの呼び	4本タイプ用			8本タイプ用			12本タイプ用		
	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅
M24	16	70	27	-	-	-	-	-	-
M30	16	90	33	9	180	65	33	-	-
M36	19	100	39	9	215	75	39	-	-
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340
M72	-	-	-	16	380	145	76	16	375

ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。



各部名称	寸法	備考
中心塗部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm



2. アンカーボルトのセット寸法

Eコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品

ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		Eコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	53
M36	36	4	16	16	720	920	41	29	55	64
M42	42	45	18	18	840	1040	48	34	65	75
M48	48	5	22	22	960	1160	54	38	75	87
M56	56	55	24	24	1120	1320	62	45	85	98
M64	64	6	28	28	1280	1480	70	51	95	110
M72	72	6	250	30	1440	1650	79	58	105	121

△注意 Eコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておきますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。アンカーボルト上部には必ずEコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

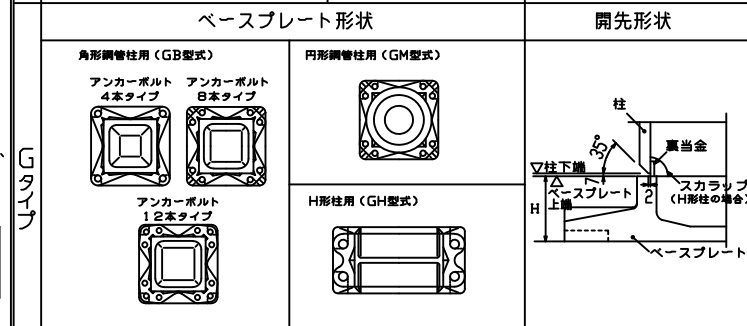
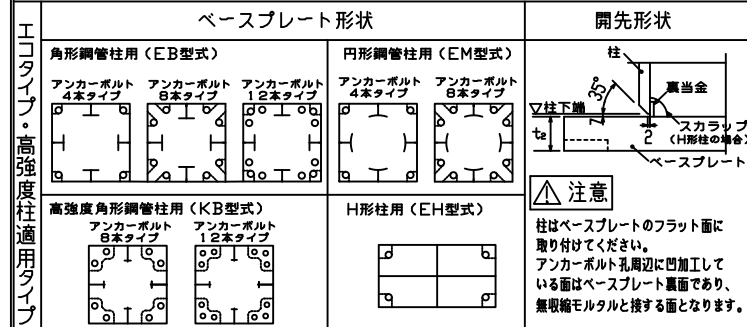
センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

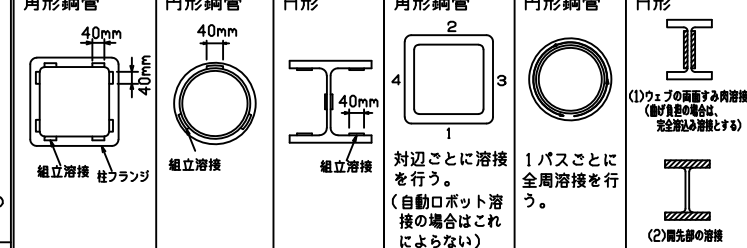
工場加工

- 溶接材料
 - 被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
 - ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
- ※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

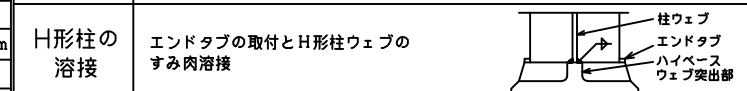
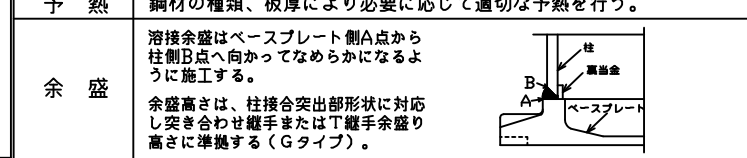
- ベースプレートの鉄骨柱への取り付け (柱端部に開先を設ける)
 - ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 - 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



- 組立溶接
- 本溶接の手順

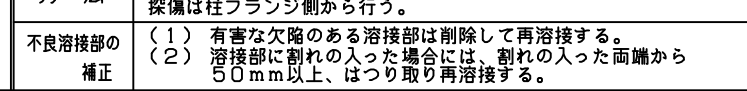


- 溶接施工一般



△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱変形によって曲がる場合があります。

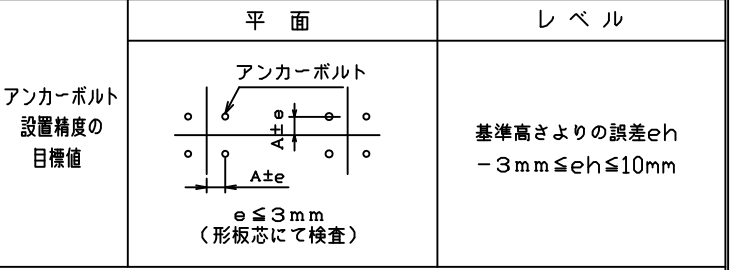
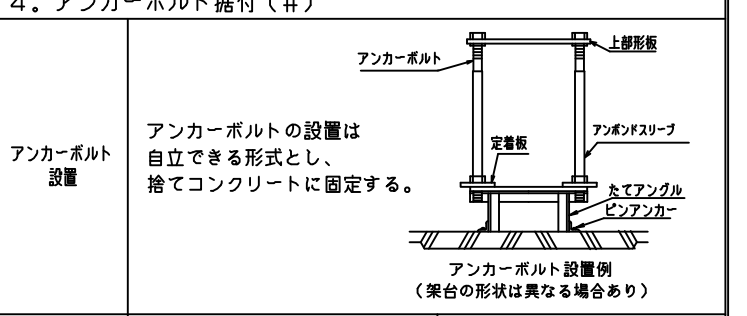
- 検査



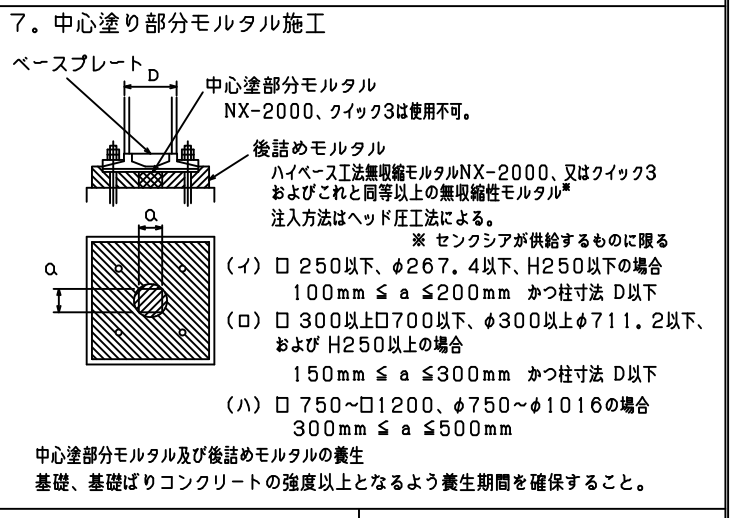
△注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきりやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

現場施工

- 捨てコンクリート打設
 - 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (＃)
- アンカーボルト据付 (＃)



- 鉄筋配筋・型枠の立込み
- 基礎コンクリート打設
 - 基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
- 中心塗部分モルタル施工



- 鉄骨建方
 - E B, G B, E M, G M, E H, K B 型式
 - GH 型式

- 鉄骨建方
 - アンカーボルト締付
 - アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

- モルタル注入枠設置 (＃)
 - アンカーボルト締付 (＃)
- 後詰めモルタル充填 (＃)
- アンカーボルト締付確認 (＃)
- ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。
- 予備締め
マーキング
ナット回転法による本締め
(30°回転、許容差: $\pm 10^\circ$)

- モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/9

大臣認定 MSTL-0566 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042-0044,0046,0228~0231 (アンカー用ボルトセット)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法は設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
エコタイプ (E B型式、EM型式、EH型式)、高強度柱適用タイプ (KB型式)

規格	ベースプレート		アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
	エコタイプ	高強度柱適用タイプ	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—		メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP385B,C		降伏比 70%以下	—	強度区分	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。
Gタイプ (G B型式、GM型式、GH型式)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
	規格	HCW490B (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分 (二重ナット時) 強度区分 (一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044,0046,0228~0231)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用 ※5 電印材を使用する場合があります

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

中心塗部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

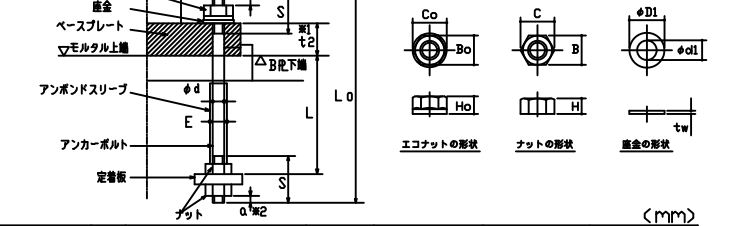
コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品

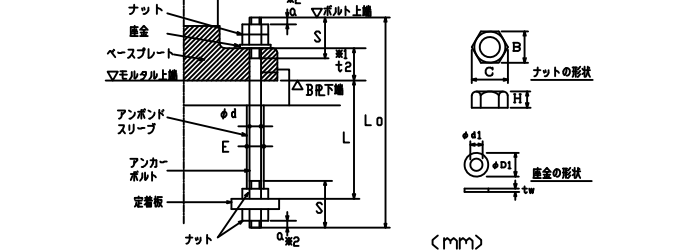


ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ	エコナット	ナット	座金	内径	外径					
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ							
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	16	16	720	920	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	45	18	18	840	1040	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	22	22	960	1160	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	55	24	24	1120	1320	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	28	28	1280	1480	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1650	79	58	105	121	12	74	125

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※3 表中のエコタイプ上段はE B、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、エコタイプ下段はE B、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

注意 エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしてお持ちですが、ゆるみ止め処理としてコンクリートスラブで被覆してください。
コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処理が必要です。
その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ	ナット	座金
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ
M24	24	3	105	10	480
M30	30	35	130	13	600
M36	36	4	16	16	720
M42	42	45	18	18	840
M48	48	5	22	22	960
M56	56	55	24	24	1120
M64	64	6	28	28	1280
M72	72	6	250	30	1440

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※3 上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

注意 Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処理が必要です。
(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

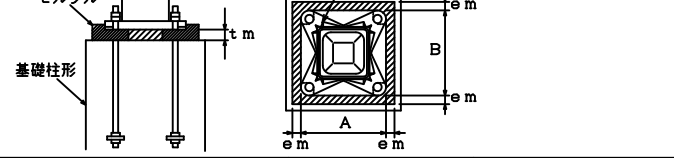
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	38	45	53	61	70	79	87	-

定着板 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通)

ねじの呼び	4本タイプ用		8本タイプ用		12本タイプ用	
	厚さ	長さ	厚さ	長さ	厚さ	長さ
M24	16	70	27	-	-	-
M30	16	90	33	9	180	65
M36	19	100	39	9	215	75
M42	22	120	45	9	240	85
M48	25	140	52	9	270	95
M56	28	160	60	9	305	110
M64	32	180	68	12	330	130
M72	-	-	-	16	380	145

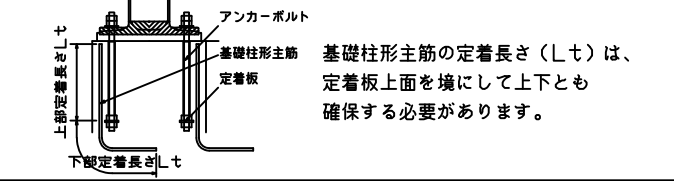
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

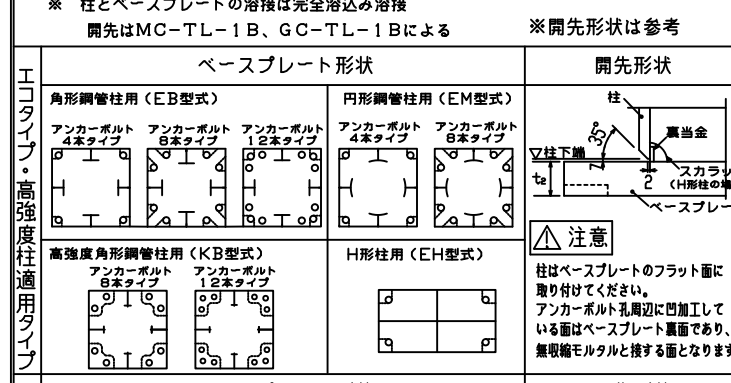
工場加工

1. 溶接材料

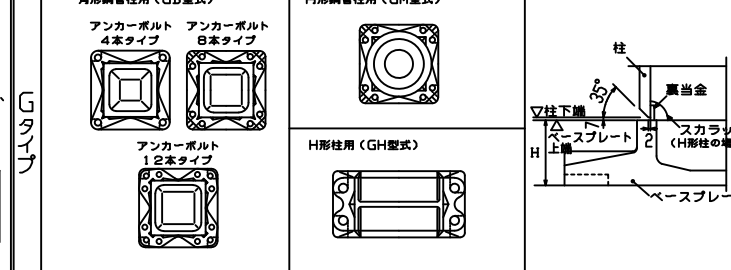
被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

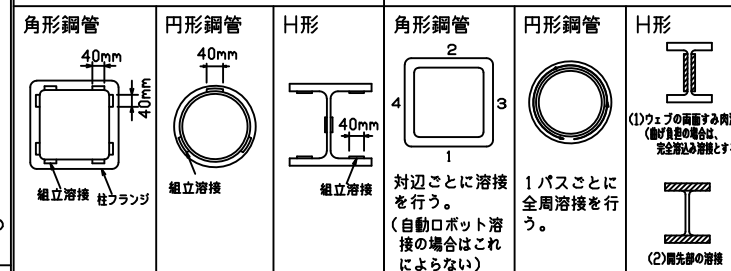
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1 B、GC-TL-1 Bによる ※開先形状は参考



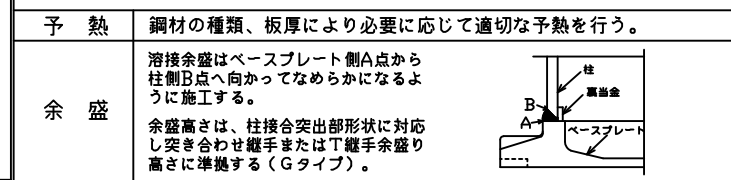
注意 柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。



3. 組立溶接



4. 本溶接の手順



予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がる場合があります。

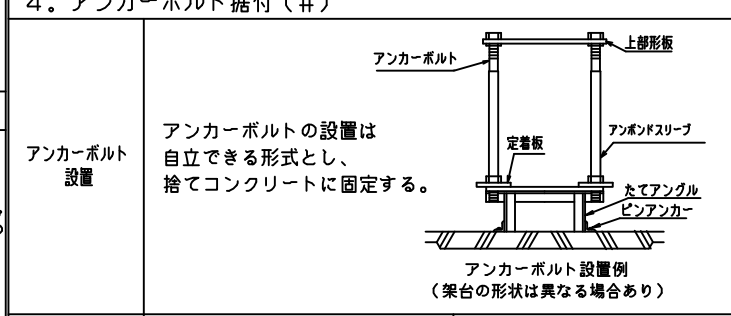
6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。

不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

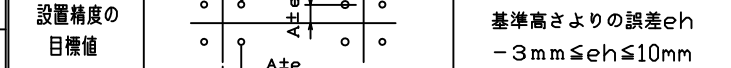
現場施工

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (井)
4. アンカーボルト据付 (井)



アンカーボルト設置例 (架台の形状は異なる場合あり)

アンカーボルト設置精度の目標値



基準高さよりの誤差 e_h
 $-3\text{mm} \leq e_h \leq 10\text{mm}$

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工

ベースプレート 中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

注 入力方法はヘッド圧工法による。

(イ) □ 250以下、φ267.4以下、H250以下の場合 $100\text{mm} \leq a \leq 200\text{mm}$ かつ柱寸法 D 以下

(ロ) □ 300以上□700以下、φ300以上φ711.2以下、および H250以上の場合 $150\text{mm} \leq a \leq 300\text{mm}$ かつ柱寸法 D 以下

(ハ) □ 750~□1200、φ750~φ1016の場合 $300\text{mm} \leq a \leq 500\text{mm}$

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生

基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH,KB型式 GH型式

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (井)

後詰めモルタル充填 (井) アンカーボルト締付確認 (井) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

9~10. モルタル注入枠設置 (井) 後詰めモルタル充填 (井) アンカーボルト締付確認 (井)

10. アンカーボルト締付 (井) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: +10° -0°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411
中部 TEL 052-582-3356
北陸 TEL 076-233-5260

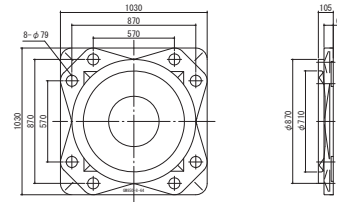
関西 TEL 06-6395-2133
中四国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

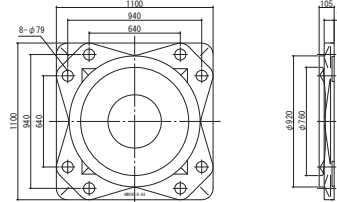
GM850-8-64

ベースプレート詳細図



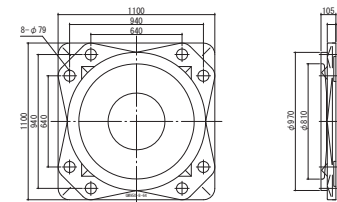
GM900-8-64

ベースプレート詳細図



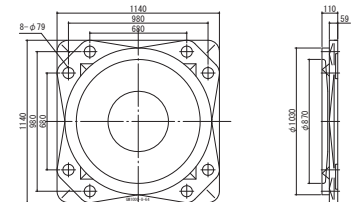
GM950-8-64

ベースプレート詳細図

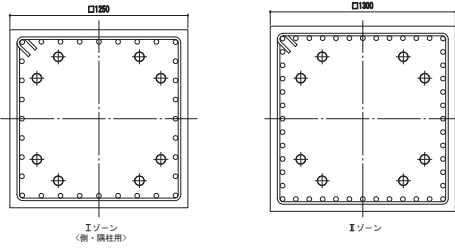


GM1000-8-64

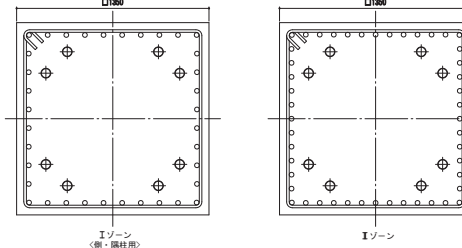
ベースプレート詳細図



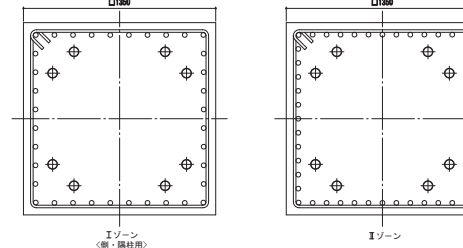
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



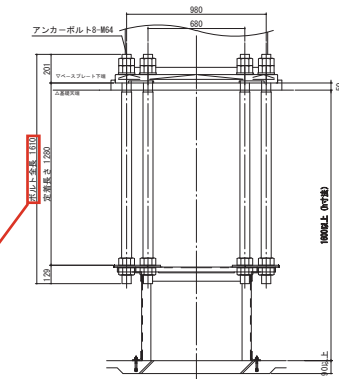
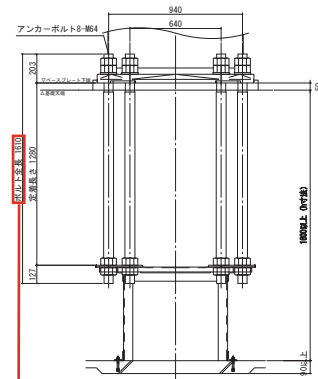
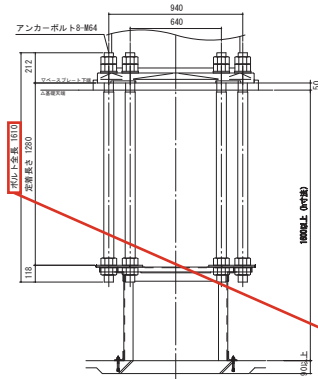
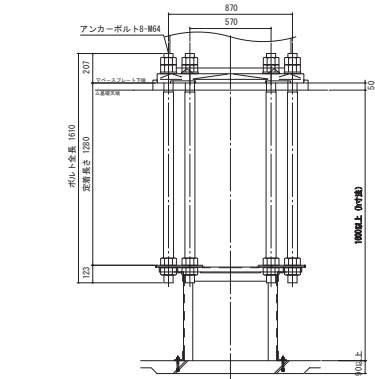
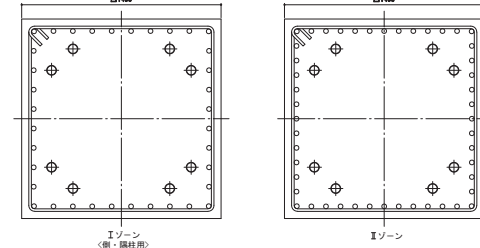
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



柱脚詳細例 (Fc24の場合)



柱脚詳細例 (Fc24の場合)



アンカーボルト全長の誤記修正

適用柱	円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)					
	Iゾーン			IIゾーン		
	柱制	基礎柱形主筋	帯筋	柱制	基礎柱形主筋	帯筋
＜側・隅柱用＞	1250	32-029(SD390)	D16H100(SD295)	1300	48-029(SD390)	D16H80(SD295)
＜中柱用＞	1250	28-029(SD390)	D16H100(SD295)	1300	48-029(SD390)	D16H80(SD295)

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースME設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースME設計ハンドブック第4章に扱い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁中のあばら筋をD10@250として算定しています。あばら筋間隔がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一面です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さには、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部両面)

適用柱	円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)					
	Iゾーン			IIゾーン		
	柱制	基礎柱形主筋	帯筋	柱制	基礎柱形主筋	帯筋
＜側・隅柱用＞	1350	36-029(SD390)	D16H100(SD295)	1350	48-029(SD390)	D16H80(SD295)
＜中柱用＞	1350	32-029(SD390)	D16H100(SD295)	1350	48-029(SD390)	D16H80(SD295)

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースME設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースME設計ハンドブック第4章に扱い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁中のあばら筋をD10@250として算定しています。あばら筋間隔がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一面です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さには、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部両面)

適用柱	円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)					
	Iゾーン			IIゾーン		
	柱制	基礎柱形主筋	帯筋	柱制	基礎柱形主筋	帯筋
＜側・隅柱用＞	1350	36-029(SD390)	D16H100(SD295)	1350	48-029(SD390)	D16H80(SD295)
＜中柱用＞	1350	32-029(SD390)	D16H100(SD295)	1350	48-029(SD390)	D16H80(SD295)

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースME設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースME設計ハンドブック第4章に扱い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁中のあばら筋をD10@250として算定しています。あばら筋間隔がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一面です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さには、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部両面)

適用柱	円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)					
	Iゾーン			IIゾーン		
	柱制	基礎柱形主筋	帯筋	柱制	基礎柱形主筋	帯筋
＜側・隅柱用＞	1400	36-029(SD390)	D16H100(SD295)	1400	48-029(SD390)	D16H100(SD295)
＜中柱用＞	1400	32-029(SD390)	D16H100(SD295)	1400	48-029(SD390)	D16H100(SD295)

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースME設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースME設計ハンドブック第4章に扱い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁中のあばら筋をD10@250として算定しています。あばら筋間隔がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一面です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さには、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部両面)

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/7

大臣認定
BCJ認定

MSTL-0566 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042-0044,0046,0231 (アンカー用ボルトセット)
BCJ認定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ認定-ST0059 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ)

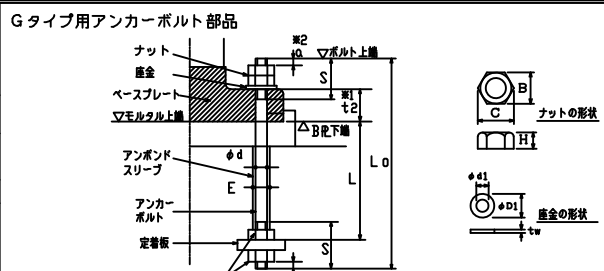
本工法は設計・施工は、鋼構造設計者、鉄骨工事技術者、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(ベースプレート認定番号の変更) ナット・座金・定着板

規格	ベースプレート		アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
	規格	タイプ	規格	規格	規格	規格	規格
ねじの種類	JIS G3136 又は TMCP	高強度柱適用タイプ	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mmの場合 TMCP355B,C	TMCP355B,C	降伏比 70%以下	-	強度区分5	SM490A	SS400



電炉材使用に関する記載追加

規格	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
	規格	規格	規格	規格	規格
ねじの種類	HCB490B (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5 (二重ナット時) 強度区分5 (一重ナット時)	SM490A	SS400

ねじの呼び	アンカーボルト		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	105	24	645	24	19
M30	30	130	30	800	30	24
M36	36	160	36	1000	36	29
M42	42	195	42	1250	42	34
M48	48	230	48	1500	48	39
M56	56	270	56	1800	56	44
M64	64	310	64	2100	64	49
M72	72	350	72	2400	72	54

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042-0044,0046,0231)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定取得した材料を使用 ※5 電炉材を使用する場合があります

(2) ベースプレート下面のモルタル

ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
中心塗部分モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

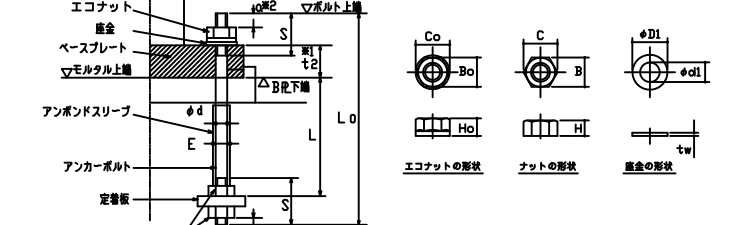
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄骨コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
O設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法



ねじの呼び	アンカーボルト		エコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	105	24	645	24	19	24	19
M30	30	130	30	800	30	24	30	24
M36	36	160	36	1000	36	29	36	29
M42	42	195	42	1250	42	34	42	34
M48	48	230	48	1500	48	39	48	39
M56	56	270	56	1800	56	44	56	44
M64	64	310	64	2100	64	49	64	49
M72	72	350	72	2400	72	54	72	54

※1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、Eコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの寸法です。

注意
Eコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしており、ゆるみ止め処理としてコンクリートスラブで被覆してください。
コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処理が必要です。
その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセクシアにご相談ください。
アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

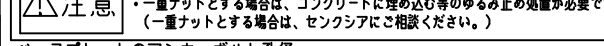


各部名称 寸法 備考

中心塗部分モルタルの厚さ (t_m) 標準寸法 t_m=50mm 許容範囲 30 ≤ t_m ≤ 70mm

ベースプレート周辺のモルタル幅 (e_m) e_m ≥ 30mm 許容範囲 e_m ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (L_t) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

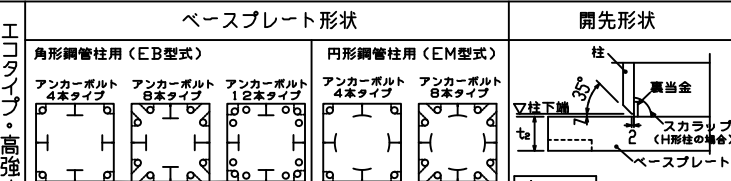
工場加工

1. 溶接材料

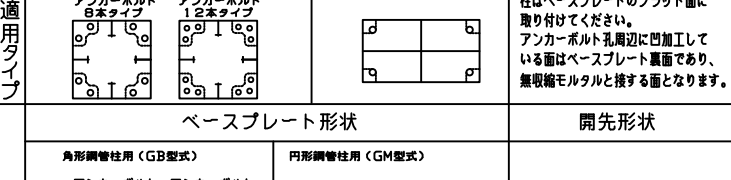
被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従って選定する (低水素系)
ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従って選定する
※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従って溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、G-C-TL-1Bによる ※開先形状は参考

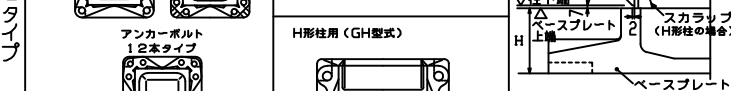


注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

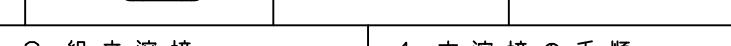


注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

3. 組立溶接



4. 本溶接の手順



予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱変形によって曲がる場合があります。

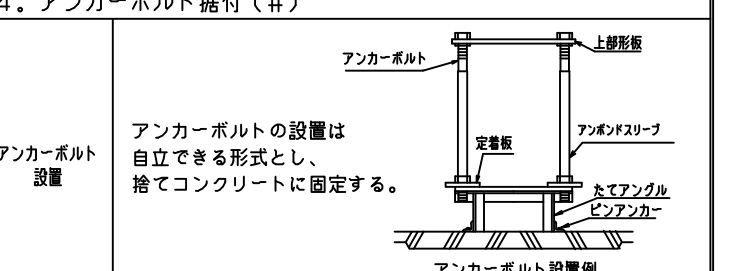
6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。

不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

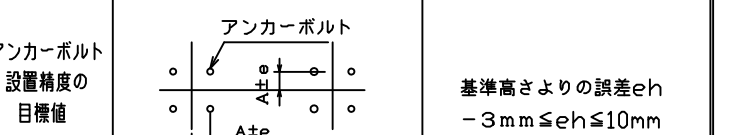
現場施工

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げます。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (＃)
4. アンカーボルト据付 (＃)



アンカーボルト設置例 (架台の形状は異なる場合があります)

アンカーボルト設置精度の目標値

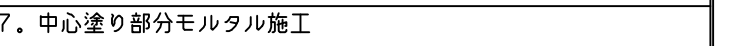


基準高さよりの誤差 e_h
 $-3 \text{ mm} \leq e_h \leq 10 \text{ mm}$

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工



ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
注入方法はヘッド圧工法による

※ セクシアが供給するものに限り

(イ) □ 250以下、φ267.4以下、H250以下の場合
100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D 以下

(ロ) □ 300以上φ700以下、φ300以上φ711.2以下、および H250以上の場合
150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D 以下

(ハ) □ 750~φ1200、φ750~φ1016の場合
300mm ≤ a ≤ 500mm

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH,KB型式 GH型式

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (＃)

後詰めモルタル充填 (＃)
アンカーボルト締付確認 (＃)
ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

10. アンカーボルト締付 (＃)

予備締め
マーキング
ナット回転法による本締め
(30°回転、許容差: +10°
-0°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

セクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411
中部 TEL 052-582-3356
北陸 TEL 076-233-5260

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

関西 TEL 06-6395-2133
中国四国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、セクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずりやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

大臣認定 MSTL-0566,0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
BCJ認定 MBLT-0042-0044,0046,0231 (アンカーボルトセット)
BCJ認定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ認定-ST0059 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ)

アンカーボルト認定番号の変更

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
関係図 JASS 5 鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質
(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
Eコタイプ (E B型式、EM型式、EH型式)、高強度柱適用タイプ (KB型式)

Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for various components like base plates and nuts.

Eコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはEコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for G-type components.

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566,0404,0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042-0044,0046,0231)
※3 M72は軸目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後 詰め モルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
中心塗部分モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
鉄 筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱 形 ヘリあり量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法
Eコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品

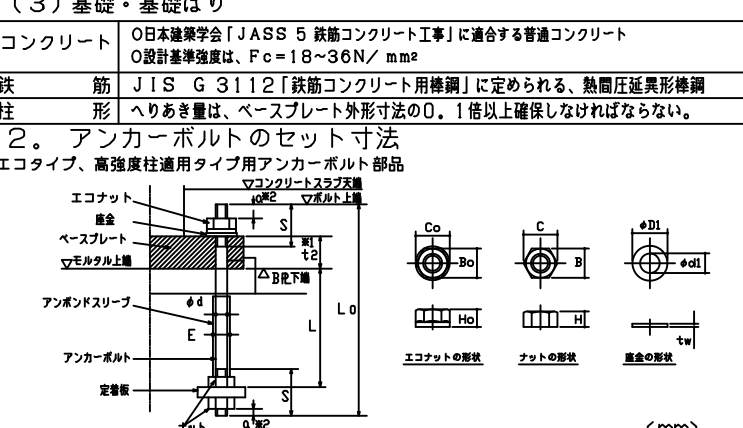
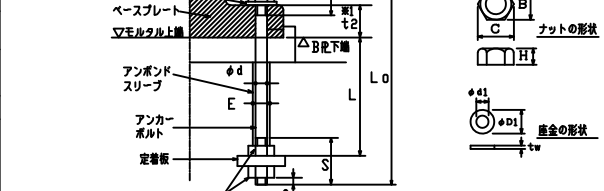


Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for E-type anchor bolts.

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※3 表中のエコタイプ上段はE B、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、Eコタイプ下段はE B、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

注意
Eコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておきますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
アンカーボルト上部には必ずEコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品
ナット、アンボンドスリーブ、ベースプレート、アンボンドスリーブ、アンカーボルト、定着板



アンボンドスリーブ、ナットの形状、座金の形状

Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for G-type components.

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※3 上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

注意
Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for base plate hole diameters.

定着板 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通) (mm)

Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for plate dimensions.

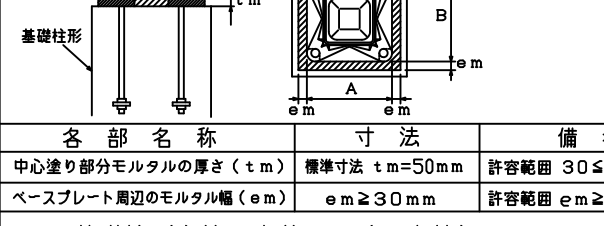
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



Table with columns for specifications (規格), types (ねじの種類), and remarks (備考) for mortar dimensions.

4. 基礎柱主筋の定着長さ (最小値)



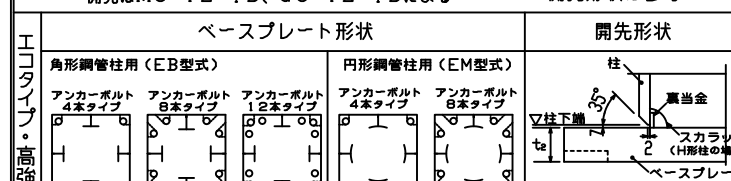
基礎柱主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

1. 溶接材料
被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取り付け (柱端部に開先を設ける)
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1 B、GC-TL-1 Bによる ※開先形状は参考

ベースプレート形状 開先形状
角形鋼管柱用 (E B型式) 円形鋼管柱用 (E M型式)



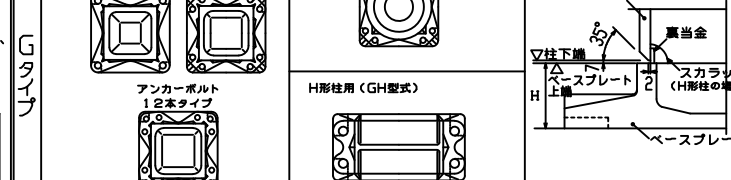
注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

ベースプレート形状 開先形状
角形鋼管柱用 (G B型式) 円形鋼管柱用 (G M型式)



注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

3. 組立溶接 4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般
予 熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余 盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

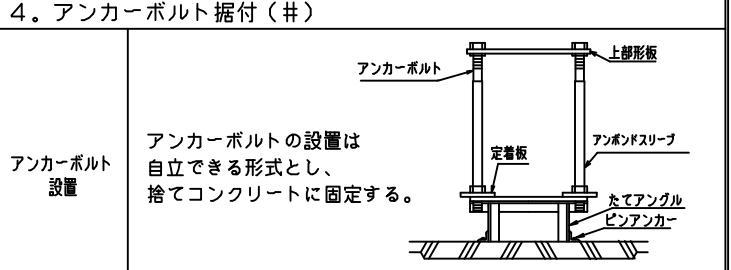
H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

注意
柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がる場合があります。

6. 検 査
方 法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。
探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

(#): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (#)
4. アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルト設置
アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

アンカーボルト設置例 (架台の形状は異なる場合あり)

アンカーボルト設置精度の目標値
e ≤ 3mm (形板芯にて検査)

基準高さよりの誤差eh -3mm ≤ eh ≤ 10mm

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
6. 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
7. 中心塗り部分モルタル施工

ベースプレート 中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。
後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
注入方法はヘッド圧工法による。
※センクシアが供給するものに限る

(イ) □ 250以下、φ267.4以下、H250以下の場合 100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D 以下
(ロ) □ 300以上φ700以下、φ300以上φ711.2以下、および H250以上の場合 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D 以下
(ハ) □ 750~□1200、φ750~φ1016の場合 300mm ≤ a ≤ 500mm

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH,KB型式 GH型式

8. 鉄骨建方
アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。
9. モルタル注入枠設置 (#)
後詰めモルタル充填 (#)
10. アンカーボルト締付 (#)
予備締め
マーキング
ナット回転法による本締め
(30°回転、許容差: ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずりやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

ハイベースNEO工法LBタイプ設計施工標準 (S造及びCFT造に適用)

2025/3

工場加工

現場施工

(#): センクシアの担当範囲

大臣認定 MBLT-0042~0044,0046,0231 (アンカー用ボルトセット) アンカーボルト認定番号の変更
BCJ認定 BCJ認定-ST0059 (LBタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書、同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックおよびLBタイプ設計ガイドブックに準拠する。

設計

1. 材質
(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
LBタイプ

	ベースプレート	アンカーボルト ^{※1}	ナット ^{※1}	座金 ^{※1}	定着板
規格	JIS G3136	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044,0046,0231)
※2 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

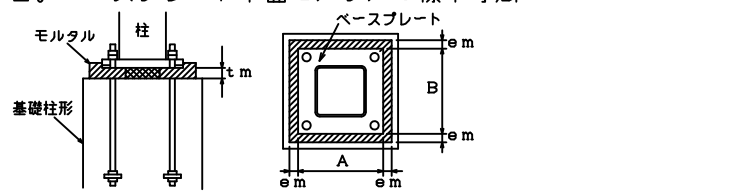
(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

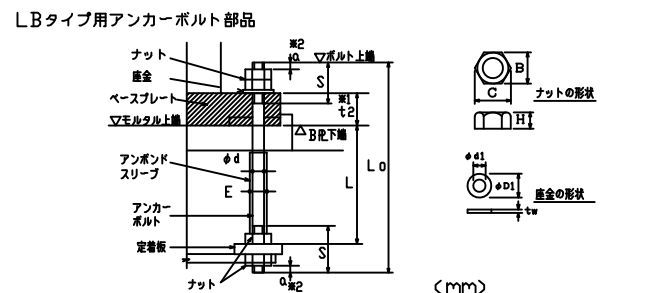
コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	em ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

3. アンカーボルトのセット寸法
LBタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金					
	軸径	長さ	長さ	長さ	高さ	幅	厚さ	内径				
M24	24	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	150	16	720	955	41	29	55	64	6	37	66

※1 t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって異なります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。

△注意
・LBタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としています。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるめ止め措置が必要です。
・一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

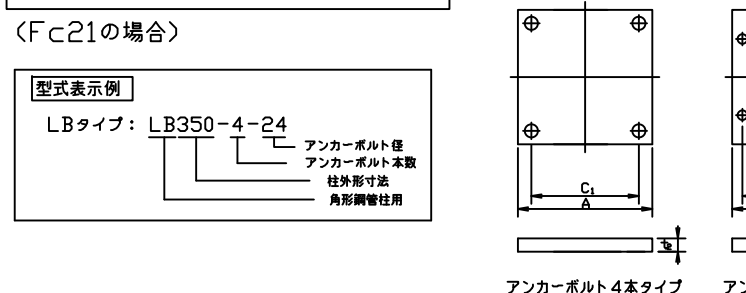
ねじの呼び	M24	M30	M36
LBタイプ孔径	30	38	45

定着板 (LBタイプ) (mm)

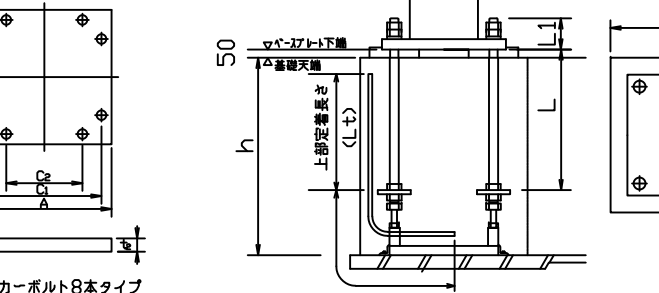
ねじの呼び	4本タイプ用			8本タイプ用		
	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅
M24	16	70	27	—	—	—
M30	16	90	33	9	180	65
M36	19	100	39	—	—	—

ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法LBタイプ設計ガイドブックを参照ください。

各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合)



ベースプレート寸法 L, L1, h, b寸法、柱形主筋の定着長さ (Lt)



採用柱符号	適用柱		型式名	アンカーボルト	回転バネ定数 10 ¹⁰ kN・m/rad	寸法				質量(kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎天端~ 柱コン天端 h(mm)	Iゾーン			鉄筋の定着長さ Lt (mm)		
	柱径	板厚範囲				A	C1	C2	t	ベースプレート	部品	外重量				主筋	帯筋	柱形b(mm)		主筋	帯筋
□300	6~22	LB300-4-24	4-M24	56.5	440	360	-	32	49	19	68	480	93	700以上	650	8-D19(SD345)	D13@150(SD295)	650	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	230
□400	9~32	LB400-4-30	4-M30	128	560	470	-	40	98	33	131	600	114	800以上	760	8-D22(SD345)	D13@150(SD295)	760	12-D22(SD345)	D13@150(SD295)	310
□500	9~40	LB500-8-30	8-M30	258	700	610	440	48	185	58	243	600	122	800以上	900	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	900	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	480

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。
表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。

注1) I, Iゾーン分けについてはハイベースNEO工法LBタイプ設計ガイドブックをご参照下さい。
注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。
立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに使い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行ってください。

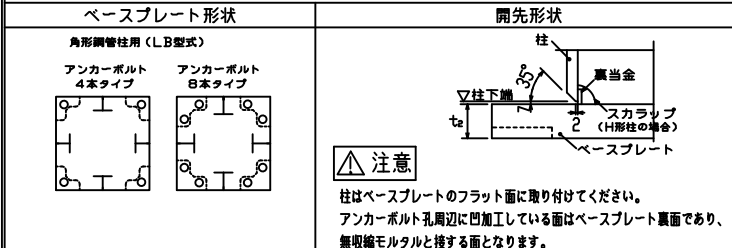
注3) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

1. 溶接材料
被覆アーク溶接 低水素系490N/mm² 級高強度鋼 (JIS Z3211, JBIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び490N/mm² 級高強度鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上
※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



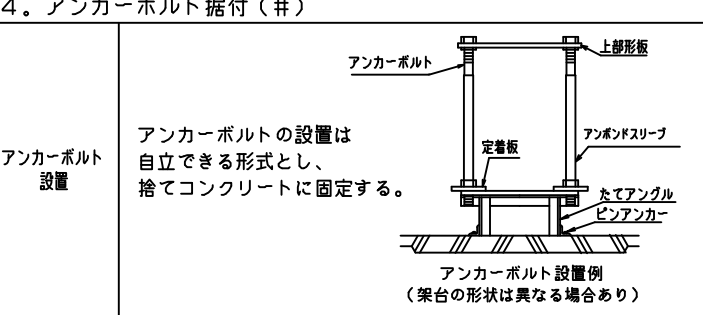
3. 組立溶接
角形鋼管 組立溶接 柱フランジ

4. 本溶接の手順
対辺ごとに溶接を行う。
3 (自動ロボット溶接の場合はこれによらない)

5. 溶接施工一般
予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛 T継手余盛り高さに準拠する。
△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱変形によって曲がる場合があります。

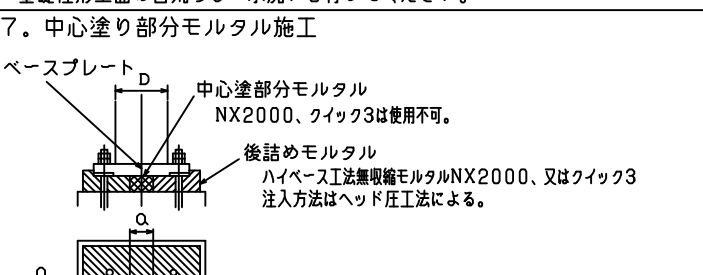
6. 検査
方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。
探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (#)
4. アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルト設置精度の目標値
平面 基準高さよりの誤差 eh -3mm ≤ eh ≤ 10mm
レベル e ≤ 3mm (形板芯にて検査)

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
6. 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。



7. 中心塗り部分モルタル施工
ベースプレート 中心塗部分モルタル NX2000、クイック3は使用不可。
後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3 注入方法はヘッド圧工法による。
□ 300以上550以下 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D以下
中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方
アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9~10. モルタル注入枠設置 (#)
後詰めモルタル充填 (#)
アンカーボルト締付確認 (#)
ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

11. モルタル注入枠取り外し
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

△注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

シアコッターハイベース工法設計施工標準 (シアコッターハイベース工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/3

大臣認定 MBLT-0042~0044,0046,0231 (アンカー用ボルトセット) **アンカーボルト認定番号の変更**
 BCJ評定 BCJ評定-ST0289

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超 降伏比 70%以下	—	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044,0046,0231)
 ※2 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

中心塗り部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

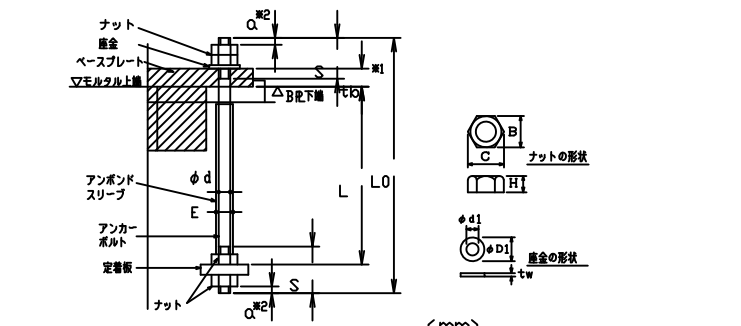
コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼 鉄筋はモルタルとかぶり確保しなければならない。

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

基礎梁 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金					
	軸径	長さ	長さ	長さ	高さ	対角距離	厚さ	内径				
M36	36	150	16	720	955	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	165	18	840	1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	190	22	960	1270	54	38	75	87	9	50	92

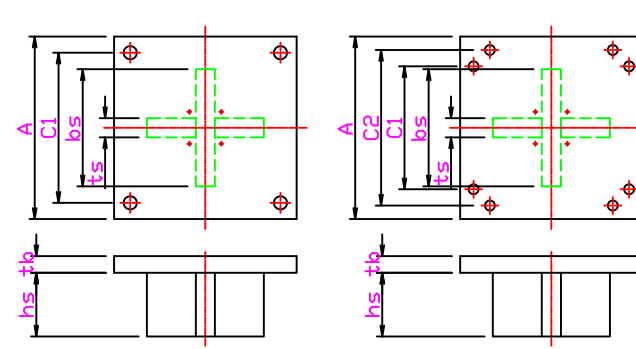
※1 t_b はベースプレート台座厚さを示し、シアコッターハイベース型式によって変わります。
 ※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余量を確保してください。

注意

- 二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
- 一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ねじの呼び	4本タイプ用		8本タイプ用	
	長さ	幅	長さ	幅
M36	19	100	39	9
M42	—	—	—	—
M48	25	140	52	—

3. ベースプレート寸法

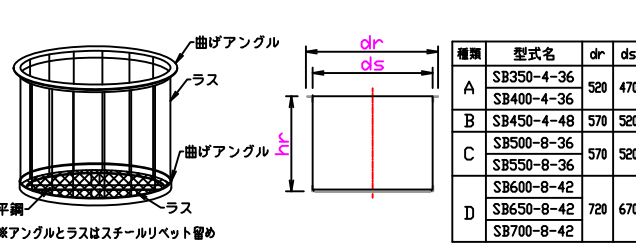


型式名	A	C1	C2	tb	ts	bs	hs
SB350-4-36	580	450	—	50	50	350	150
SB400-4-36	630	500	—	50	50	400	150
SB450-4-48	720	570	—	65	65	400	250
SB500-8-36	740	620	420	50	65	400	250
SB550-8-36	790	670	470	50	65	400	250
SB600-8-42	840	730	510	60	85	550	250
SB650-8-42	890	780	560	60	85	550	250
SB700-8-42	940	830	610	60	85	550	250

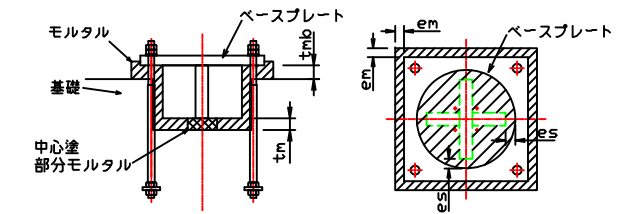
ベースプレートのアンカーボルト孔径

ねじの呼び	M36	M42	M48
孔径	45	53	61

4. ラス止め枠の構成、寸法

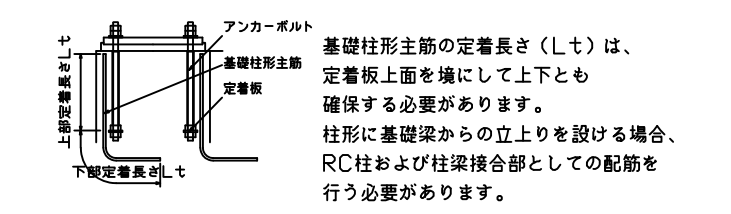


5. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (tm)	標準寸法 $t_m = 50 \text{ mm}$	許容範囲 $20 \leq t_m \leq 60 \text{ mm}$
ベースプレート底面~基礎天距離 (tmb)	標準寸法 $t_{mb} = 50 \text{ mm}$	許容範囲 $30 \leq t_{mb} \leq 70 \text{ mm}$
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	$e_m \geq 30 \text{ mm}$	許容範囲 $e_m \geq 25 \text{ mm}$
シアコッター周辺のモルタル幅 (es)	標準寸法 $e_s = 60 \text{ mm}$	許容範囲 $30 \leq e_s \leq 70 \text{ mm}$

6. 基礎柱形主筋の定着長さ

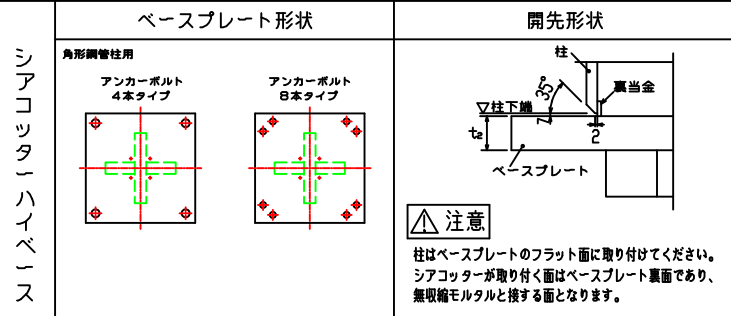


基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。柱形に基礎梁からの立上りを設ける場合、RC柱および柱梁接合部としての配筋を行う必要があります。

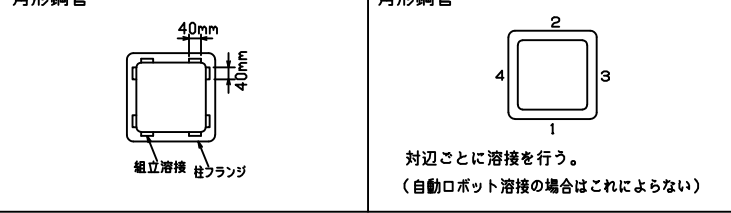
工場加工

1. 溶接材料
 被覆アーク溶接 低水素系490N/mm² 級高強度鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
 ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び490N/mm² 級高強度鋼用アーク溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上
 ※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



3. 組立溶接



4. 本溶接の手順

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
 余盛 余盛高さは、T継手余盛り高さに準拠する。

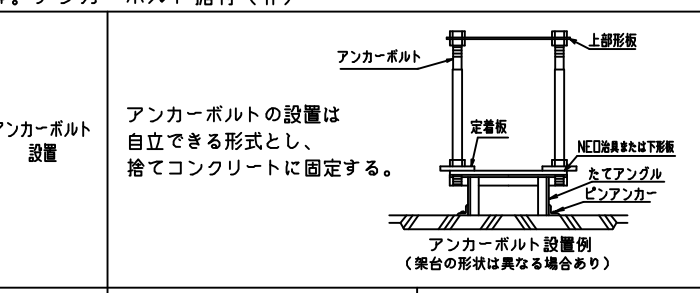
6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
 不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工 (＃): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
 2. 墨出し

3. アンカーボルト搬入 (＃)



4. アンカーボルト据付 (＃)

アンカーボルト設置精度の目標値
 平面 $A \pm e$
 レベル $-3 \text{ mm} \leq e_h \leq 10 \text{ mm}$

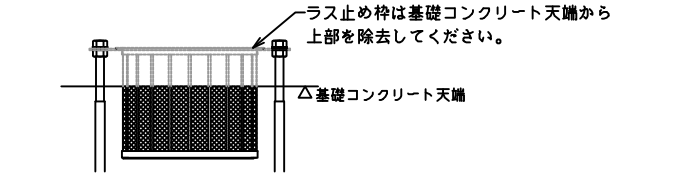
5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

鉄筋の配筋時、ラス止め枠設置位置に鉄筋を設置しないようにしてください。

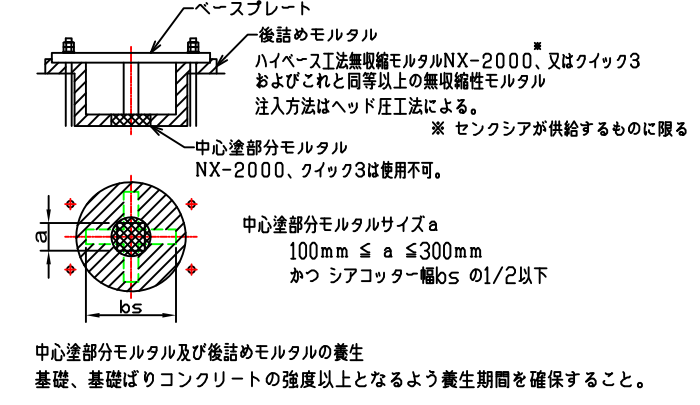
6. アンカーボルト調整、ラス止め枠設置 (＃)

7. 基礎コンクリート打設 基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。コンクリートの打設は、型押しにならないよう行ってください。

8. 上部形板、ラス止め枠、ターンバックル撤去



9. 中心塗り部分モルタル施工



10. 鉄骨建方、アンカーボルト締付

アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

11~12. モルタル注入枠設置、後詰めモルタル充填 (＃)

アンカーボルト締付確認 (＃) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。
 13. モルタル注入枠取り外し 施工完了後、シアコッターハイベース工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社 URL <https://www.senqcia.co.jp/>
 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

注意
 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
 3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
 4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、シアコッターハイベースの性能が発揮できなくなります。

シアコッターハイベース工法設計施工標準 (シアコッターハイベース工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/3

大臣認定 MBLT-0042~0044,0046,0231 (アンカー用ボルトセット) アンカーボルト認定番号の変更

BCJ評定 BCJ評定-ST0289

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびシアコッターハイベースカタログに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般鋼適用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	強度区分5	SM490A

※1 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044,0046,0231)
 ※2 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

中心塗部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

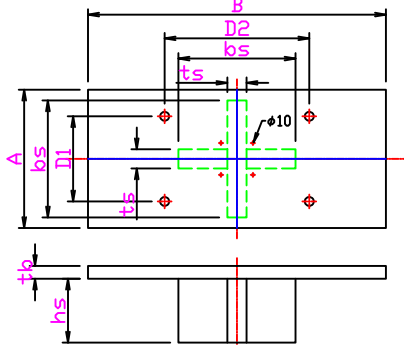
コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒。鉄筋はモルタルとのかぶりを確保しなければならない。

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

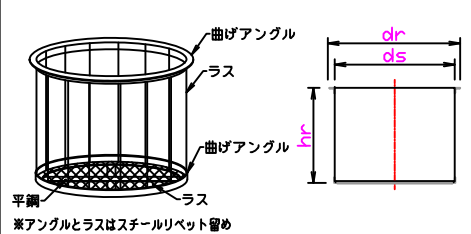
基礎梁 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

3. ベースプレート寸法



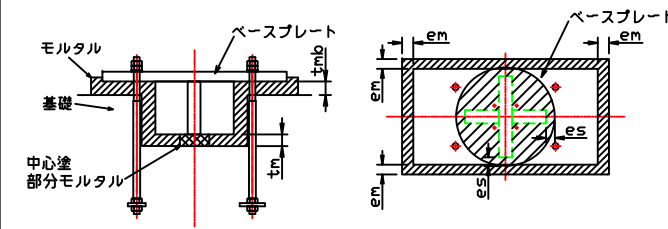
型式名	A	B	D1	D2	tb	ts	bs	hs
SV470x850-4-24	470	850	350	500	40	50	350	150
SV520x900-4-24	520	900	350	550	40	60	350	200
SV570x950-4-30	570	950	400	600	50	60	400	250
SV570x950-4-36	570	950	400	600	60	60	400	250
SV620x1050-4-30	620	1050	400	700	50	70	450	250
SV620x1050-4-42	620	1050	400	700	70	70	450	250
SV670x1100-4-30	670	1100	400	700	50	80	500	250
SV670x1100-4-36	670	1100	400	700	60	85	500	300
SV670x1100-4-48	670	1100	400	700	80	85	500	300
SV670x1150-4-36	670	1150	450	750	60	90	550	300
SV670x1150-4-48	670	1150	450	750	80	90	550	300
SV720x1200-4-36	720	1200	450	750	60	95	550	350
SV720x1200-4-48	720	1200	450	750	80	95	550	350

4. ラス止め枠の構成、寸法



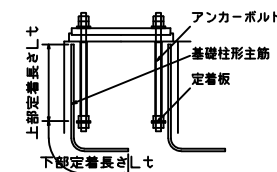
型式名	dr	ds	hr
SV470x850-4-24	520	470	289
SV520x900-4-24	520	470	339
SV570x950-4-30	570	520	407
SV570x950-4-36	570	520	425
SV620x1050-4-30	620	570	407
SV620x1050-4-42	620	570	442
SV670x1100-4-30	670	620	407
SV670x1100-4-36	670	620	475
SV670x1100-4-48	670	620	510
SV670x1150-4-36	720	670	475
SV670x1150-4-48	720	670	510
SV720x1200-4-36	720	670	525
SV720x1200-4-48	720	670	560

5. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗部分モルタルの厚さ (tm)	標準寸法 $t_m = 50 \text{ mm}$	許容範囲 $20 \leq t_m \leq 60 \text{ mm}$
ベースプレート底面～基礎天距離 (tmb)	標準寸法 $t_{mb} = 50 \text{ mm}$	許容範囲 $30 \leq t_{mb} \leq 70 \text{ mm}$
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	$e_m \geq 30 \text{ mm}$	許容範囲 $e_m \geq 25 \text{ mm}$
シアコッター周辺のモルタル幅 (es)	標準寸法 $e_s = 60 \text{ mm}$	許容範囲 $30 \leq e_s \leq 70 \text{ mm}$

6. 基礎柱形主筋の定着長さ (柱形を設ける場合)

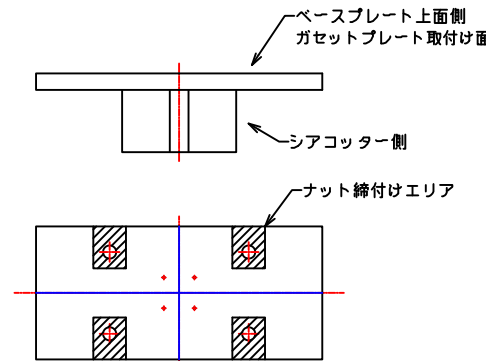


基礎柱形主筋の定着長さ (L_t) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。柱形に基礎梁からの立上りを設ける場合、RC柱および柱梁接合部としての配筋を行う必要があります。

工場加工

1. ベースプレートへのガセットプレートの取付け

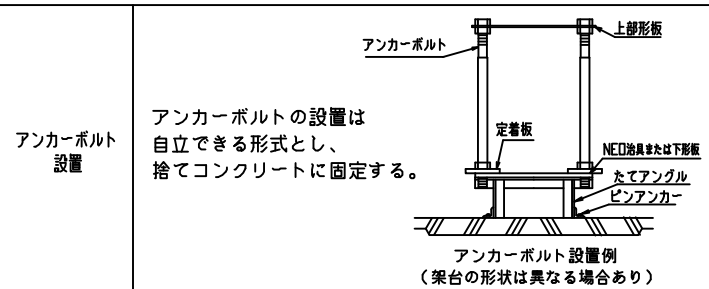
ベースプレートへのガセットプレート等の溶接はJASS6等の指針に従う。
 ※ガセットプレートに高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。
 ※ベースプレート上面のナット締付けに必要なエリアにはガセットプレート等を取り付けないでください。
 ※ベースプレート側面及びシアコッター側には溶接をしないで下さい。



現場施工

(#): センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)



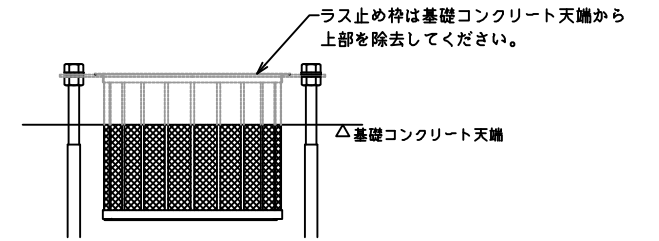
	平面	レベル
アンカーボルト設置精度の目標値	$e \leq 3 \text{ mm}$ (形板芯にて検査)	基準高さよりの誤差 eh $-3 \text{ mm} \leq eh \leq 10 \text{ mm}$

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
鉄筋の配筋時、ラス止め枠設置位置に鉄筋を設置しないようにしてください。

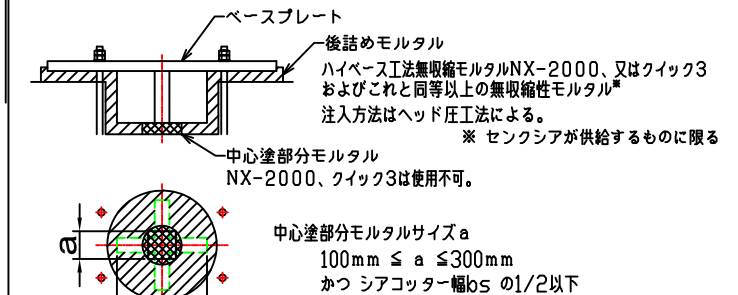
6. アンカーボルト調整、ラス止め枠設置 (#)

7. 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
コンクリートの打設は、型押しにならないよう行ってください。

8. 上部形板、ラス止め枠、ターンバックル撤去



9. 中心塗部分モルタル施工



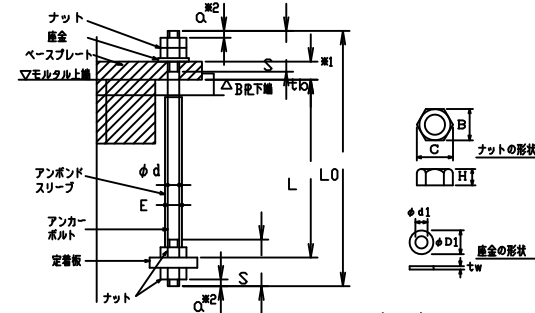
中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

10. 鉄骨建方
アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

11~12. モルタル注入枠設置 (#)
後詰めモルタル充填 (#)
アンカーボルト締付確認 (#)
ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

13. モルタル注入枠取り外し
施工完了後、シアコッターハイベース工法のチェックシートに
工事記録を記載する。

2. アンカーボルトのセット寸法



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金		
	軸径	長さ	長さ	高さ	対面幅	厚さ	内径	外径	
M24	24	105	10	480	645	29	19	36	42
M30	30	130	13	600	800	35	24	46	53
M36	36	150	16	720	955	41	29	55	64
M42	42	165	18	840	1110	48	34	65	75
M48	48	190	22	960	1270	54	38	75	87

※1 t_b はベースプレート台座厚さを示し、シアコッターハイベース型式によって変わります。

※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。

注意
 ・二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
 (一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)					定着板 (mm)				
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	ねじの呼び	4本タイプ用	厚さ	外径
孔径	30	38	45	53	61	M24	16	70	27
						M30	16	90	33
						M36	19	100	39
						M42	22	120	45
						M48	25	140	52

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
 札幌 TEL 011-708-1177
 東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411
 中部 TEL 052-582-3356
 北陸 TEL 076-233-5260

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

関西 TEL 06-6395-2133
 中四国 TEL 082-240-1630
 九州 TEL 092-452-0341

注意

- アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
- アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
- 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
- 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
- 本資料以外の施工方法で行った場合、シアコッターハイベースの性能が発揮できなくなります。

スーパーハイベース工法設計施工標準

大臣認定 MBLT-0042~0044,0046,0231 (アンカーボルト) **アンカーボルト認定番号の変更**
 MSTL-0566 (ハイベース)
 BCJ評定 BCJ評定-ST0058

(本工法は、S造およびCFT構造に適用)

2025/3

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法・スーパーハイベース工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ハイベース・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ハイベース	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490B (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106 ※2	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	メーカ指定 (CかつH) 規格品 (CかつH)	SM490A	SS400

※1 鋼材強度認定 (MSTL-0566) ※2 鋼材強度認定 (MBLT-0042~0044,0046,0231) ※3 M72相当品

(2) ハイベース下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3
 およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※ センクシアが供給するものに限る

中心塗部分モルタル O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル
 (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
 O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

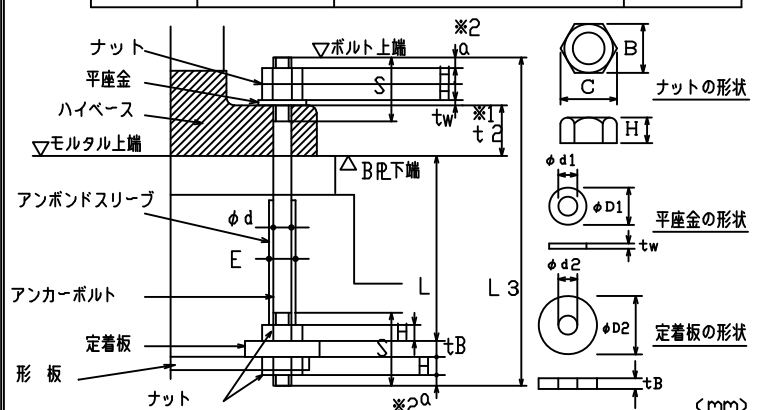
コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート。
 O設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$ 以上

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
 ヘリあき量は、ハイベース外形寸法の0.065倍(0.1倍)以上
 確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

【注意】 ボルト本数はハイベースの型式によって異なります。

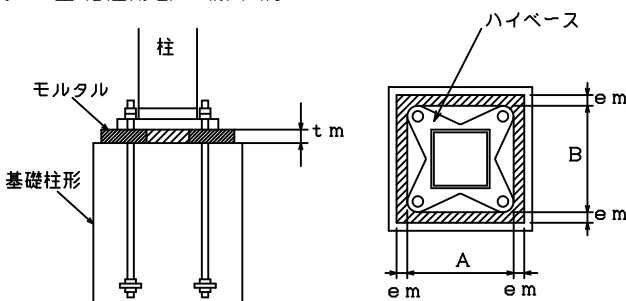
型式	C1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12
形状例			



軸径	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット(一種)		平座金		定着板						
	ねじ径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ					
φ24	24	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44	16	27	70
φ30	30	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56	16	33	90
φ36	36	150(130)	16	720	955(925)	41	29	55	64	6	37	66	19	39	100
φ42	42	165(155)	18	840	1110(1080)	48	34	65	75	9	43	78	22	45	120
φ48	48	190(175)	22	960	1270(1235)	54	38	75	87	9	50	92	25	52	140
φ56	56	210(185)	24	1120	1470(1420)	62	45	85	98	9	58	105	28	60	160
φ64	64	230(200)	28	1280	1660(1610)	70	51	95	110	12	66	115	32	68	180
φ72	72	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125	36	76	200

※1 t2 はハイベース台座厚さを示し、ハイベース型 式によって変わります。
 ※2 a 寸法は、ハイベース台座の厚さによって多少変動しますが、本数値以上確保下さい。
 ※3 ()内は、B C型の数値を示します。 ※B C型はシングルナット仕様とする。
 ・アンカーボルトは二重ナットを標準としています。一重ナットでも適用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め措置をお願いします。
 (一重ナットとする場合は、センクシアにご相談下さい。)

3. 基礎柱形部の標準納まり



各部分名称	寸法制限	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (tm)	標準寸法 tm=50mm	許容範囲 30 ≤ tm ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	em ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

工場加工

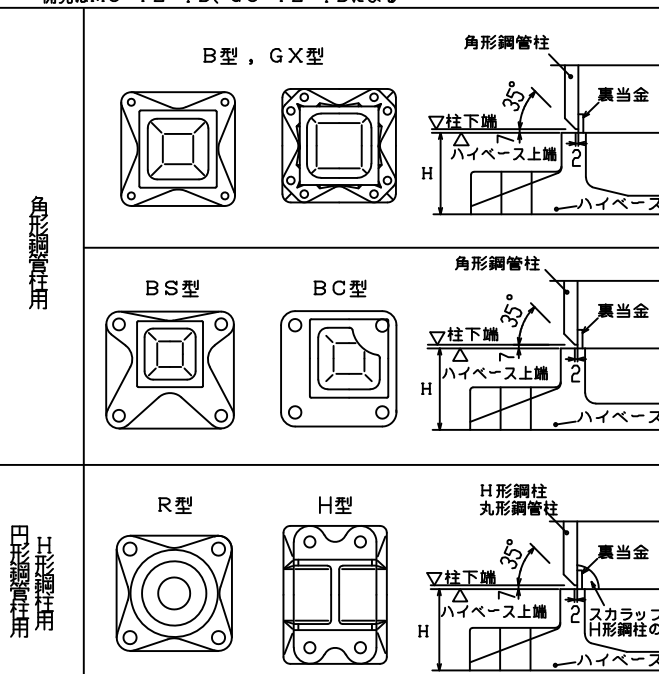
1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm ² 級高強度鋼用 (JIS Z3211、JBIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm ² 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ハイベースの鉄骨柱への取付け(柱端部に開先を設ける。)

※ 柱とハイベースの溶接は、完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる 【注意】 開先形状は参考



センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
 札幌 TEL 011-708-1177
 東北 TEL 022-213-5595
 関東 TEL 027-322-9411
 中部 TEL 052-582-3356
 北陸 TEL 076-233-5260
 関西 TEL 06-6395-2133
 中国 TEL 082-240-1630
 九州 TEL 092-452-0341

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

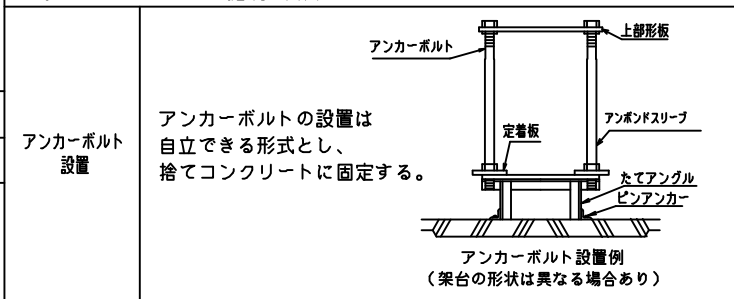


【注意】 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締付け、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務づけられています。)
 2. 本資料以外の施工方法で行った場合、スーパーハイベースの性能が発揮できなくなります。

現場施工

(#): センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入(#)
- アンカーボルト据付(#)



アンカーボルト設置精度の目標値	平面	レベル
		基準高さよりの誤差eh -3mm ≤ eh ≤ 10mm

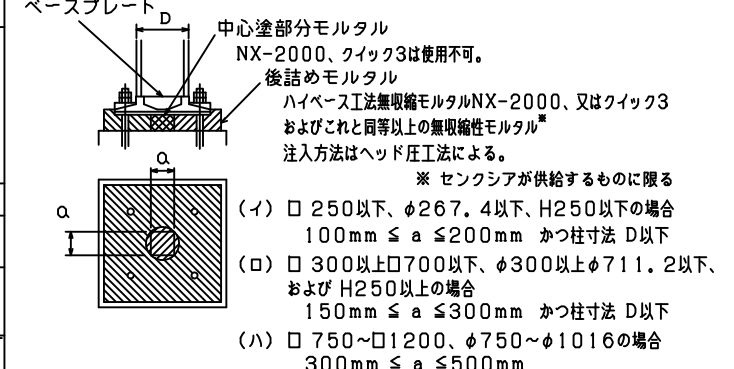
(形板芯にて検査)

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方

9. モルタル注入枠設置(#) 後詰めモルタル充填(#)

10. アンカーボルト締付け(#)

予備締め → マーキング → ナット回転法による本締め
 (30°回転、許容差: ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、スーパーハイベース工法のチェックシートに工事記録を記載する。

大臣認定 MSLT-0566,0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042~0046 (アンカーボルトセット)
 BCJ認定 ST0058 (Gタイプ)
 BCJ認定 ST0059 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計施工ハンドブックに準拠する。

2023/12 高強度柱適用タイプ(KB型式)を追加

1. 材質
 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
 Eコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式) 高強度柱適用タイプ (KB型式)

規格	ベースプレート Eコタイプ 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト HAB (大臣認定取得材)	エコナット Eコナット (大臣認定取得材)	ナット JIS B1181 (六角ナット)	座金 JIS G3106	定着板 JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B,C	TMCP385B,C 降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

Eコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。
 Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

規格	ベースプレート Eコタイプ 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト HAB (大臣認定取得材)	ナット JIS B1181 (六角ナット)	座金 JIS G3106	定着板 JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5 (二重ナット時) 強度区分6 (一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSLT-0566, 0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)
 ※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル*
 * センクシアが供給するものに限る

中心塗部分モルタル
 O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
 O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

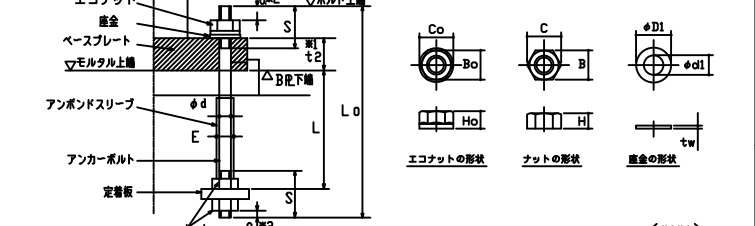
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
 O設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

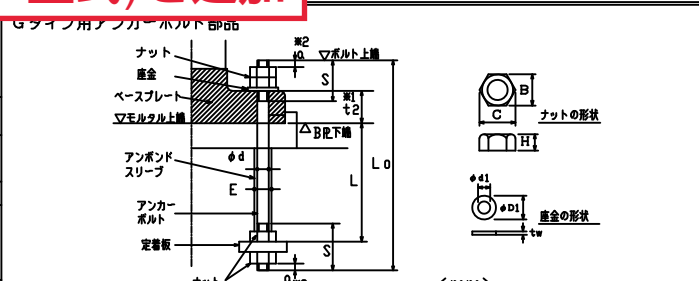
2. アンカーボルトのセット寸法
 Eコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ
M24	24	30	10	10	10	10	10	10	10	10
M30	30	35	13	13	13	13	13	13	13	13
M36	36	40	16	16	16	16	16	16	16	16
M42	42	45	18	18	18	18	18	18	18	18
M48	48	50	20	20	20	20	20	20	20	20
M56	56	55	24	24	24	24	24	24	24	24
M64	64	60	28	28	28	28	28	28	28	28
M72	72	65	30	30	30	30	30	30	30	30

※1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 ※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
 施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 ※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、Eコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

△注意
 ・Eコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしており、ゆるみ止め効果としてコンクリートスラブで確保してください。
 ・コンクリートによる破壊を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め効果が必要です。
 ・その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
 ・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金	
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	
M24	24	30	10	10	10	10	10	
M30	30	35	13	13	13	13	13	
M36	36	40	16	16	16	16	16	
M42	42	45	18	18	18	18	18	
M48	48	50	20	20	20	20	20	
M56	56	55	24	24	24	24	24	
M64	64	60	28	28	28	28	28	
M72	72	65	30	30	30	30	30	

△注意
 ・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め効果が必要です。
 ・(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔徑 (mm)

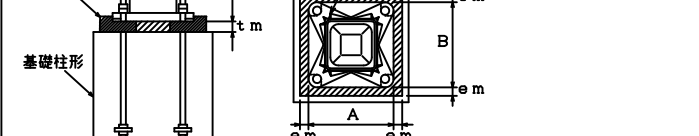
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
Eコタイプ	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔徑	-	38	45	53	61	70	79	87

定着板 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通)

ねじの呼び	4本タイプ用		8本タイプ用		12本タイプ用	
	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅
M24	16	70	27	-	-	-
M30	16	90	33	9	180	65
M36	19	100	39	9	215	75
M42	22	120	45	9	240	85
M48	25	140	52	9	270	95
M56	28	160	60	9	305	110
M64	32	180	68	12	330	130
M72	-	-	-	16	380	145

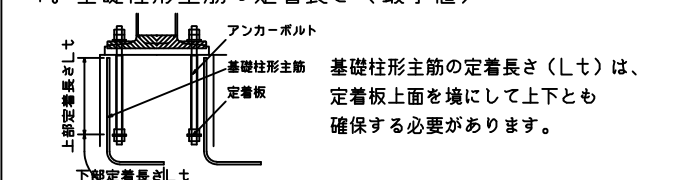
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計施工ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部分名称	寸法	備考
中心塗部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)

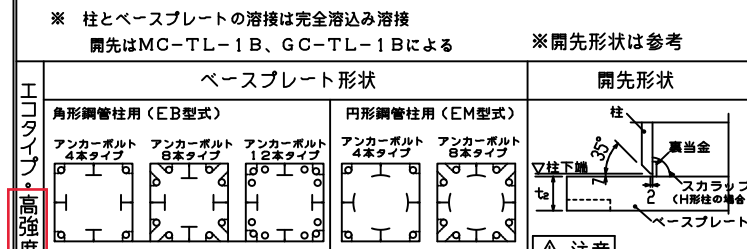


基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面に境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

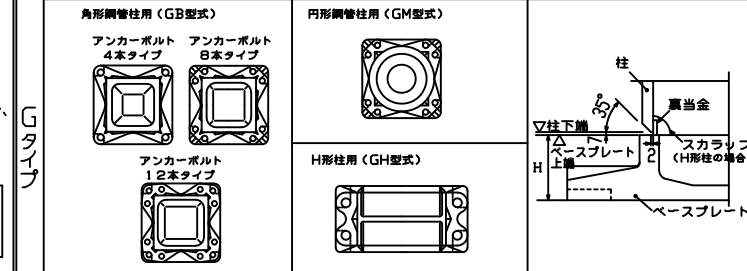
1. 溶接材料
 被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
 ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
 ※ベースプレートと柱のF値異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考

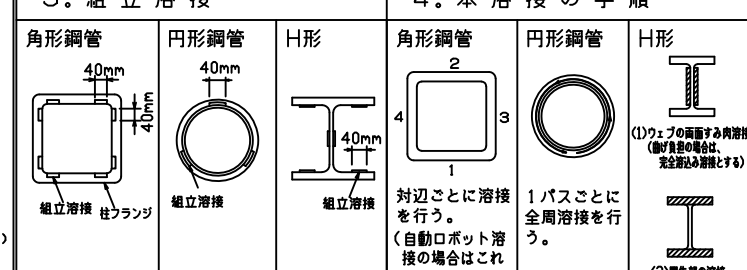


△注意
 柱はベースプレートのフラツト面に取付けてください。
 アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

3. 組立溶接



4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱によって曲ることがあります。

6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。

不良溶接部の補正
 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

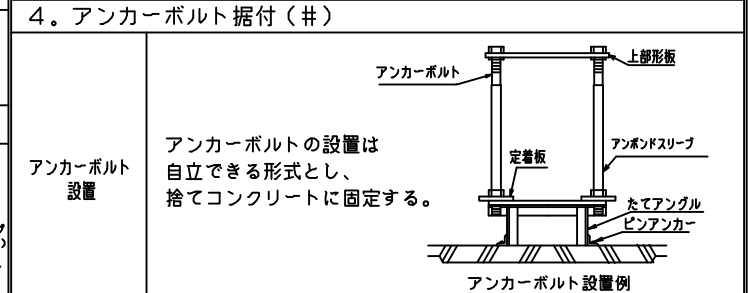
現場施工 (※): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

2. 墨出し

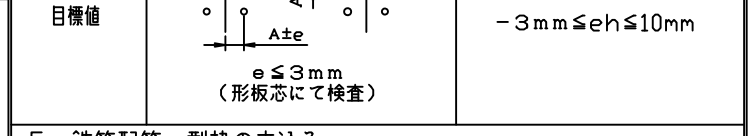
3. アンカーボルト搬入 (＃)

4. アンカーボルト据付 (＃)



アンカーボルト設置
 アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

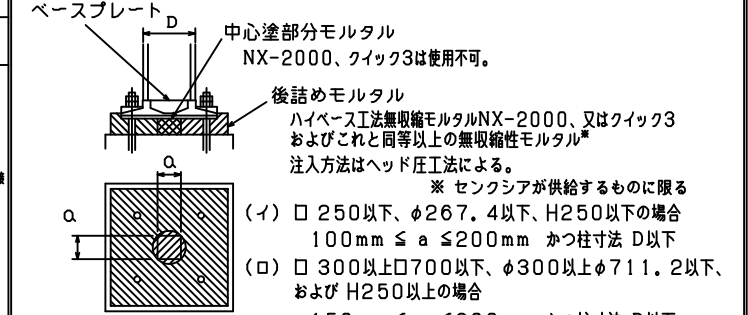
アンカーボルト設置精度の目標値



5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設
 基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗部分モルタル施工



後詰めモルタル
 ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル*
 注入方法はヘッド圧工法による。
 ※ センクシアが供給するものに限る

(イ) □ 250以下、φ 267、4以下、H 250以下の場合
 100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D 以下
 (ロ) □ 300以上φ 700以下、φ 300以上φ 711、2以下、および H 250以上の場合
 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D 以下
 (ハ) □ 750~□ 1200、φ 750~φ 1016の場合
 300mm ≤ a ≤ 500mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方
 アンカーボルト締付
 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (＃)
 後詰めモルタル充填 (＃)

10. アンカーボルト締付 (＃)
 予備締め
 マーキング
 ナット回転法による本締め
 (30°回転、許容差: +10° / -0°)

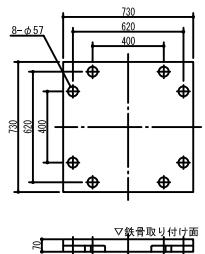
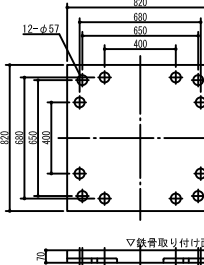
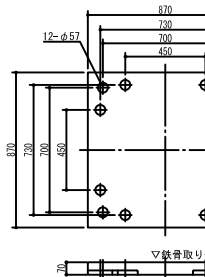
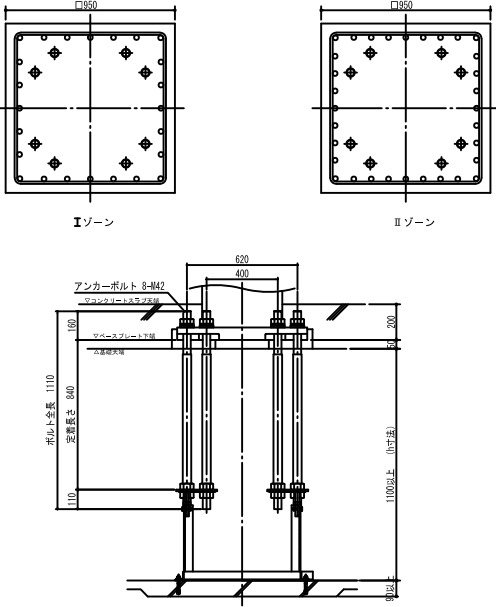
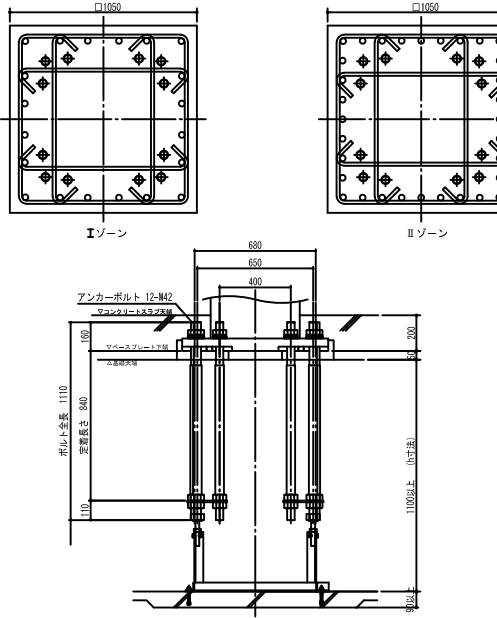
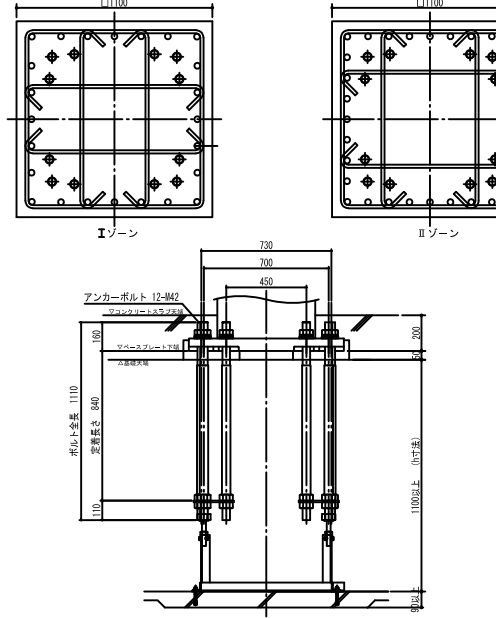
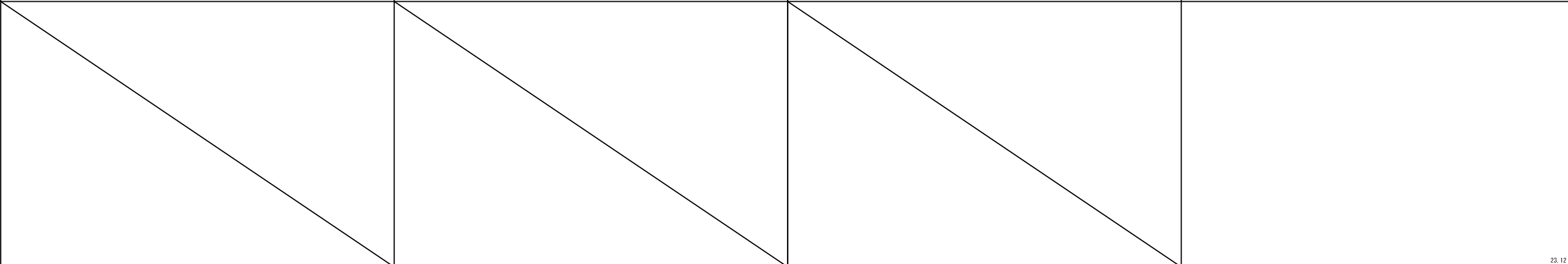
11. モルタル注入枠取り外し

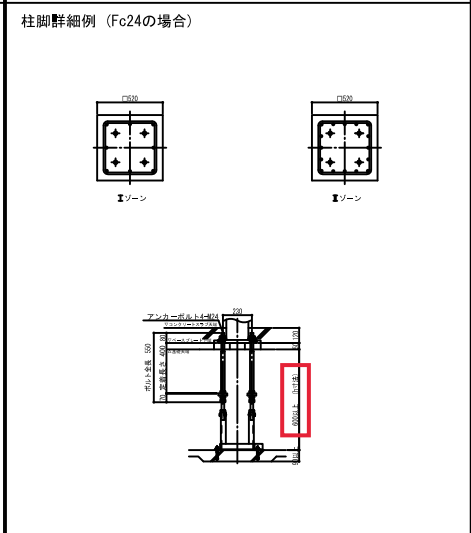
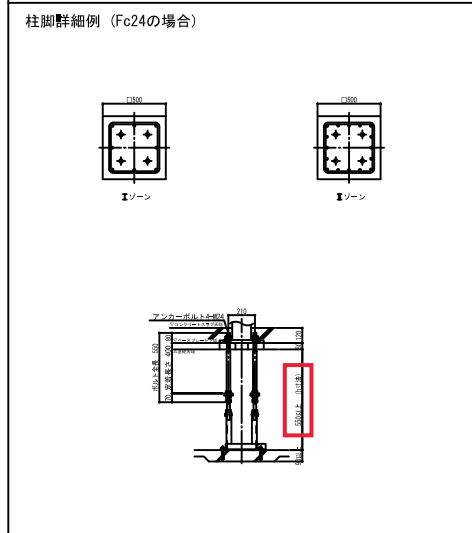
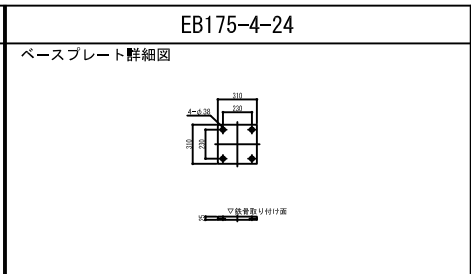
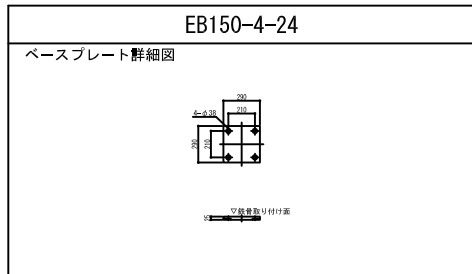
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社 URL <https://www.senqcia.co.jp/>

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

△注意
 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの認定で義務付けられています。)
 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
 3. 設置後のアンカーボルトのねじは打ちきりやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
 4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

KB450-8-42	KB500-12-42	KB550-12-42																																																																																																																															
<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 																																																																																																																															
<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 																																																																																																																															
<table border="1"> <tr> <td>適用柱</td> <td colspan="6">角形鋼管柱 □450 (板厚範囲: 9~40mm)</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td colspan="6">8-M12</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">Iゾーン</td> <td colspan="3">IIゾーン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>950</td> <td>24-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> <td>950</td> <td>32-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>950</td> <td>24-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> <td>950</td> <td>32-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をD13#250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱	角形鋼管柱 □450 (板厚範囲: 9~40mm)						アンカーボルト	8-M12							Iゾーン			IIゾーン				柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	<側・隅柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	<中柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	<table border="1"> <tr> <td>適用柱</td> <td colspan="6">角形鋼管柱 □500 (板厚範囲: 9~40mm)</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td colspan="6">12-M12</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">Iゾーン</td> <td colspan="3">IIゾーン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1050</td> <td>20-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1050</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1050</td> <td>20-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1050</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をD13#250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱	角形鋼管柱 □500 (板厚範囲: 9~40mm)						アンカーボルト	12-M12							Iゾーン			IIゾーン				柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	<側・隅柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	<中柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	<table border="1"> <tr> <td>適用柱</td> <td colspan="6">角形鋼管柱 □550 (板厚範囲: 9~40mm)</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td colspan="6">12-M12</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">Iゾーン</td> <td colspan="3">IIゾーン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1100</td> <td>24-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1100</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1100</td> <td>24-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1100</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をD13#250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱	角形鋼管柱 □550 (板厚範囲: 9~40mm)						アンカーボルト	12-M12							Iゾーン			IIゾーン				柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	<側・隅柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	<中柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	
適用柱	角形鋼管柱 □450 (板厚範囲: 9~40mm)																																																																																																																																
アンカーボルト	8-M12																																																																																																																																
	Iゾーン			IIゾーン																																																																																																																													
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋																																																																																																																											
<側・隅柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)																																																																																																																											
<中柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)																																																																																																																											
適用柱	角形鋼管柱 □500 (板厚範囲: 9~40mm)																																																																																																																																
アンカーボルト	12-M12																																																																																																																																
	Iゾーン			IIゾーン																																																																																																																													
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋																																																																																																																											
<側・隅柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
<中柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
適用柱	角形鋼管柱 □550 (板厚範囲: 9~40mm)																																																																																																																																
アンカーボルト	12-M12																																																																																																																																
	Iゾーン			IIゾーン																																																																																																																													
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋																																																																																																																											
<側・隅柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
<中柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
																																																																																																																																	
<p style="text-align: right;">23. 12</p>																																																																																																																																	



適用柱		角型鋼管柱 □150 (壁厚鋼管4.5~12mm)					
アンカーボルト		4-φ24					
アンカーボルト	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要長さ (L1)	
		基礎柱形主筋	等筋	基礎柱形主筋	等筋		
〈棟・梁柱用〉	500	φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	500	1φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	200
〈中柱用〉	500	φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	500	1φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	200

注1) Iゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中鉄筋量は基礎面上りの場合、基礎より定数と基礎柱が一致する場合の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎面のおおむねφ100として算定しています。おほむね筋間距離がこれより小さくなる場合、おほむね筋間距離がこれより大きくなる場合は、柱径中の鉄筋量として下さい。
 注4) H寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は重中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離は一律です。アンカーボルトは型式物の標準など配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定数長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上筋下筋共通)

適用柱		角型鋼管柱 □175 (壁厚鋼管4.5~12mm)					
アンカーボルト		4-φ24					
アンカーボルト	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要長さ (L1)	
		基礎柱形主筋	等筋	基礎柱形主筋	等筋		
〈棟・梁柱用〉	520	φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	520	1φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	190
〈中柱用〉	520	φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	520	1φ-D16 (S2295)	D13φ150 (S2295)	190

注1) Iゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中鉄筋量は基礎面上りの場合、基礎より定数と基礎柱が一致する場合の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎面のおおむねφ100として算定しています。おほむね筋間距離がこれより小さくなる場合、おほむね筋間距離がこれより大きくなる場合は、柱径中の鉄筋量として下さい。
 注4) H寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は重中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離は一律です。アンカーボルトは型式物の標準など配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定数長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上筋下筋共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外部基礎はりタイプ

おほむね D16	おほむね D19	等筋 D13φ150
はり主筋 2	はり主筋本数	
D16 230~290	2	4
D19 240~290	3	4
D22 240~300	4	3

柱形中心基礎はりタイプ

おほむね D16	おほむね D19	等筋 D13φ150
はり主筋 2	はり主筋本数	
D16 230~290	2	3
D19 240~290	3	4
D22 240~300	4	5

注1) 上野柱主筋について、柱主筋はIゾーンの鉄筋量です。
 鉄筋上、IIゾーンの鉄筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

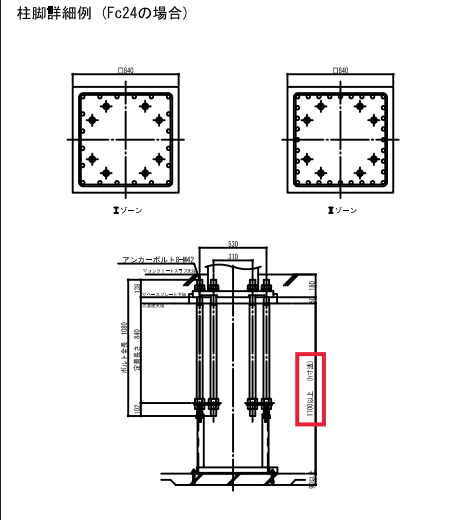
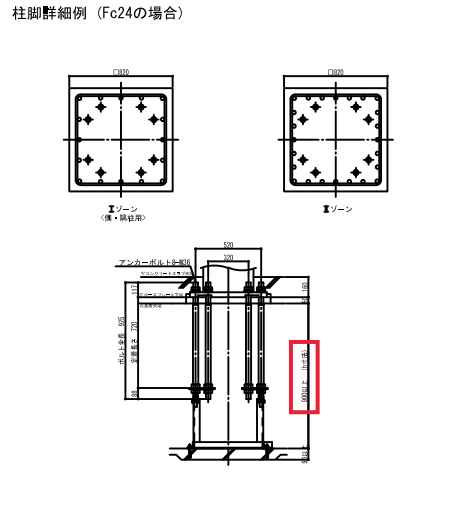
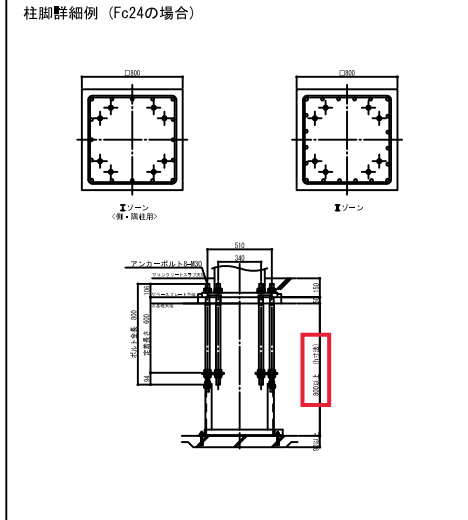
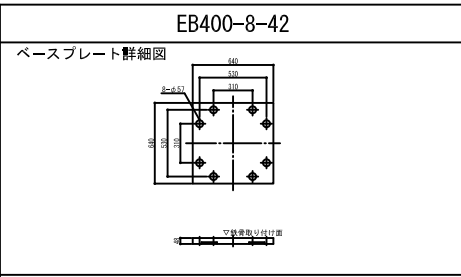
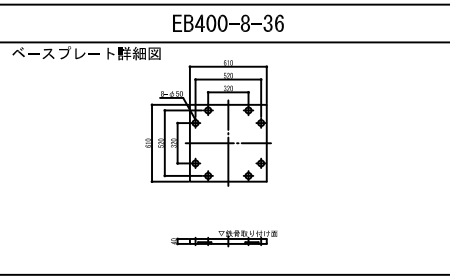
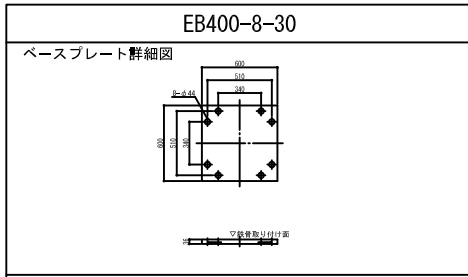
柱形外部基礎はりタイプ

おほむね D16	おほむね D19	等筋 D13φ150
はり主筋 2	はり主筋本数	
D16 230~290	2	3
D19 240~290	3	4
D22 240~300	4	3

柱形中心基礎はりタイプ

おほむね D16	おほむね D19	等筋 D13φ150
はり主筋 2	はり主筋本数	
D16 230~290	2	3
D19 240~290	3	4
D22 240~300	4	5

注1) 上野柱主筋について、柱主筋はIIゾーンの鉄筋量です。
 鉄筋上、Iゾーンの鉄筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。



通用柱		角形鋼管柱 □400 (壁厚範囲：9~25mm)					
アンカーボルト		h=400					
種別	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要量 (L/L)	
		縦横柱筋	等筋	縦横柱筋	等筋		
＜棟・間柱用＞	400	16-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	800	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	450
＜中柱用＞	800	12-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	800	20-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	450

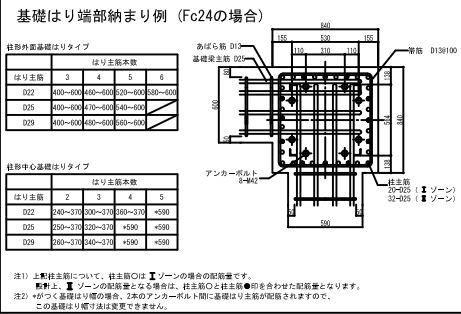
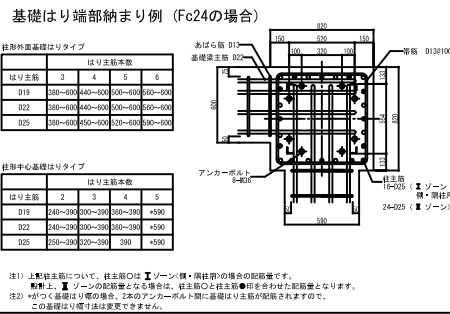
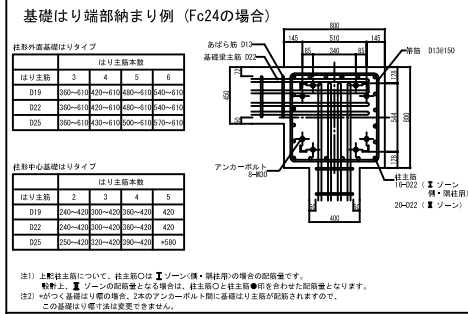
注1) 【Iゾーン】についてはハイバース(縦横)ハンドフランクの各型別の詳細図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋量は基礎より上の場合、基礎より下と同様に取付する場合があります。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(縦横)ハンドフランク第4編に扱い、自木建築学会等の規準・指針に準じた取付を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内の筋量(100%以上)として決定して下さい。あはら筋量面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋量面積を大きくする場合があります。【縦横】の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は取付がない場合です。取付がある場合は取付の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸荷重が同一です。アンカーボルトサイズは荷重の種類と配条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、取付の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱		角形鋼管柱 □400 (壁厚範囲：9~25mm)					
アンカーボルト		h=400					
種別	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要量 (L/L)	
		縦横柱筋	等筋	縦横柱筋	等筋		
＜棟・間柱用＞	400	16-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	820	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	530
＜中柱用＞	820	12-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	820	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	530

注1) 【Iゾーン】についてはハイバース(縦横)ハンドフランクの各型別の詳細図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋量は基礎より上の場合、基礎より下と同様に取付する場合があります。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(縦横)ハンドフランク第4編に扱い、自木建築学会等の規準・指針に準じた取付を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内の筋量(100%以上)として決定して下さい。あはら筋量面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋量面積を大きくする場合があります。【縦横】の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は取付がない場合です。取付がある場合は取付の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸荷重が同一です。アンカーボルトサイズは荷重の種類と配条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、取付の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱		角形鋼管柱 □400 (壁厚範囲：9~25mm)					
アンカーボルト		h=442					
種別	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要量 (L/L)	
		縦横柱筋	等筋	縦横柱筋	等筋		
＜棟・間柱用＞	440	20-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	640	32-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	680
＜中柱用＞	840	20-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	640	32-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	680

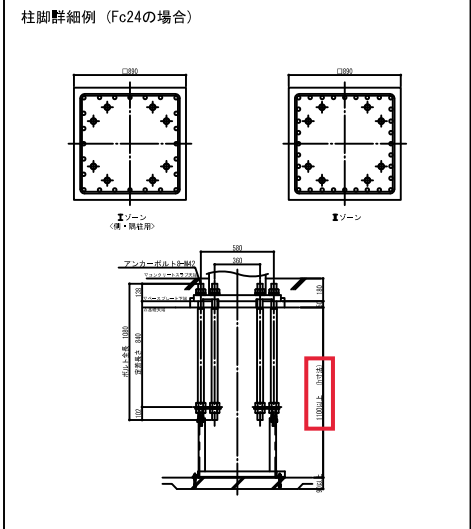
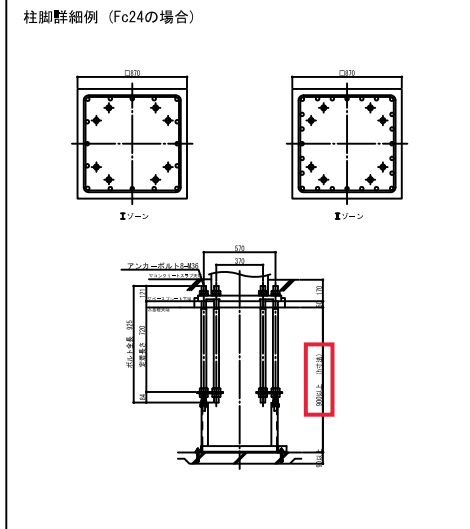
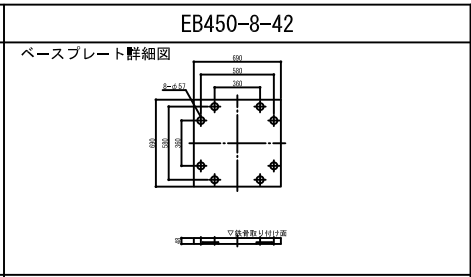
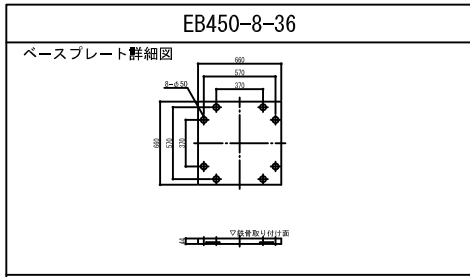
注1) 【Iゾーン】についてはハイバース(縦横)ハンドフランクの各型別の詳細図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋量は基礎より上の場合、基礎より下と同様に取付する場合があります。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(縦横)ハンドフランク第4編に扱い、自木建築学会等の規準・指針に準じた取付を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内の筋量(100%以上)として決定して下さい。あはら筋量面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋量面積を大きくする場合があります。【縦横】の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は取付がない場合です。取付がある場合は取付の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸荷重が同一です。アンカーボルトサイズは荷重の種類と配条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、取付の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)



注1) 上階柱筋について、柱主筋は【Iゾーン(棟・間柱用)】の場合の取付です。
 注2) 【Iゾーン】の取付となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた取付となります。
 注3) かつく基礎はり端部納まり例の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋の取付がありますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上階柱筋について、柱主筋は【Iゾーン(棟・間柱用)】の場合の取付です。
 注2) 【Iゾーン】の取付となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた取付となります。
 注3) かつく基礎はり端部納まり例の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋の取付がありますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上階柱筋について、柱主筋は【Iゾーン】の場合の取付です。
 注2) 【Iゾーン】の取付となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた取付となります。
 注3) かつく基礎はり端部納まり例の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋の取付がありますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

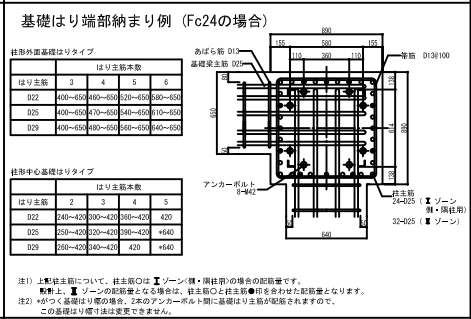
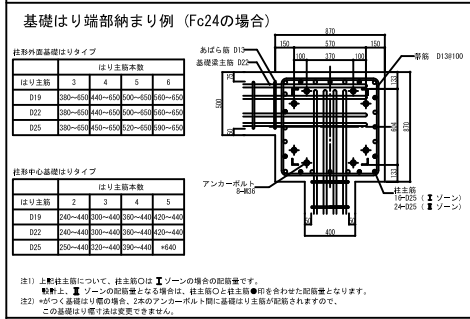


適用柱

角形鋼管柱 □450 (板厚範囲：9~25mm)	
アンカーボルト	
Iゾーン	
柱径	規格柱径主筋
870	16-025 (S3045) D13#100 (S2095)
870	24-025 (S3045) D13#100 (S2095)
870	16-025 (S3045) D13#100 (S2095)
870	24-025 (S3045) D13#100 (S2095)

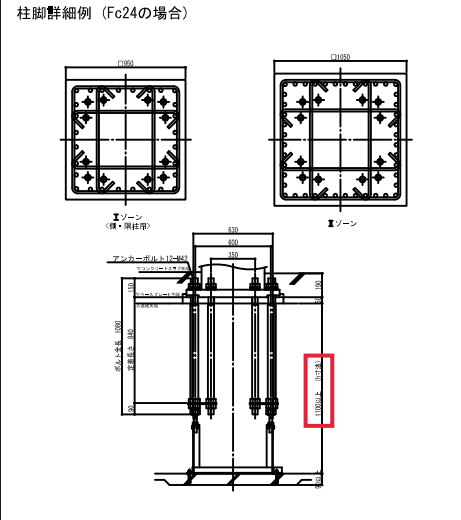
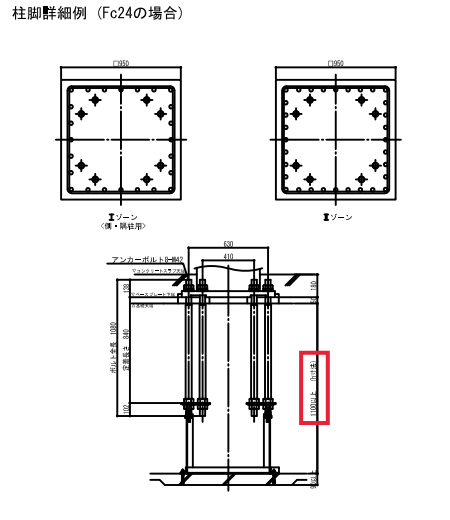
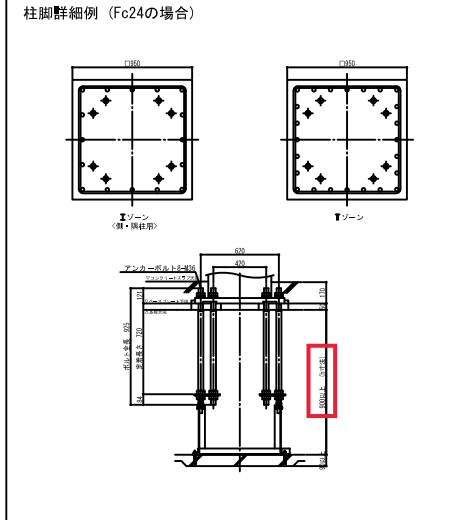
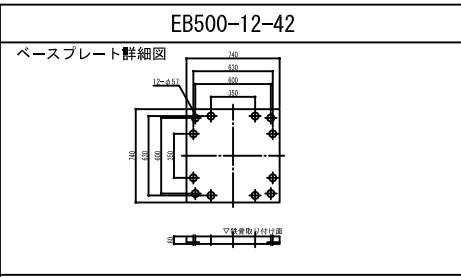
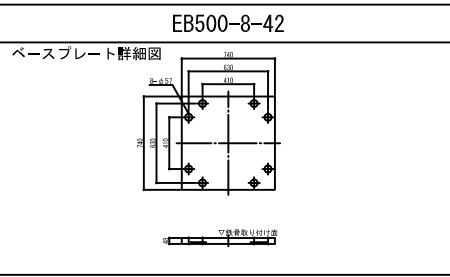
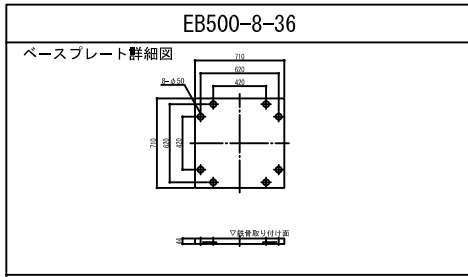
適用柱

角形鋼管柱 □450 (板厚範囲：9~25mm)	
アンカーボルト	
Iゾーン	
柱径	規格柱径主筋
890	24-025 (S3045) D13#100 (S2095)
890	32-025 (S3045) D13#100 (S2095)
890	20-025 (S3045) D13#100 (S2095)
890	32-025 (S3045) D13#100 (S2095)



注1) 上敷柱主筋について、柱主筋は【Iゾーン】の場合の配筋です。
 配筋上、【Iゾーン】の配筋となる場合は、柱主筋の柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎は1階の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋の配筋されますので、この基礎はり配筋は変更できません。

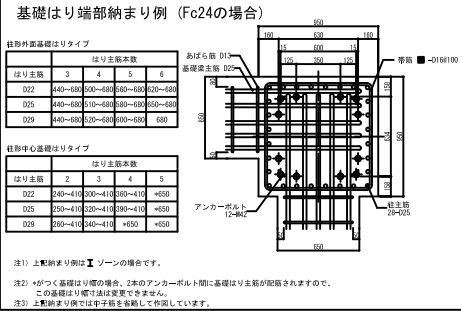
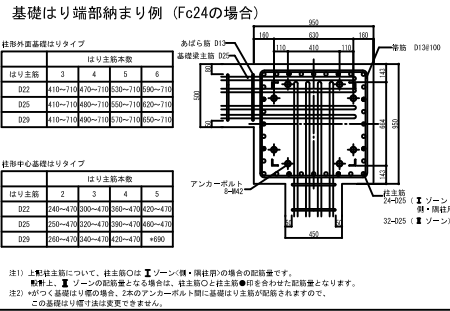
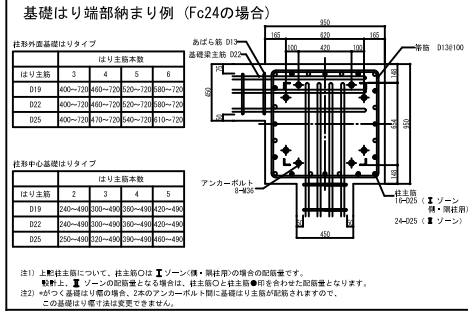
注1) 上敷柱主筋について、柱主筋は【Iゾーン】の場合の配筋です。
 配筋上、【Iゾーン】の配筋となる場合は、柱主筋の柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎は1階の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋の配筋されますので、この基礎はり配筋は変更できません。



通用柱		角形鋼管柱 C500 (板厚範囲：9~28mm)						
アンカーボルト		h=436						
アンカーボルト	柱径	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
		基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋		
〈棟・階柱群〉	950	16-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	510	
〈中柱群〉	950	12-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	510	

通用柱		角形鋼管柱 C500 (板厚範囲：9~28mm)						
アンカーボルト		h=442						
アンカーボルト	柱径	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
		基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋		
〈棟・階柱群〉	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	32-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	660	
〈中柱群〉	950	20-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	32-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	660	

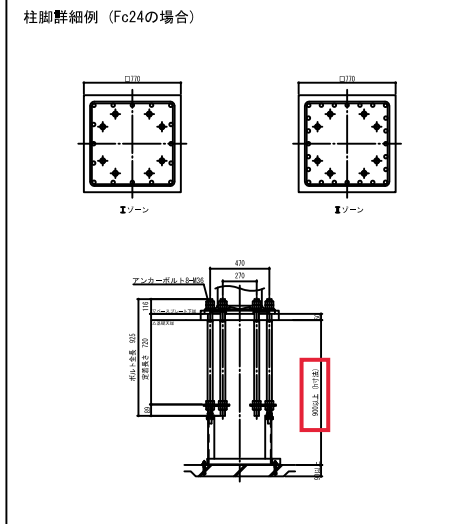
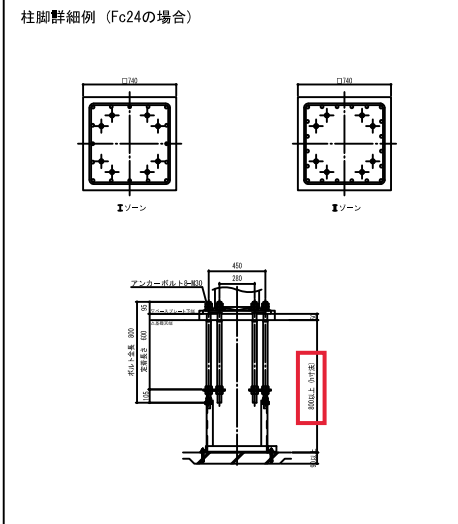
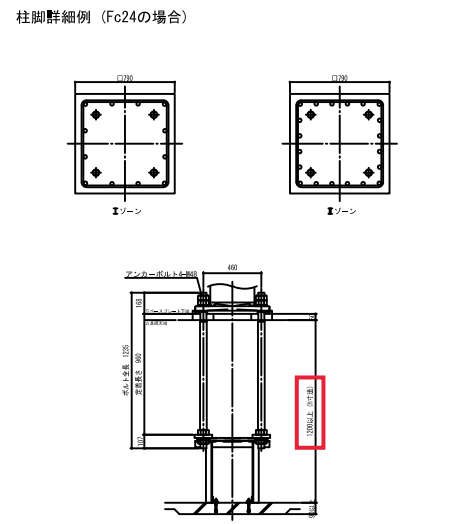
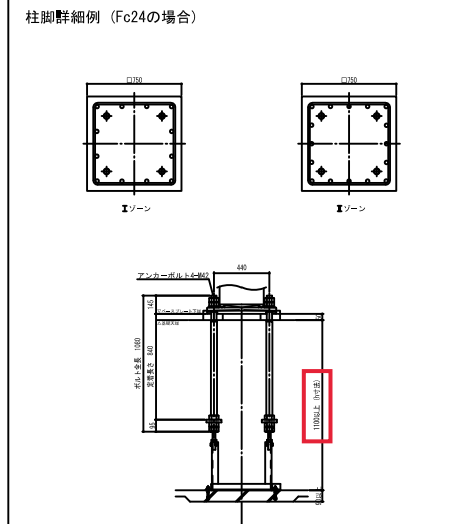
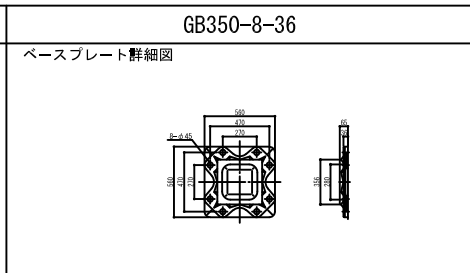
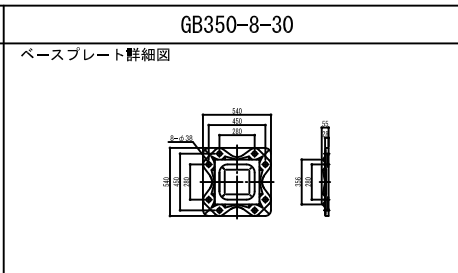
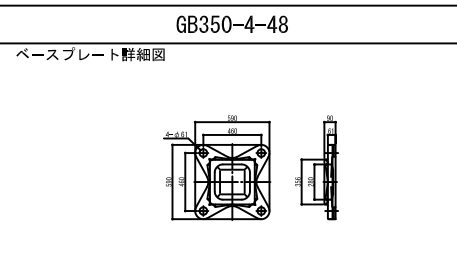
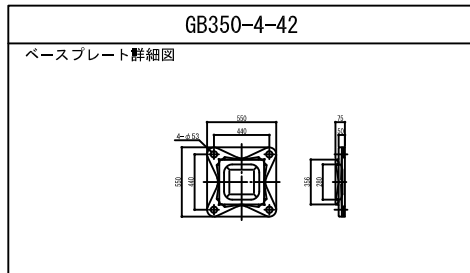
通用柱		角形鋼管柱 C500 (板厚範囲：9~28mm)						
アンカーボルト		h=442						
アンカーボルト	柱径	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
		基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋		
〈棟・階柱群〉	950	24-025 (S3045)	■-D16#100 (S2295)	1050	44-025 (S3045)	■-D16#100 (S2295)	600	
〈中柱群〉	950	20-025 (S3045)	■-D16#100 (S2295)	1050	44-025 (S3045)	■-D16#100 (S2295)	600	



注1) 上配柱主筋については、柱主筋はIゾーン(棟・階柱群)の場合の配筋とします。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例は、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上配柱主筋については、柱主筋はIIゾーン(中柱群)の場合の配筋とします。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例は、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上配柱主筋については、柱主筋はIゾーンの場合です。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例は、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。
 注3) 上配柱主筋例では中子筋を省略して示しています。



通用柱

角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)

アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	750	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	750	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	480
・中柱部	750	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	750	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	480

注1) Ⅰゾーン分についてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱部の鉄筋は基礎立上りがない場合 (基礎が完成と基礎柱形主筋が一致する場合) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に扱い、柱立基礎等の鉄筋・材料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部の鉄筋は、基礎内のあがら筋の100%以上と規定しています。あがら筋断面積がこれより小さくなる場合、あがら筋断面積がこれより大きくなる場合や、柱柱脚の鉄筋として下さい。
 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、鉄筋がある場合の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト・配筋管理台は一律です。アンカーボルトサイズ等の鉄筋と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱

角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)

アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	790	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	790	20-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	580
・中柱部	790	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	790	20-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	580

注1) Ⅰゾーン分についてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱部の鉄筋は基礎立上りがない場合 (基礎が完成と基礎柱形主筋が一致する場合) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に扱い、柱立基礎等の鉄筋・材料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部の鉄筋は、基礎内のあがら筋の100%以上と規定しています。あがら筋断面積がこれより小さくなる場合、あがら筋断面積がこれより大きくなる場合や、柱柱脚の鉄筋として下さい。
 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、鉄筋がある場合の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト・配筋管理台は一律です。アンカーボルトサイズ等の鉄筋と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱

角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)

アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	740	16-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	740	20-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	470
・中柱部	740	16-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	740	20-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	470

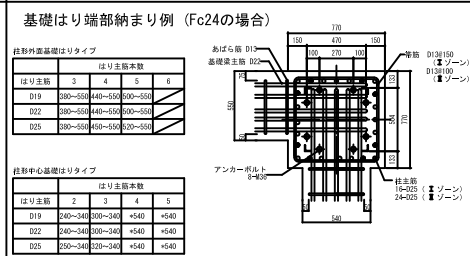
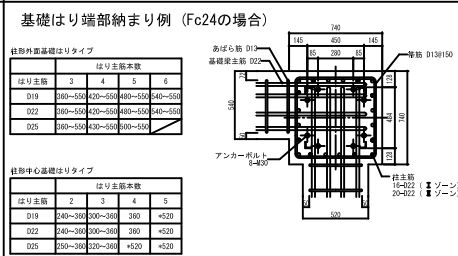
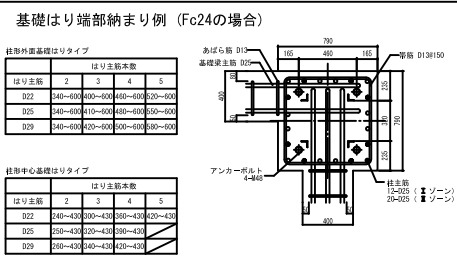
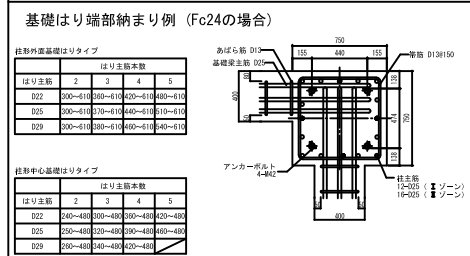
注1) Ⅰゾーン分についてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱部の鉄筋は基礎立上りがない場合 (基礎が完成と基礎柱形主筋が一致する場合) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に扱い、柱立基礎等の鉄筋・材料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部の鉄筋は、基礎内のあがら筋の100%以上と規定しています。あがら筋断面積がこれより小さくなる場合、あがら筋断面積がこれより大きくなる場合や、柱柱脚の鉄筋として下さい。
 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、鉄筋がある場合の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト・配筋管理台は一律です。アンカーボルトサイズ等の鉄筋と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱

角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)

アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定尺長さ(L)
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	770	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	770	24-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	560
・中柱部	770	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	770	24-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	560

注1) Ⅰゾーン分についてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱部の鉄筋は基礎立上りがない場合 (基礎が完成と基礎柱形主筋が一致する場合) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に扱い、柱立基礎等の鉄筋・材料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部の鉄筋は、基礎内のあがら筋の100%以上と規定しています。あがら筋断面積がこれより小さくなる場合、あがら筋断面積がこれより大きくなる場合や、柱柱脚の鉄筋として下さい。
 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、鉄筋がある場合の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト・配筋管理台は一律です。アンカーボルトサイズ等の鉄筋と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)



注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は【Iゾーン】の場合の配筋です。
 取替上、【IIゾーン】の配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例、2階のアンカーボルト・間に基礎はり主筋の配筋がされますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

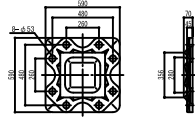
注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は【IIゾーン】の場合の配筋です。
 取替上、【Iゾーン】の配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例、2階のアンカーボルト・間に基礎はり主筋の配筋がされますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は【Iゾーン】の場合の配筋です。
 取替上、【IIゾーン】の配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例、2階のアンカーボルト・間に基礎はり主筋の配筋がされますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

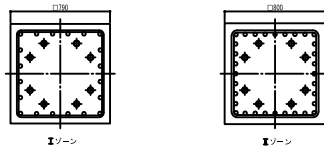
注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は【IIゾーン】の場合の配筋です。
 取替上、【Iゾーン】の配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部納まり例、2階のアンカーボルト・間に基礎はり主筋の配筋がされますので、この基礎はり端部納まり例は変更できません。

GB350-8-42

ベースプレート詳細図

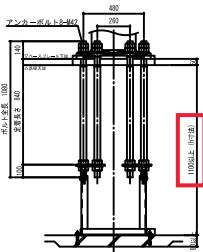


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン

IIゾーン



適用柱		角形鋼等柱 □350 (筋等範囲: 9~25mm)						
アンカーボルト	Iゾーン	柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	鉄筋の 表示表 (L1)
		790	20-D25 (32045)	D138100 (32095)	800	32-D25 (32045)	D168100 (32095)	
	IIゾーン	790	20-D25 (32045)	D138100 (32095)	800	32-D25 (32045)	D168100 (32095)	610

注1) I、IIゾーン区分についてはハイベース(軟弱)ハンドブックの各型式の断面図を参照下さい。
 注2) 表の鉄筋量は基礎立ち上りのない場合、基礎より実測と基礎柱径が一致する場合は、の標準例です。立ち上がりがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース(軟弱)ハンドブック第3章に記し、日本建築学会等の規準・準則に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 各柱脚の鉄筋量は、基礎内のあはら筋の1/100として算定しています。あはら筋断面積がこれより小さくなる場合、あはら筋断面積がこれより大きくなる場合は、柱径内の筋数を調整して下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの配置間隔は一律です。アンカーボルトサイズ等の有無など標準条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定数表とは、表の寸法以上確保して下さい。(上層下層共通)

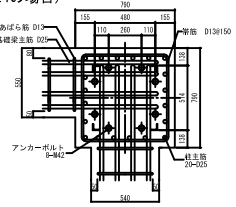
基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外周基礎はりタイプ

はり主筋	2	3	4	5
D02	240~320	300~320	320~320	320~320
D05	240~320	320~320	320~320	320~320
D29	240~320	320~320	320~320	320~320

柱形中心基礎はりタイプ

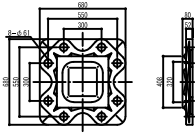
はり主筋	2	3	4	5
D22	240~320	300~320	+540	+540
D25	240~320	320	+540	+540
D29	240~320	+540	+540	+540



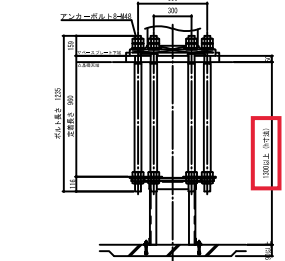
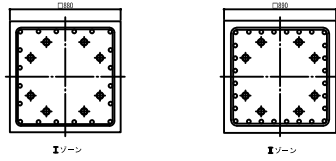
注1) 上層柱主筋について、柱主筋のIIゾーンの筋数を配筋せず。
 注2) *がく基礎はり端の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端寸法は変更できません。

GB400-8-48

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc24の場合)



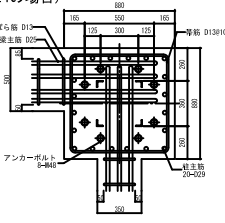
適用柱		角形鋼等柱 □400 (板厚範囲：9~32mm)					
アンカーボルト		φ-φ48					
柱種	基礎柱形主筋	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 表示長さ (L1)	
		等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋		
〈棟・端柱部〉	8D2	2D-2D9 (3D390)	D13@100 (2D295)	8D2	2D-2D9 (3D390)	D16@100 (3D295)	700
〈中柱部〉	8D2	2D-2D9 (3D390)	D13@100 (2D295)	8D2	2D-2D9 (3D390)	D16@100 (3D295)	700

注1) Iゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋図を参照下さい。
 注2) 鉄骨の配筋位置は鉄筋上りのない場合、鉄筋は互角と基礎柱形主筋(柱形主筋)の等筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース(配筋)ハンドブック第2巻に記して決定して下さい。鉄筋に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱部〉の鉄筋位置は、基礎面内の鉄筋の中心間隔として決定して下さい。あはら筋間距離がこれより大きくなる場合、あはら筋間距離がこれより大きくなる場合は、柱形主筋の角数を調整して下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は鉄の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの埋設距離は一律です。アンカーボルトサイズ等の異なる等筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、鉄骨の寸法以上確保して下さい。(上層下部共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外周基礎はりタイプ		あはら筋 D12	
はり主筋	はり主筋本数	基礎梁主筋	等筋 D13@100
D22	430~610	4D22	610
D25	430~610	4D25	700~810
D29	430~610	4D29	810~910

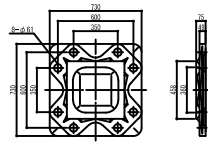
柱形中心基礎はりタイプ		あはら筋 D12	
はり主筋	はり主筋本数	基礎梁主筋	等筋 D13@100
D22	240~360	3D22	+600
D25	250~360	3D25	+600
D29	260~360	3D29	+600



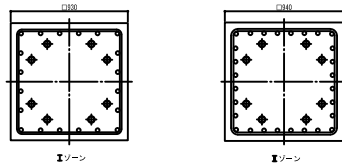
注1) 上層柱主筋について、柱主筋はIゾーンの鉄筋の配筋です。
 注2) *がつく基礎はり端の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端寸法は変更できません。

GB450-8-48

ベースプレート詳細図

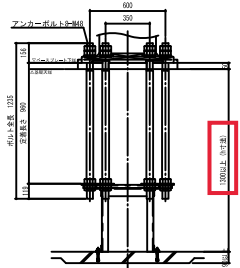


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Ⅰゾーン

Ⅱゾーン



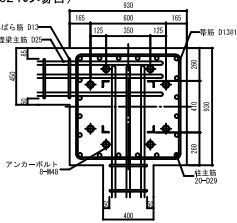
適用柱		角形鋼等柱 □450 (板厚範囲：9~36mm)				
アンカーボルト		φ-φ48				
		Ⅰゾーン		Ⅱゾーン		鉄筋の 表裏長さ (L1)
		柱径	基礎柱径主筋 等級	柱径	基礎柱径主筋 等級	
〈棟・階柱部〉	930	20-219 (SD390)	D13#100 (SD295)	940	20-219 (SD390)	D16#100 (SD295) 710
〈中柱部〉	930	20-219 (SD390)	D13#100 (SD295)	940	20-219 (SD390)	D16#100 (SD295) 710

注1) Ⅰゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋断面を参照下さい。
 注2) 鉄筋の配筋量は基礎立上りのない場合、基礎より実測柱径(一致する場合)の配筋例です。立上りがある場合、柱立上り部の場合は、ハイベース(配筋)ハンドブック第3章に記してある通り、柱立上り部と基礎との配筋を連続して下さい。
 注3) 中柱部への鉄筋量は、基礎内のあはら筋径D10D20として算定しています。あはら筋断面積がこれより小さくなる場合、あはら筋断面積がこれより大きくなる場合は、柱径中の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの埋設箇所は一律です。アンカーボルトサイズ他の特約条件など配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定置長さとは、表中の寸法以上確保して下さい。(上階下部共通)

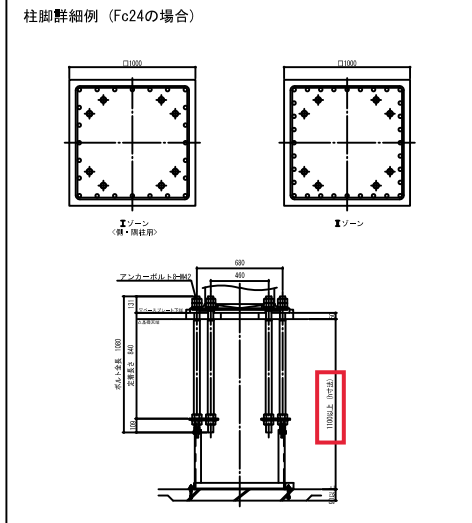
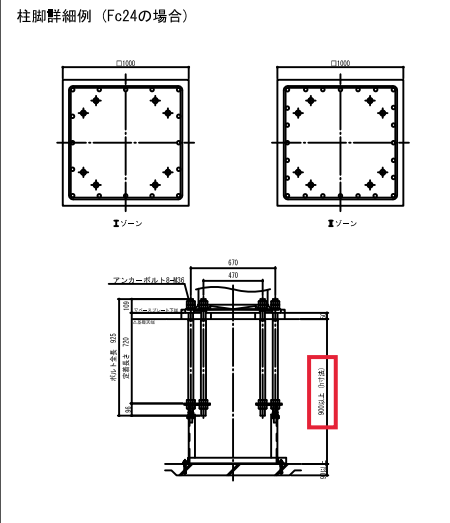
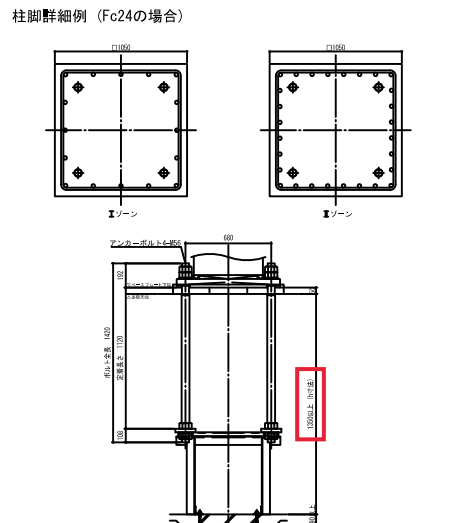
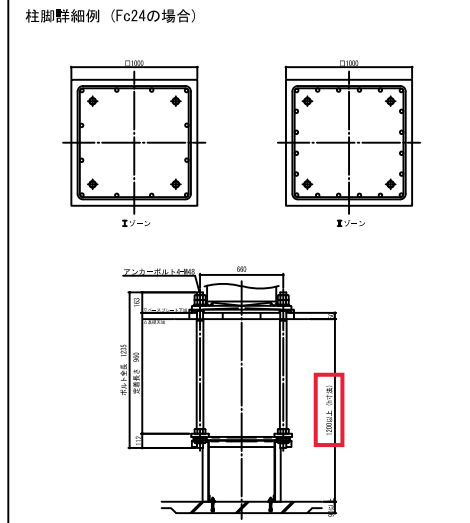
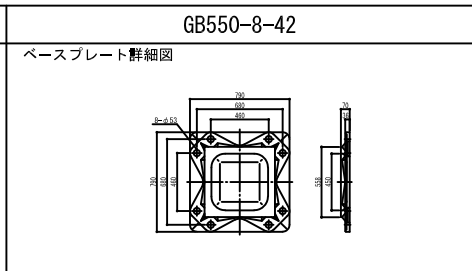
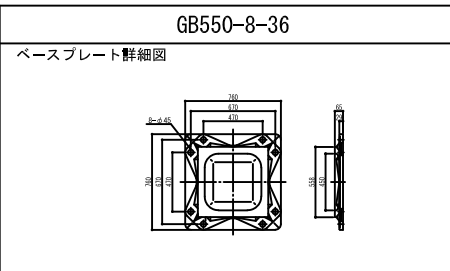
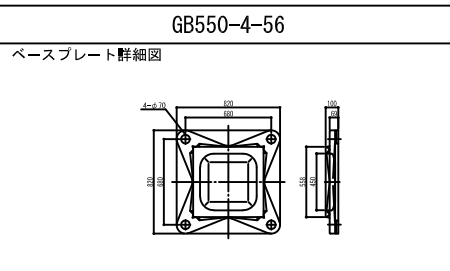
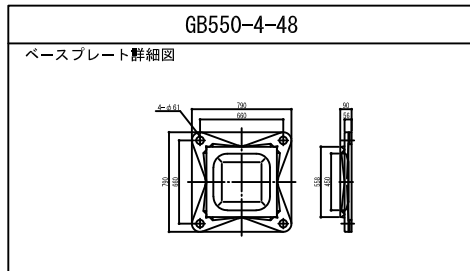
基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外周基礎はりタイプ		あはら筋 D12	
はり主筋	はり主筋本数	基礎主筋 φ20	等筋 D13#100
D22	2	2	2
D25	2	2	2
D29	2	2	2

柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数	
はり主筋	2	3	4
D22	240~410	300~410	300~410
D25	250~410	320~410	300~410
D29	260~410	340~410	300~410



注1) 上階柱主筋について、柱主筋φはⅠゾーンの柱径の配筋値です。
 注2) φが寸法基礎はり端の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端寸法は変更できません。

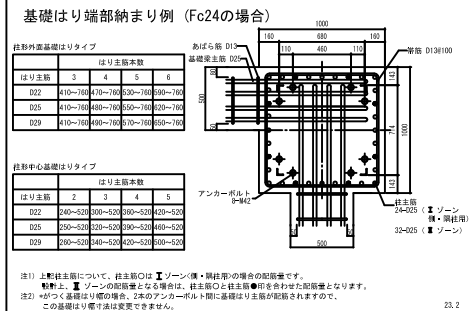
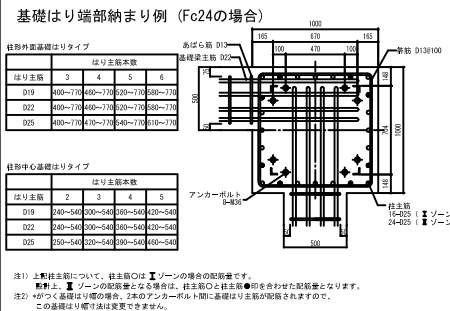
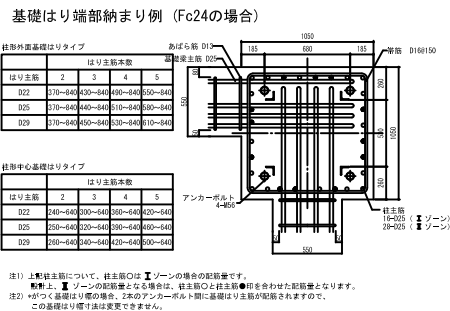
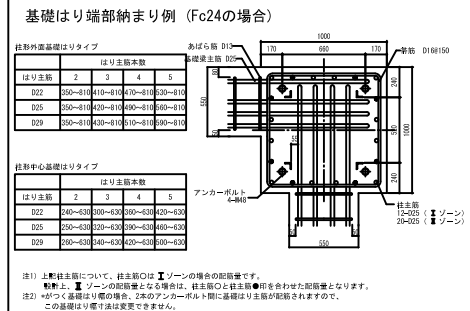


適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	
中柱径) 1000	12-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	1000	20-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	460
中柱径) 1000	12-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	1000	20-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	460

適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	
中柱径) 1000	16-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	1050	20-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	580
中柱径) 1000	16-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	1050	20-025 (S3045)	D16#150 (S2295)	580

適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	
中柱径) 1000	16-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	1000	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	500
中柱径) 1000	16-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	1000	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	500

適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	
中柱径) 1000	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	1000	32-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	650
中柱径) 1000	20-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	1000	32-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	650

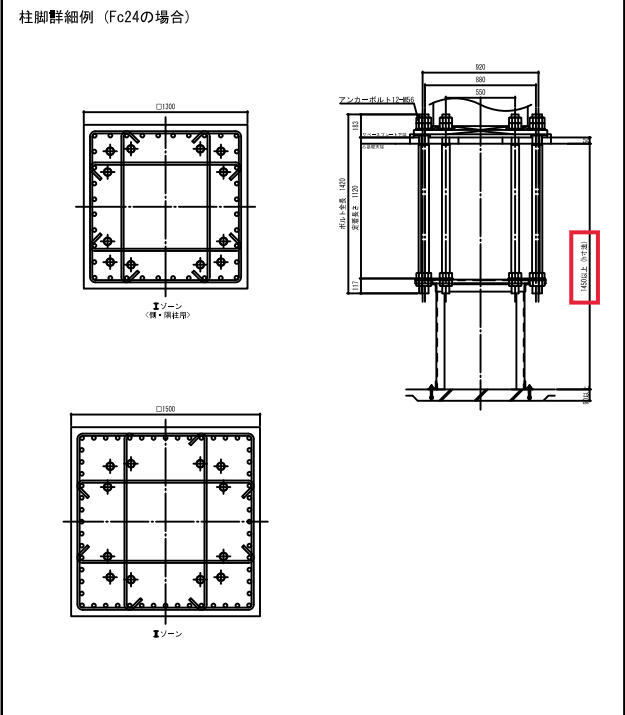
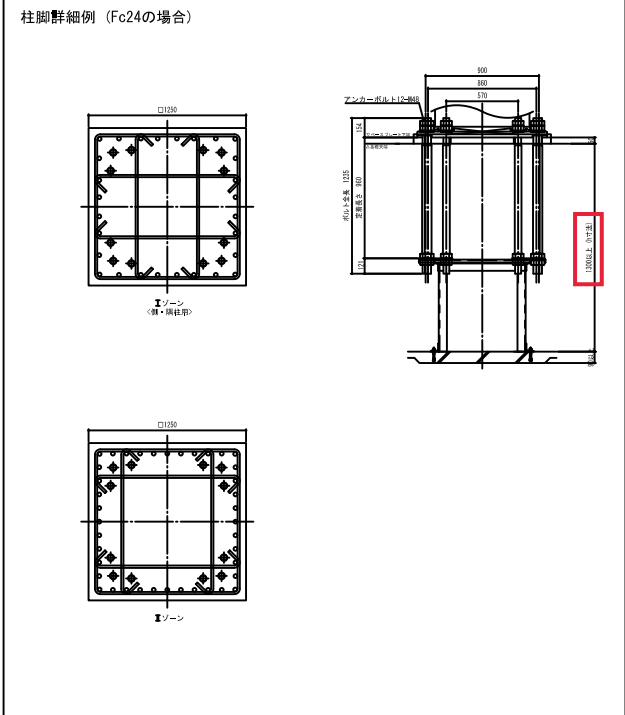
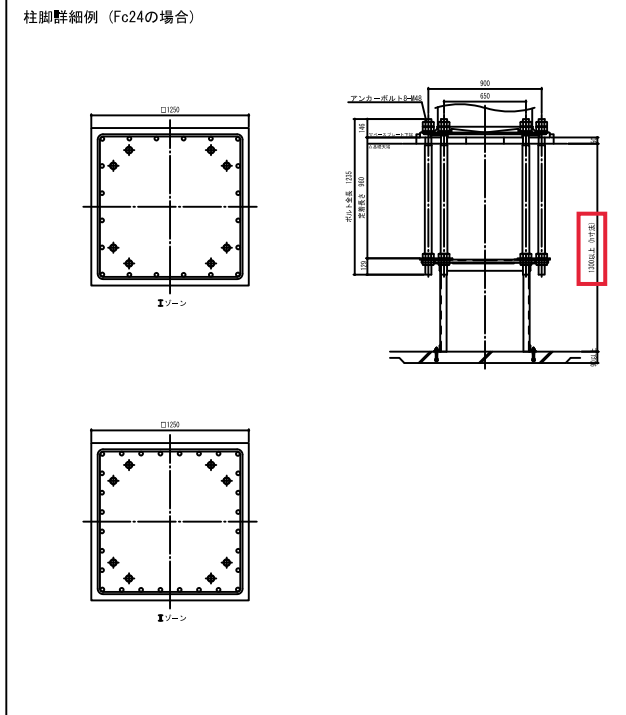
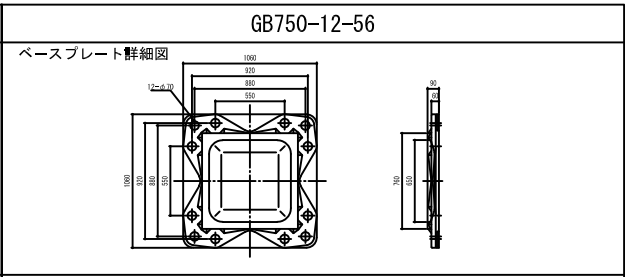
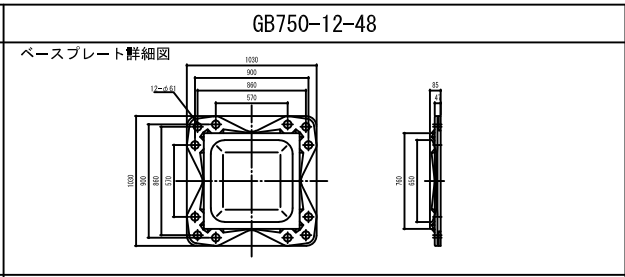
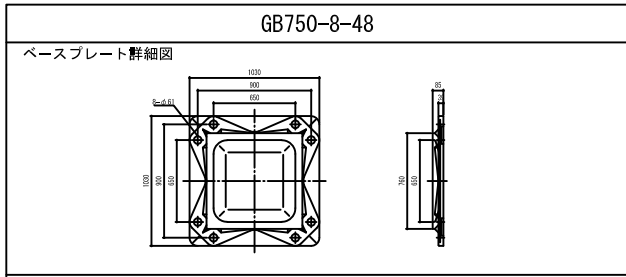


注1) 上配柱主筋について、柱主筋はIゾーンのみの場合の配筋数です。
 柱脚上、IIゾーンの配筋数となる場合は、柱主筋の柱主筋●印を合わせた配筋数となります。
 注2) 中柱径の鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。あはる筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはる筋面積がこれより大きくなる場合を除く。●印は柱脚の鉄筋と見做して下さい。
 注3) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注4) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は一律です。アンカーボルトの寸法は鋼管の規格と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、真中の寸法に準拠して下さい。(上階付角通)

注1) 上配柱主筋について、柱主筋はIゾーンのみの場合の配筋数です。
 柱脚上、IIゾーンの配筋数となる場合は、柱主筋の柱主筋●印を合わせた配筋数となります。
 注2) 中柱径の鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。あはる筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはる筋面積がこれより大きくなる場合を除く。●印は柱脚の鉄筋と見做して下さい。
 注3) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注4) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は一律です。アンカーボルトの寸法は鋼管の規格と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、真中の寸法に準拠して下さい。(上階付角通)

注1) 上配柱主筋について、柱主筋はIゾーンのみの場合の配筋数です。
 柱脚上、IIゾーンの配筋数となる場合は、柱主筋の柱主筋●印を合わせた配筋数となります。
 注2) 中柱径の鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。あはる筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはる筋面積がこれより大きくなる場合を除く。●印は柱脚の鉄筋と見做して下さい。
 注3) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注4) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は一律です。アンカーボルトの寸法は鋼管の規格と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、真中の寸法に準拠して下さい。(上階付角通)

注1) 上配柱主筋について、柱主筋はIゾーン(●)・IIゾーン(●)の場合の配筋数です。
 柱脚上、IIゾーンの配筋数となる場合は、柱主筋の柱主筋●印を合わせた配筋数となります。
 注2) 中柱径の鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。あはる筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはる筋面積がこれより大きくなる場合を除く。●印は柱脚の鉄筋と見做して下さい。
 注3) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注4) Iゾーンの鉄筋は、基礎梁の筋の配筋と同一の配筋と見做して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は一律です。アンカーボルトの寸法は鋼管の規格と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、真中の寸法に準拠して下さい。(上階付角通)



角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)		角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)					
アンカーボルト		アンカーボルト					
B=480		B=480					
アンカーボルト	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)		
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋	帯筋
〈横・縦柱形〉	1250	20-229 (S3090)	D16#150 (S2295)	1250	20-229 (S3090)	D16#150 (S2295)	760
〈中柱形〉	1250	20-229 (S3090)	D16#150 (S2295)	1250	20-229 (S3090)	D16#150 (S2295)	760

注1) Iゾーン分についてはハイベース組立ハンドブックの各章の設計編を参照して下さい。
 注2) 鉄筋の定着長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形主筋が一致する場合) の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース組立ハンドブックの取付例に、日本建築学会等の取巻・指針に準拠した取付を行って下さい。
 注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎筋の筋間隔を筋径の10倍として算定しています。筋間は筋筋間隔がこれよりも小さくなる場合、筋間は筋間隔がこれよりも大きくなる場合は〈横・縦柱形〉の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎筋は同一径です。アンカーボルトサイズと基礎筋径は同一径でなければなりません。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)		角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)					
アンカーボルト		アンカーボルト					
B=480		B=480					
アンカーボルト	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)		
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋	帯筋
〈横・縦柱形〉	1250	20-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	1250	40-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	760
〈中柱形〉	1250	20-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	1250	40-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	760

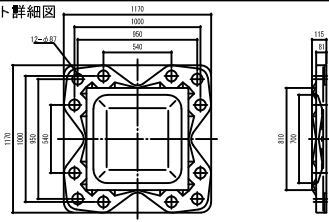
注1) Iゾーン分についてはハイベース組立ハンドブックの各章の設計編を参照して下さい。
 注2) 鉄筋の定着長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形主筋が一致する場合) の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース組立ハンドブックの取付例に、日本建築学会等の取巻・指針に準拠した取付を行って下さい。
 注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎筋の筋間隔を筋径の10倍として算定しています。筋間は筋筋間隔がこれよりも小さくなる場合、筋間は筋間隔がこれよりも大きくなる場合は〈横・縦柱形〉の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎筋は同一径です。アンカーボルトサイズと基礎筋径は同一径でなければなりません。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)		角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)					
アンカーボルト		アンカーボルト					
B=480		B=480					
アンカーボルト	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)		
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋	帯筋
〈横・縦柱形〉	1300	20-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	1500	56-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	990
〈中柱形〉	1300	20-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	1500	56-229 (S3090)	D16#100 (S2295)	990

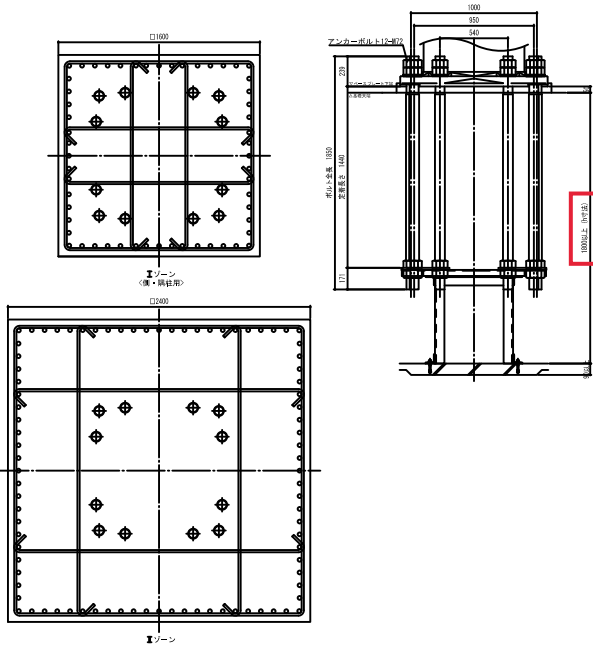
注1) Iゾーン分についてはハイベース組立ハンドブックの各章の設計編を参照して下さい。
 注2) 鉄筋の定着長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形主筋が一致する場合) の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース組立ハンドブックの取付例に、日本建築学会等の取巻・指針に準拠した取付を行って下さい。
 注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎筋の筋間隔を筋径の10倍として算定しています。筋間は筋筋間隔がこれよりも小さくなる場合、筋間は筋間隔がこれよりも大きくなる場合は〈横・縦柱形〉の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は柱がない場合です。柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎筋は同一径です。アンカーボルトサイズと基礎筋径は同一径でなければなりません。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

GB800-12-72

ベースプレート詳細図



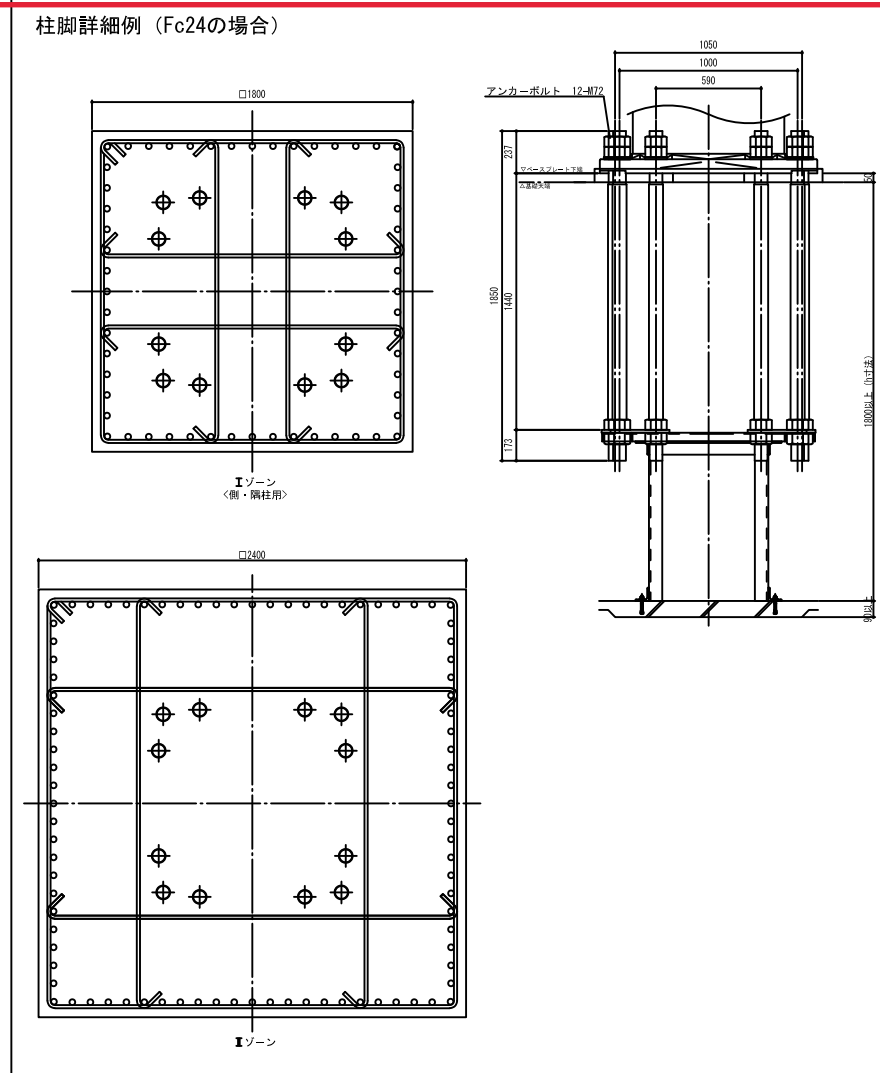
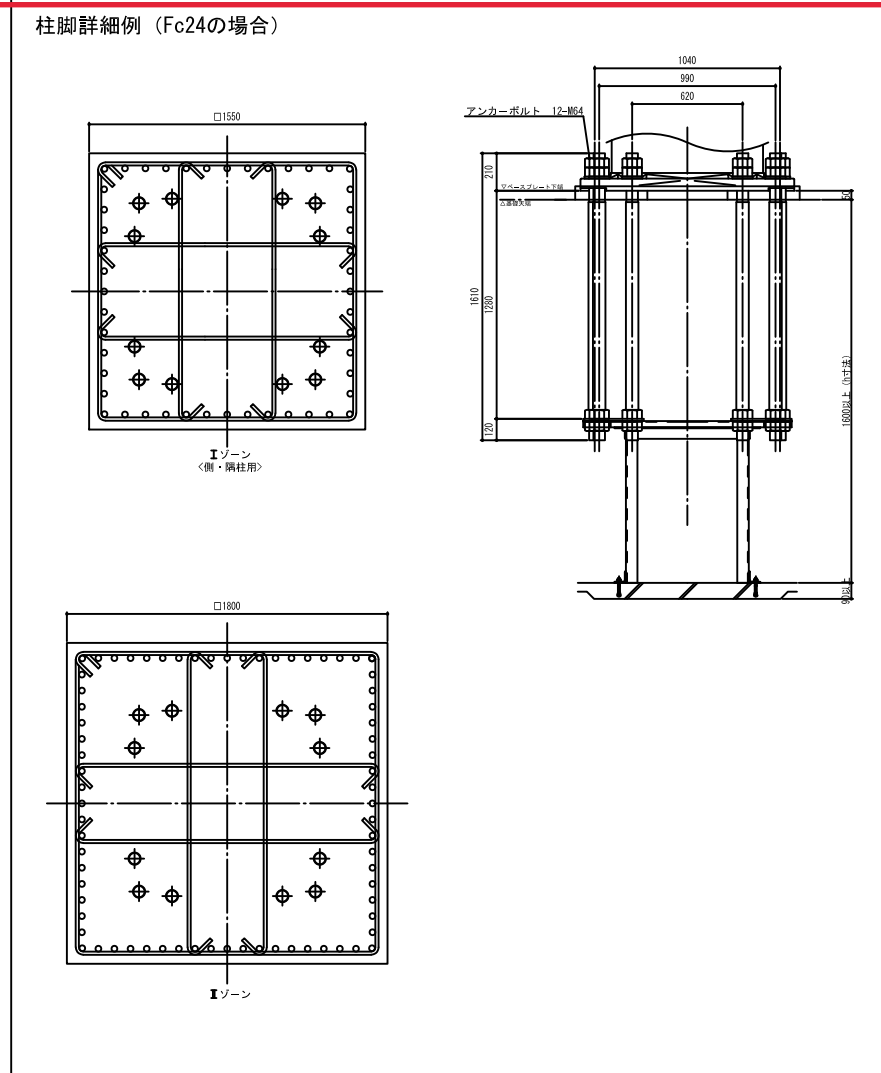
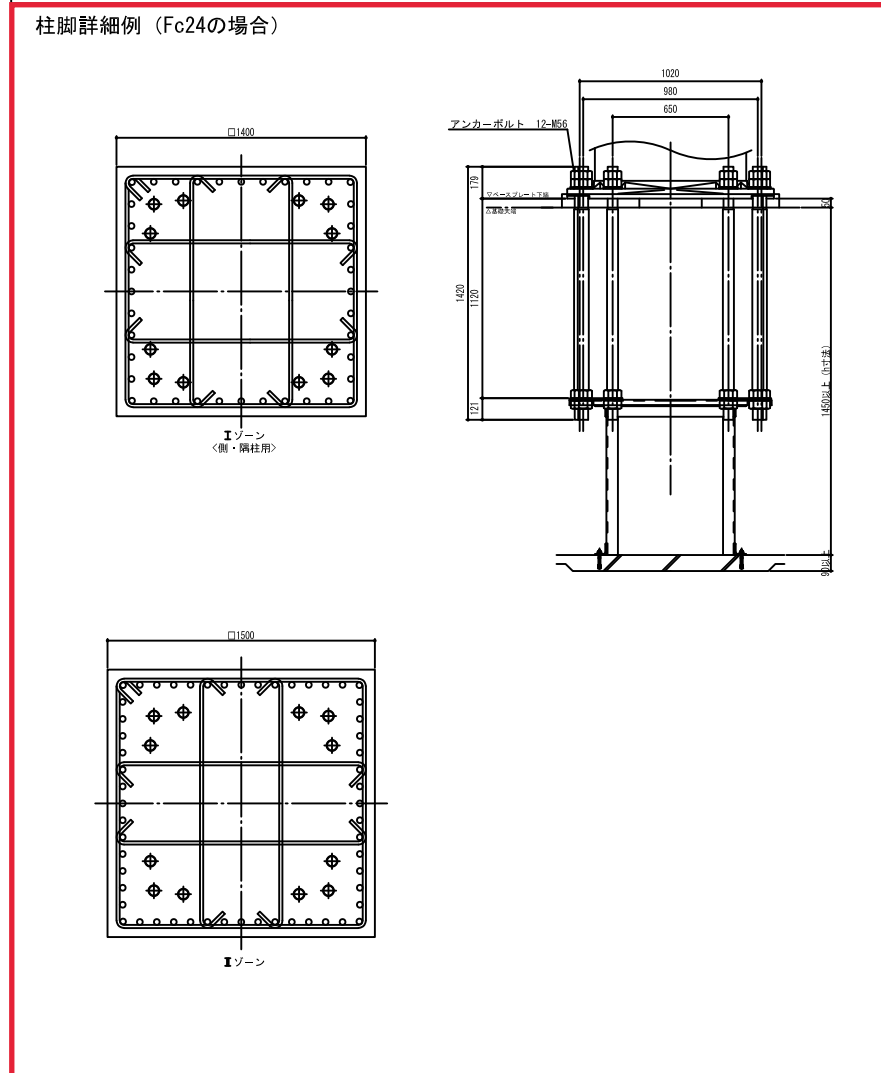
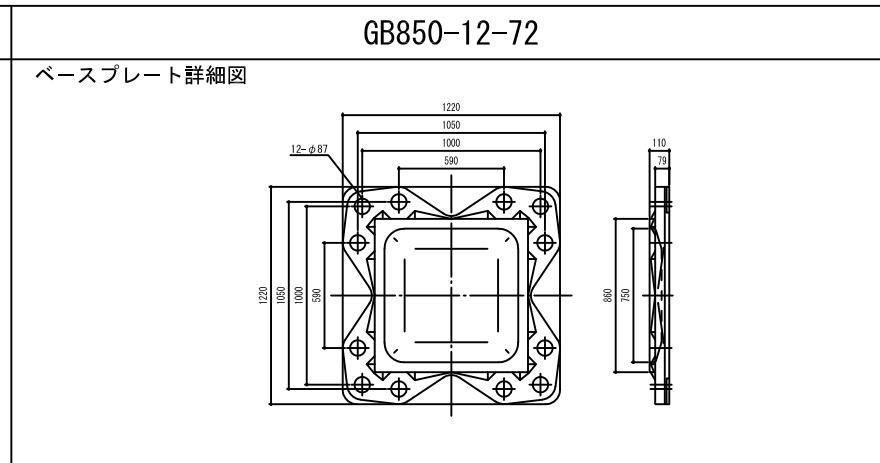
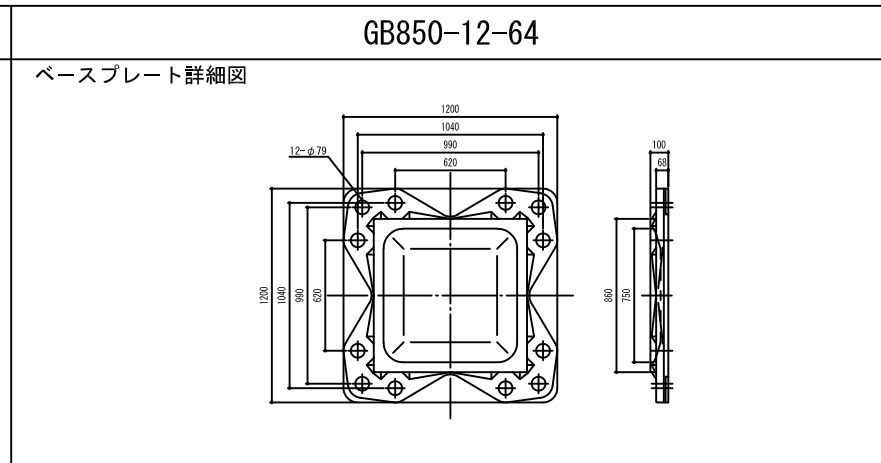
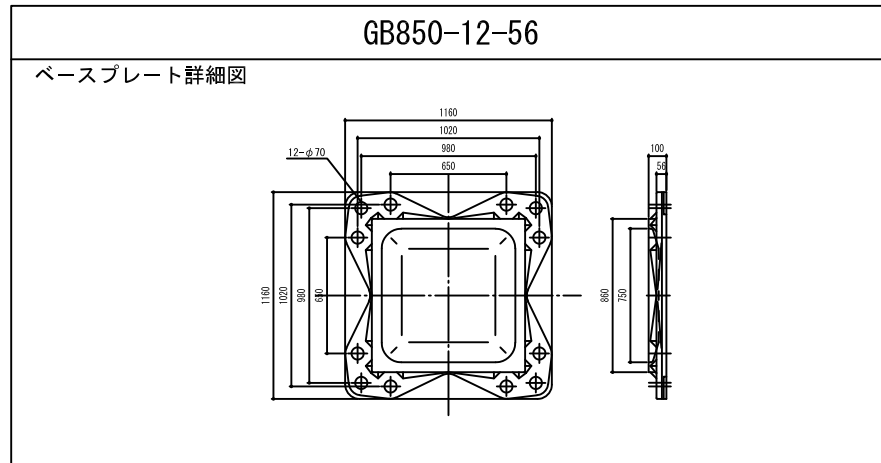
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



適用柱		角形鋼等柱 □300 (軸間距離: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-402					
柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 実高(表) (L1)		
	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋		帯筋	
〈横・縦柱形〉	1600	56-429 (S239)	■-D16(100) (S235)	2400	88-229 (S230)	■-D16(80) (S235)	1260
〈中柱形〉	1600	48-329 (S239)	■-D16(100) (S235)	2400	88-229 (S230)	■-D16(80) (S235)	1260

注1) Iゾーン分については、ベースプレートと鋼管の接続部は、各工場の設計図書に準拠して下さい。
 注2) 帯筋の筋間距離は、筋立上りのない場合(基礎より天端と基礎柱形主筋が一線となる場合)の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイペース(鋼管)ハンドブック第4巻に、日本建築学会等の規準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎部分の筋立上り部として算定しています。筋立上り部がこれより大きくなる場合、筋立上り部がこれより大きくなる場合は、筋立上り部の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法に100mm以上繰上して下さい。
 注5) アンカーボルトは、配筋図表とは一致しません。アンカーボルトは、鋼管の規格により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の実高(表)は、表中の寸法以上繰上して下さい。(上節下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



適用柱		角形鋼管柱 □850 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M56					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (Lt)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1400	40-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	990
<中柱用>	1400	32-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	990

注1) I・IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

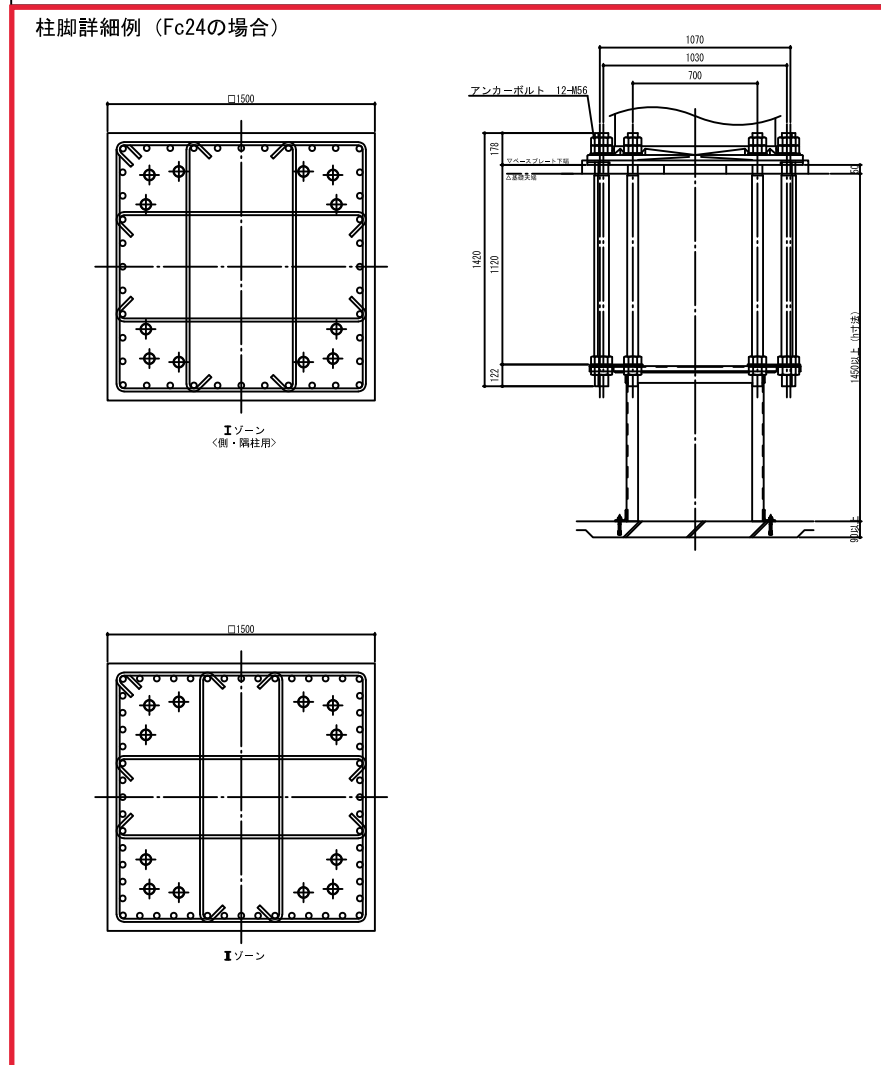
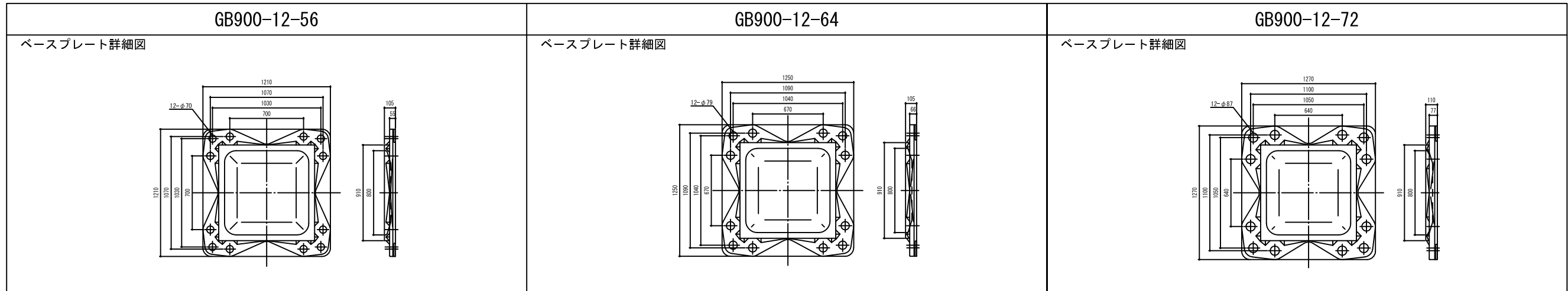
適用柱		角形鋼管柱 □850 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (Lt)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1550	48-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1130
<中柱用>	1550	40-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1130

注1) I・IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱		角形鋼管柱 □850 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (Lt)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1800	56-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1260
<中柱用>	1800	48-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1260

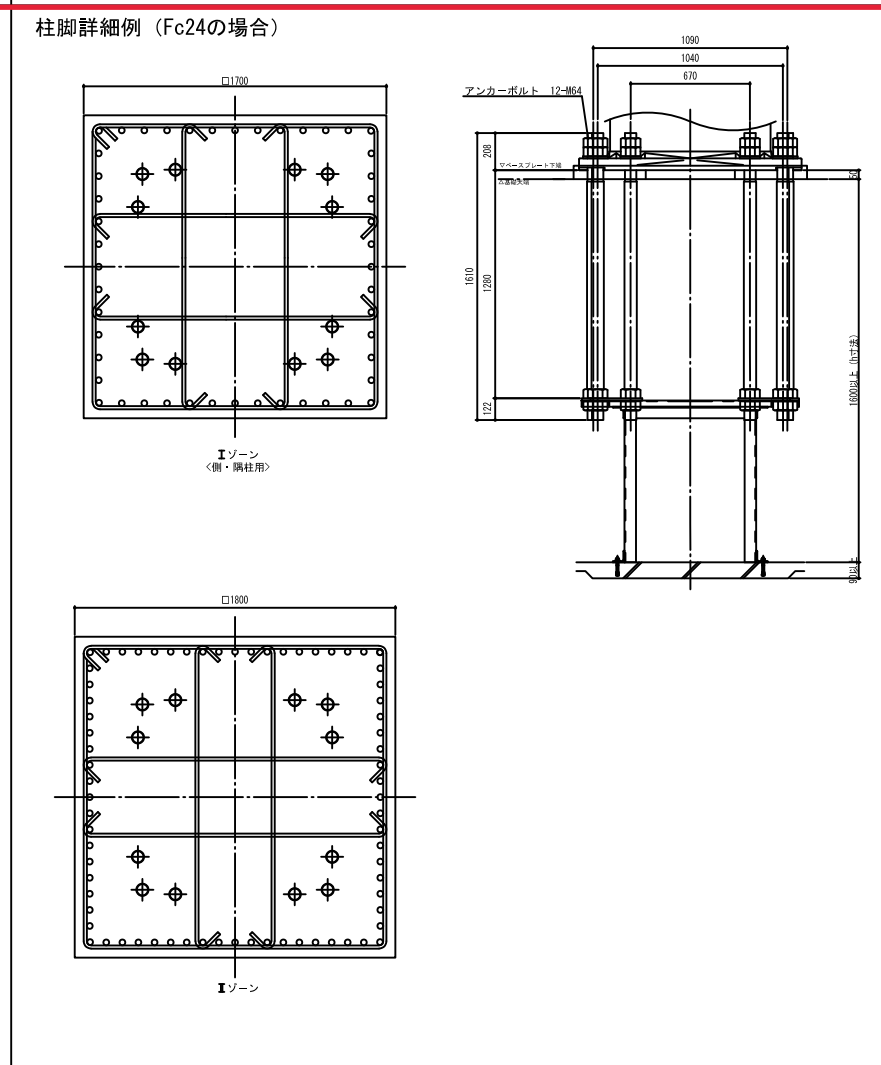
注1) I・IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



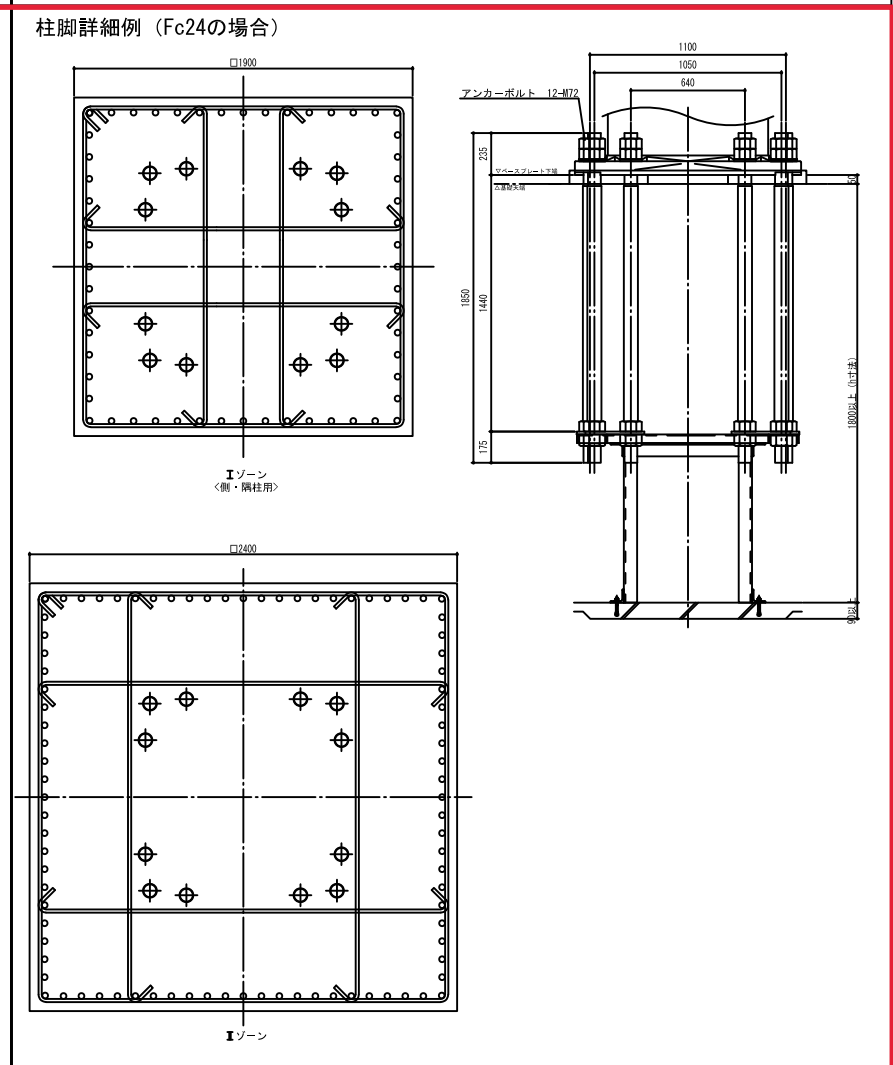
適用柱		角形鋼管柱 □900 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト	Iゾーン	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	1500	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	990	
<中柱用>	1500	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	990	

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一部です。アンカーボルトサイズや鉄筋の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □900 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト	Iゾーン	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	1700	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130	
<中柱用>	1700	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130	

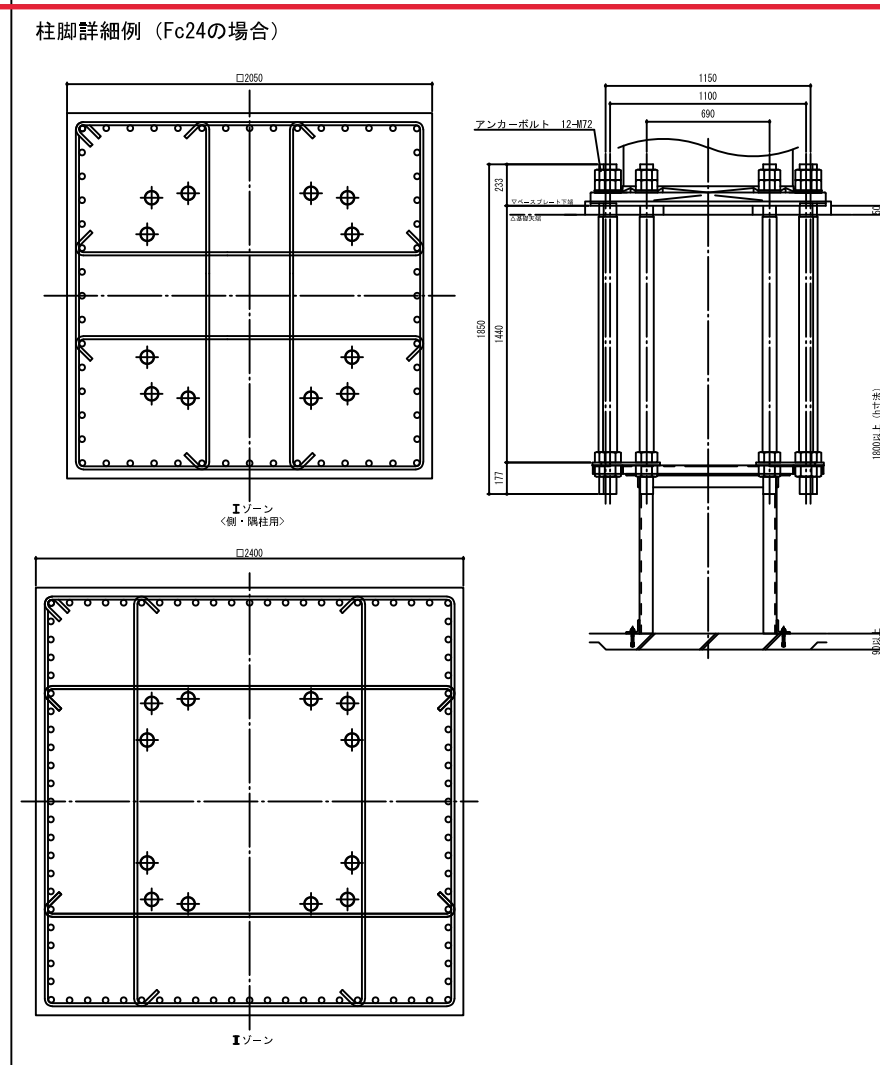
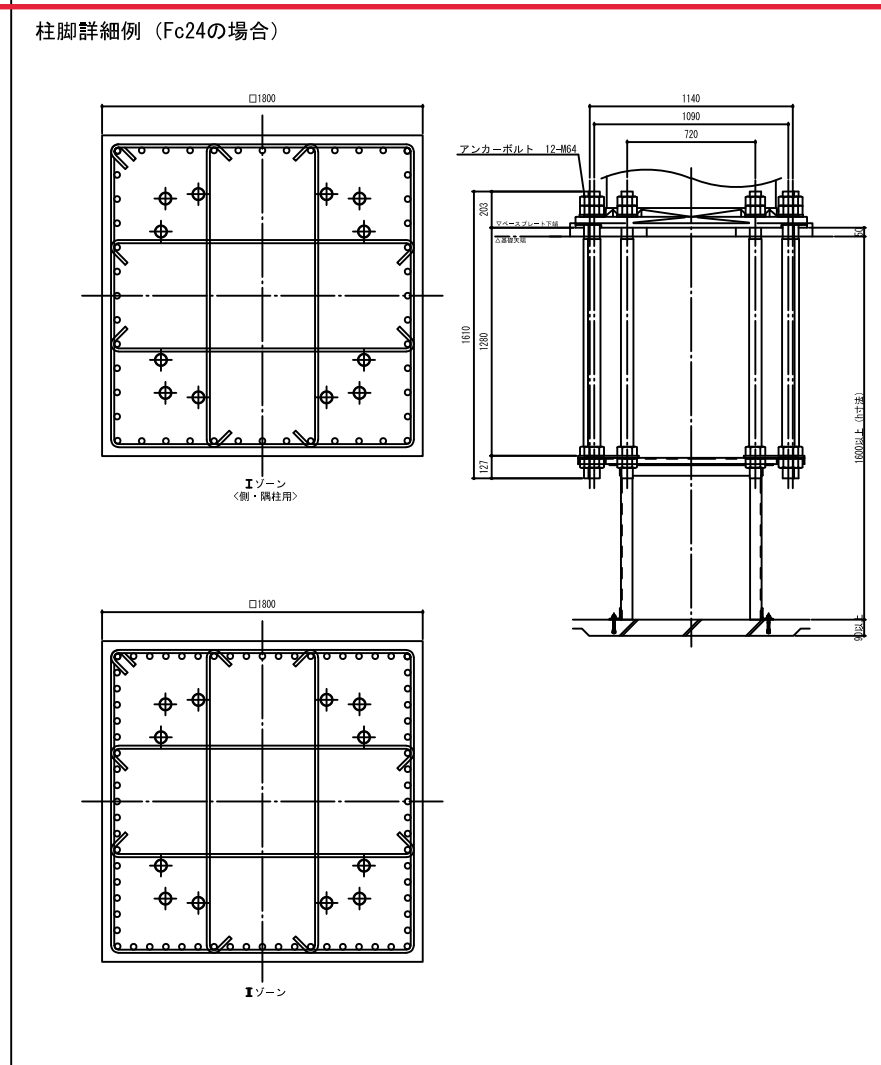
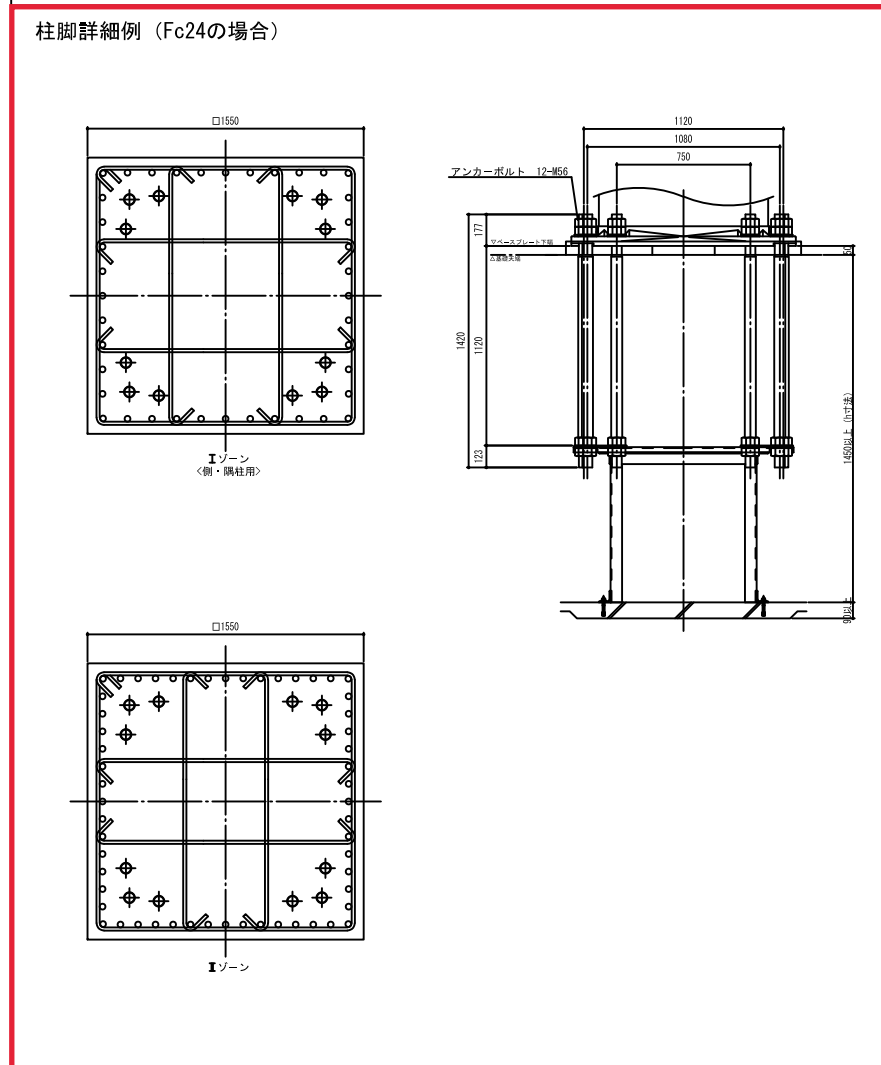
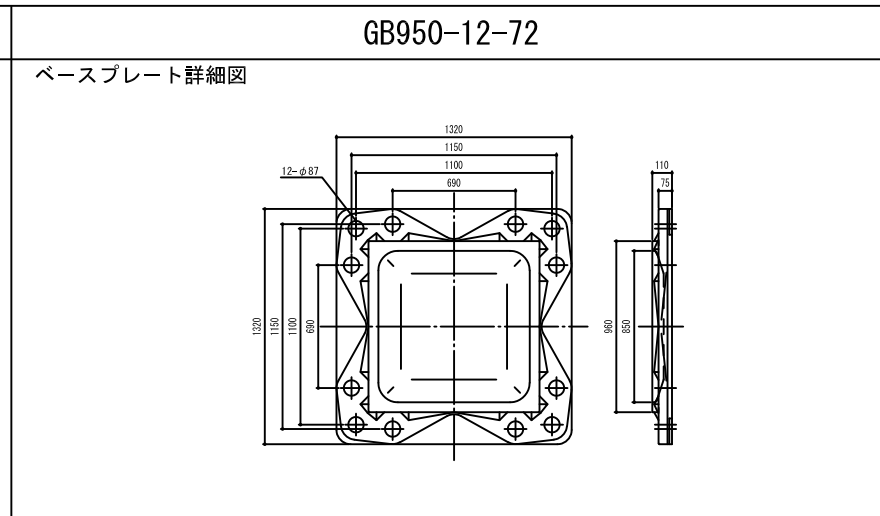
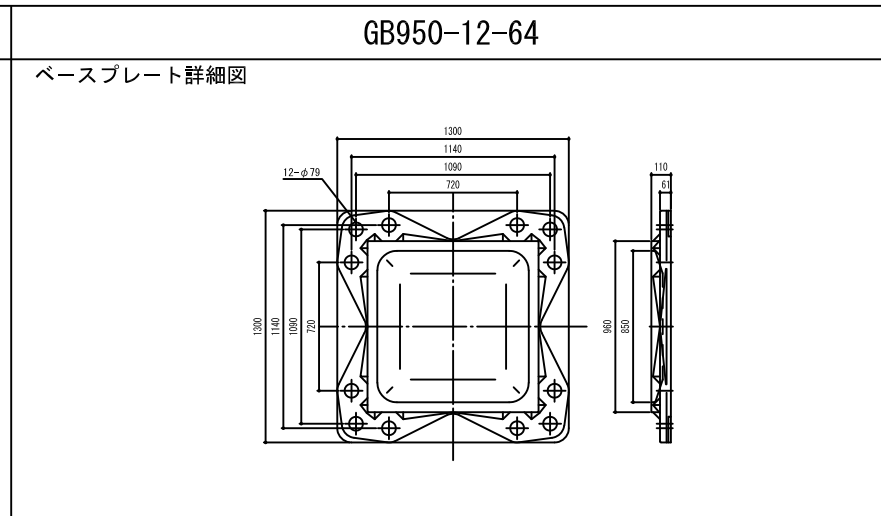
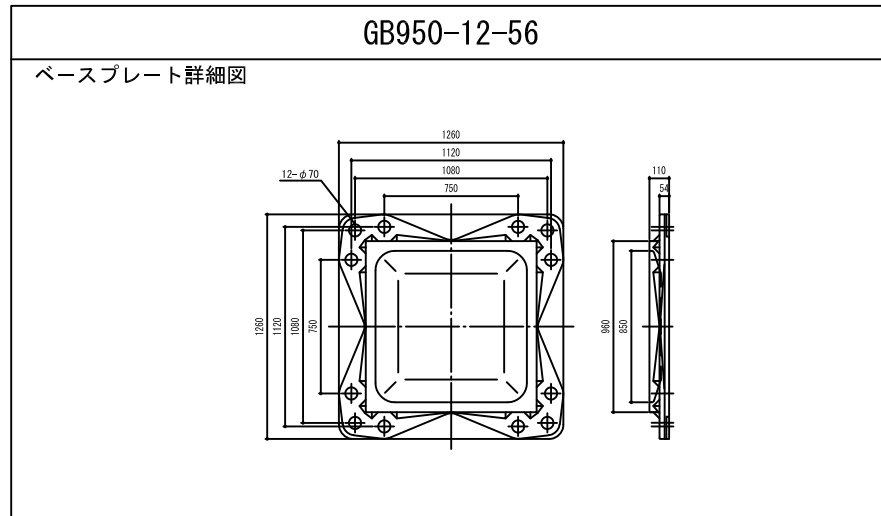
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一部です。アンカーボルトサイズや鉄筋の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □900 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト	Iゾーン	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	1900	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260	
<中柱用>	1900	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260	

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一部です。アンカーボルトサイズや鉄筋の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



適用柱		角形鋼管柱 □950 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M56			12-M64		
	鉄筋の定着長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	1550	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1550	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	980
<中柱用>	1550	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1550	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	980

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

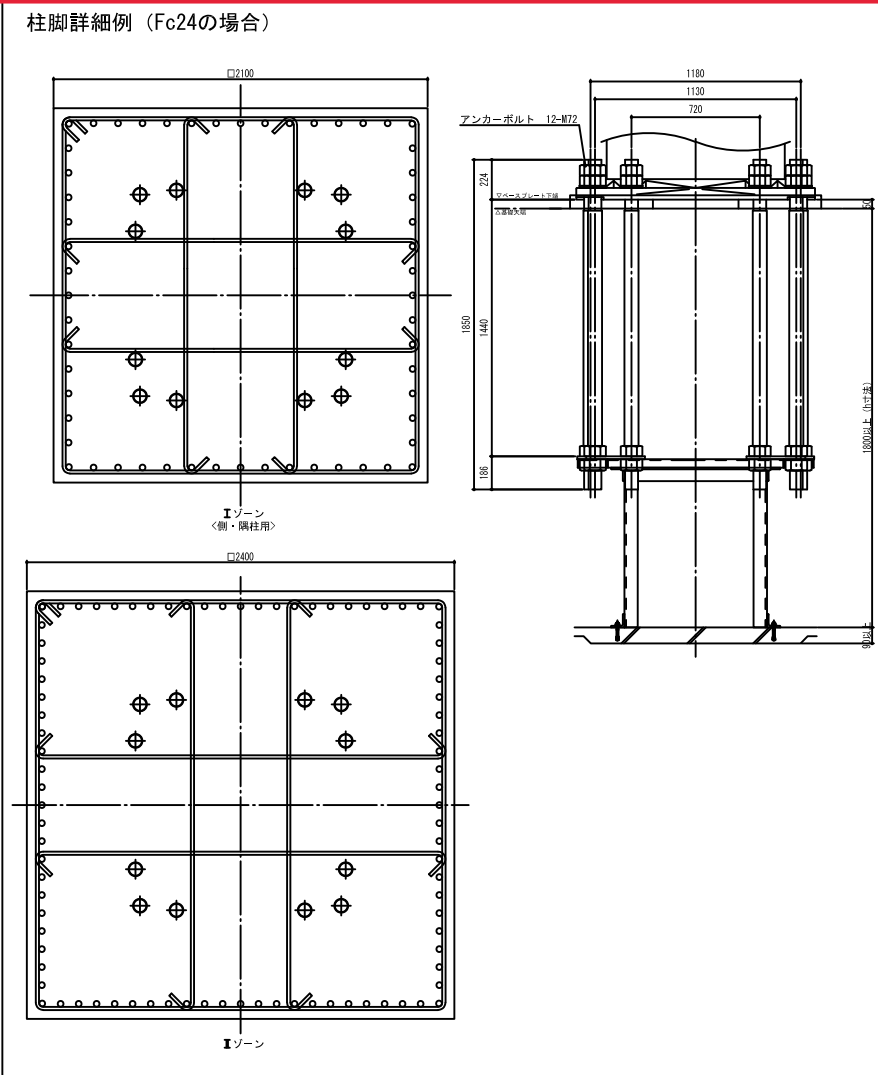
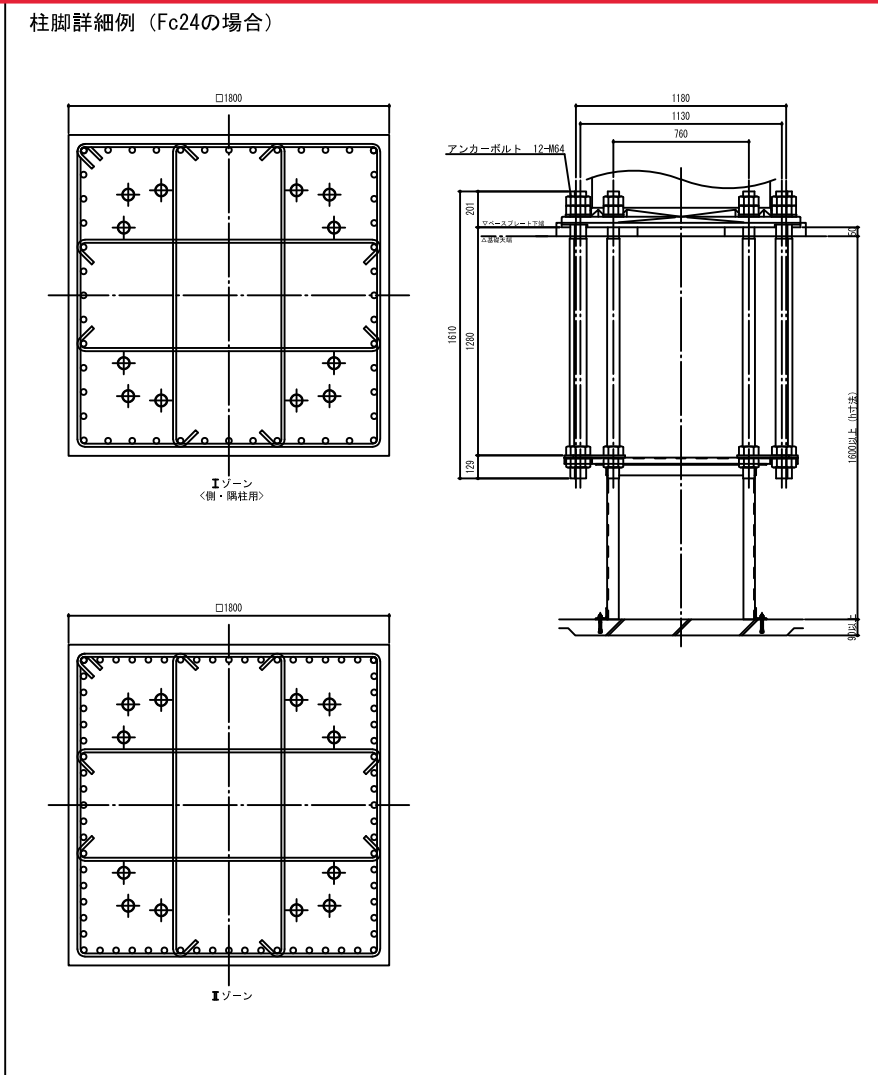
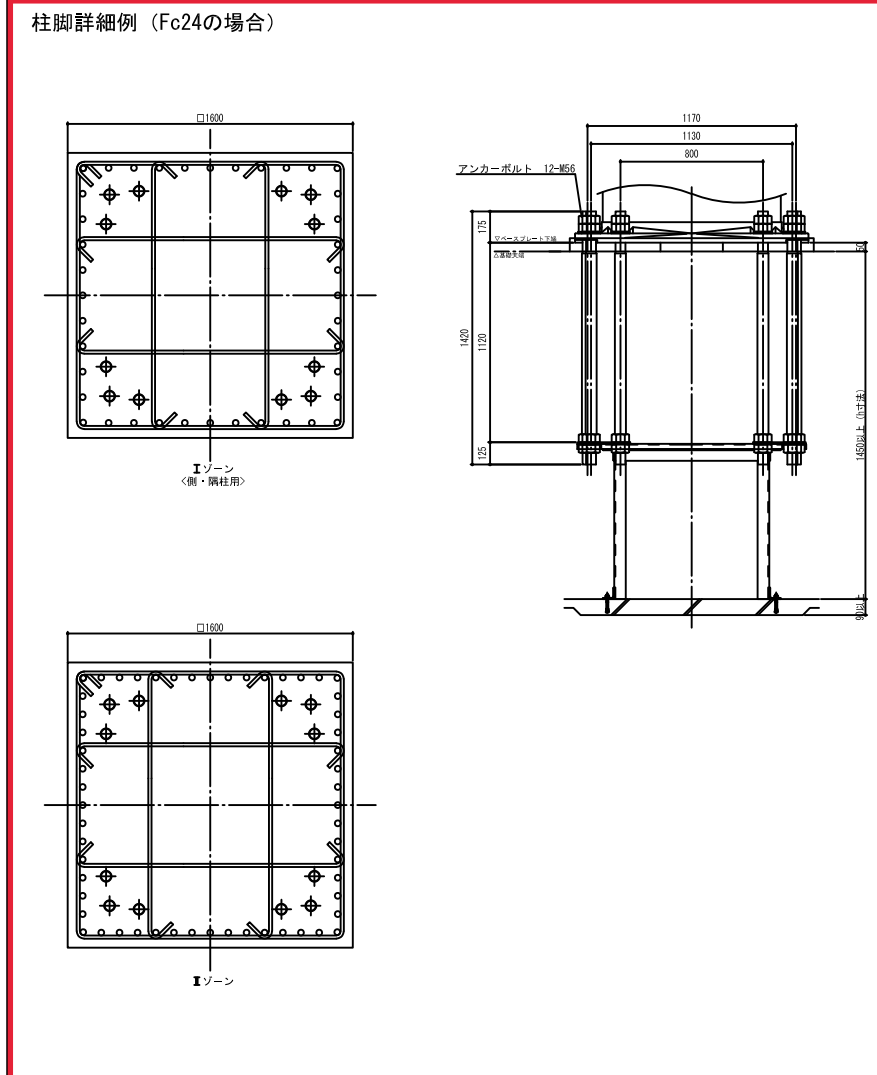
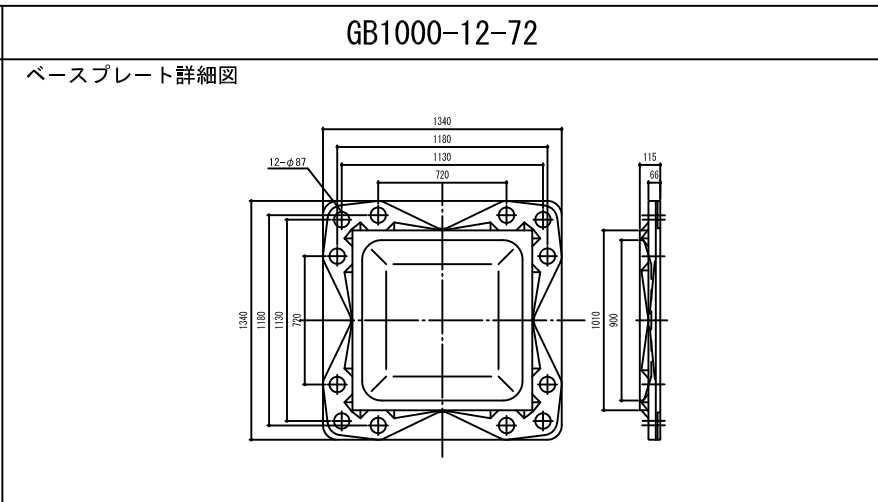
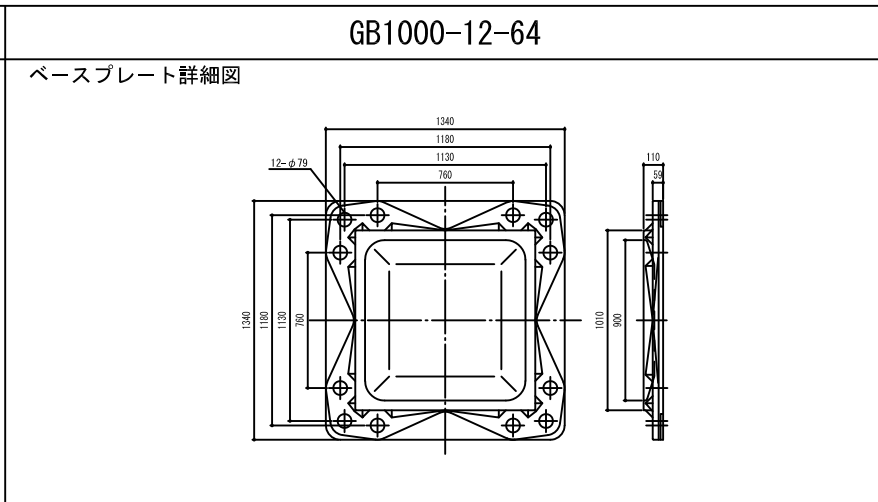
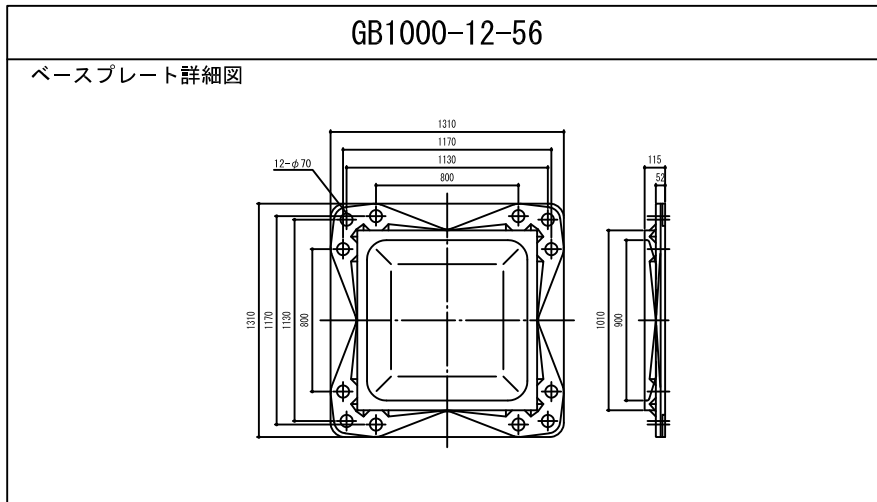
適用柱		角形鋼管柱 □950 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64			12-M72		
	鉄筋の定着長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	1800	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130
<中柱用>	1800	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱		角形鋼管柱 □950 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72			12-M80		
	鉄筋の定着長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	2050	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2050	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



適用柱	角形鋼管柱 □1000 (板厚範囲: 16~40mm)			
アンカーボルト	12-M56			
	Iゾーン		IIゾーン	
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	鉄筋の定常長さ (L)
<側・隅柱用>	1600	4Φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	970
<中柱用>	1600	3Φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	970

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各形式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用乗台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定常長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □1000 (板厚範囲: 16~40mm)			
アンカーボルト	12-M64			
	Iゾーン		IIゾーン	
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	鉄筋の定常長さ (L)
<側・隅柱用>	1800	4Φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1130
<中柱用>	1800	4Φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1130

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各形式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用乗台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定常長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

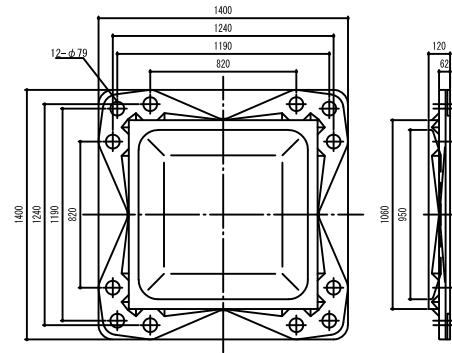
適用柱	角形鋼管柱 □1000 (板厚範囲: 16~40mm)			
アンカーボルト	12-M72			
	Iゾーン		IIゾーン	
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	鉄筋の定常長さ (L)
<側・隅柱用>	2100	5Φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1260
<中柱用>	2100	4Φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1260

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各形式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用乗台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定常長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

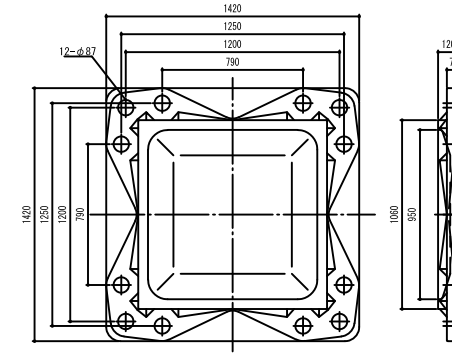
GB1050-12-64

ベースプレート詳細図

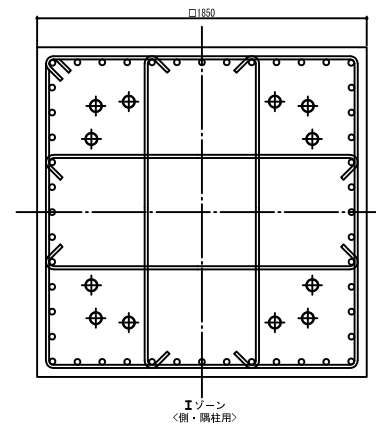


GB1050-12-72

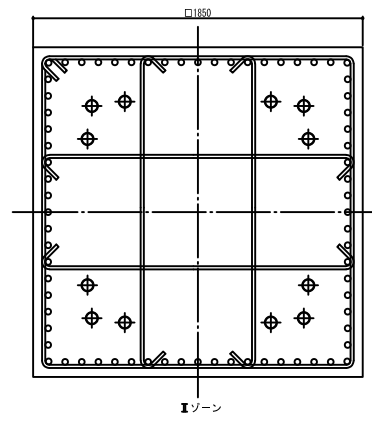
ベースプレート詳細図



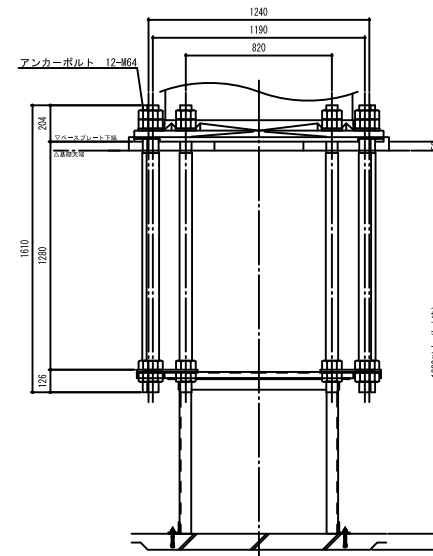
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン
〈側・隅柱用〉



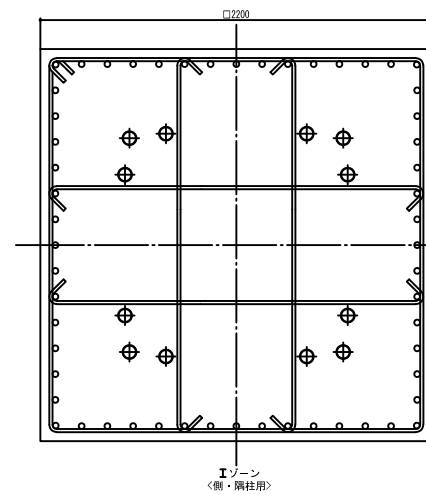
IIゾーン



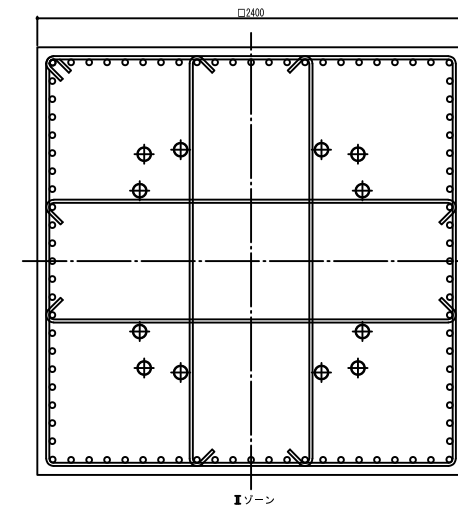
適用柱		角形鋼管柱 □1050 (板厚範囲：16~40mm)						
アンカーボルト		12-M64						
		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	1850	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120
〈中柱用〉	1850	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120

- 注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
- 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
- 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
- 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

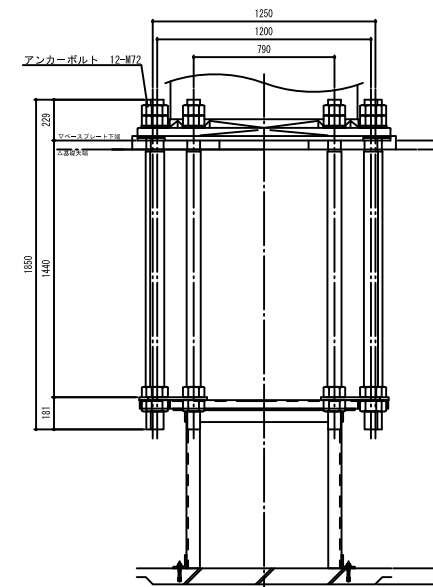
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン
〈側・隅柱用〉



IIゾーン



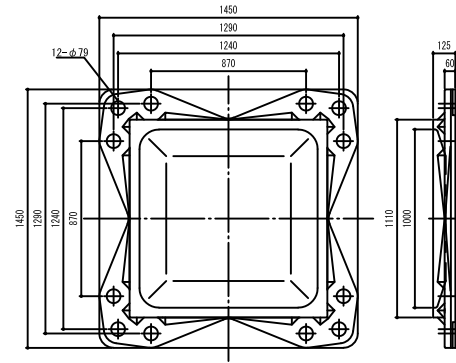
適用柱		角形鋼管柱 □1050 (板厚範囲：16~40mm)						
アンカーボルト		12-M72						
		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	2200	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
〈中柱用〉	2200	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

- 注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
- 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
- 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
- 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

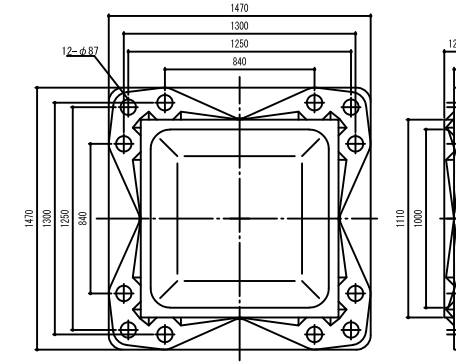
GB1100-12-64

ベースプレート詳細図

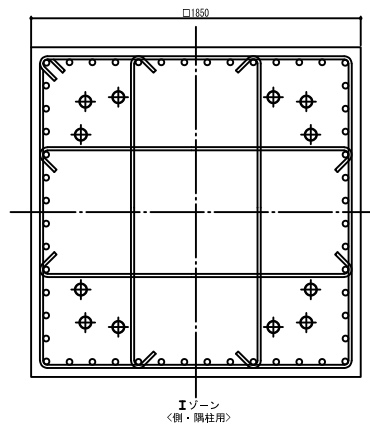


GB1100-12-72

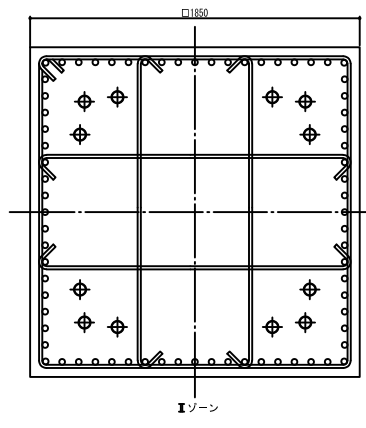
ベースプレート詳細図



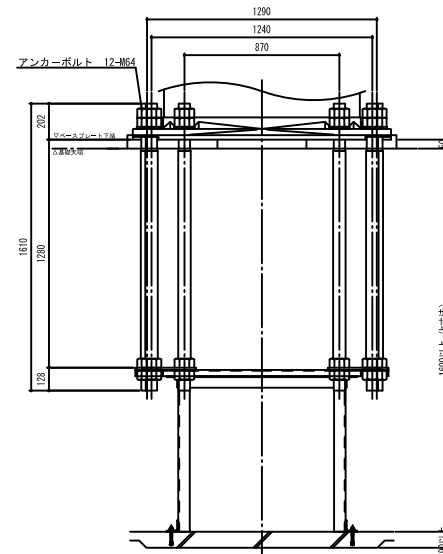
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン
〈側・隅柱用〉



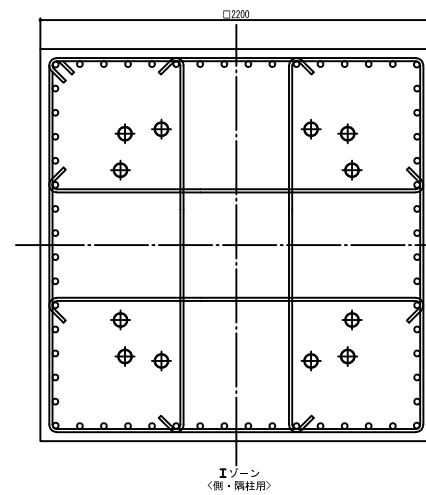
IIゾーン



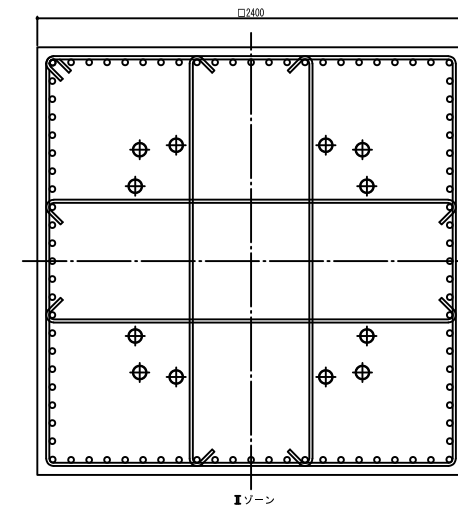
適用柱		角形鋼管柱 □1100 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		12-M64						
		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の 定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	1850	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120
〈中柱用〉	1850	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

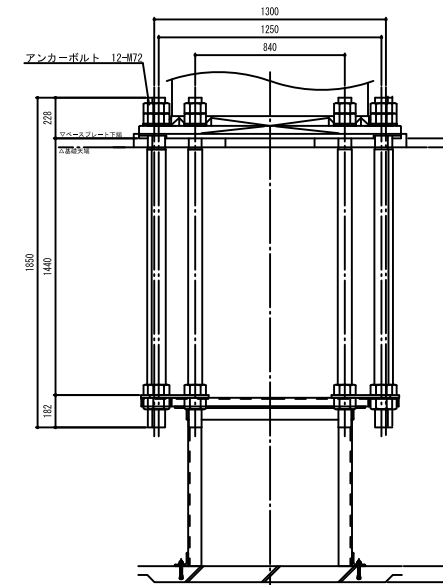
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン
〈側・隅柱用〉



IIゾーン



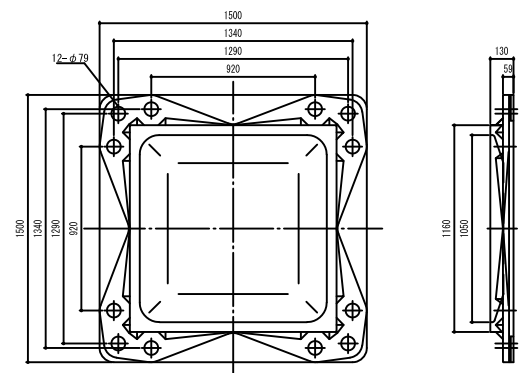
適用柱		角形鋼管柱 □1100 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		12-M72						
		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の 定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	2200	60-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
〈中柱用〉	2200	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

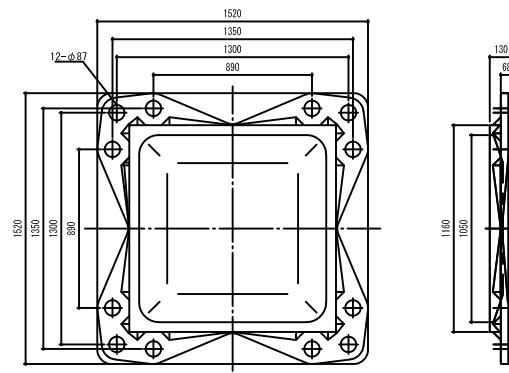
GB1150-12-64

ベースプレート詳細図

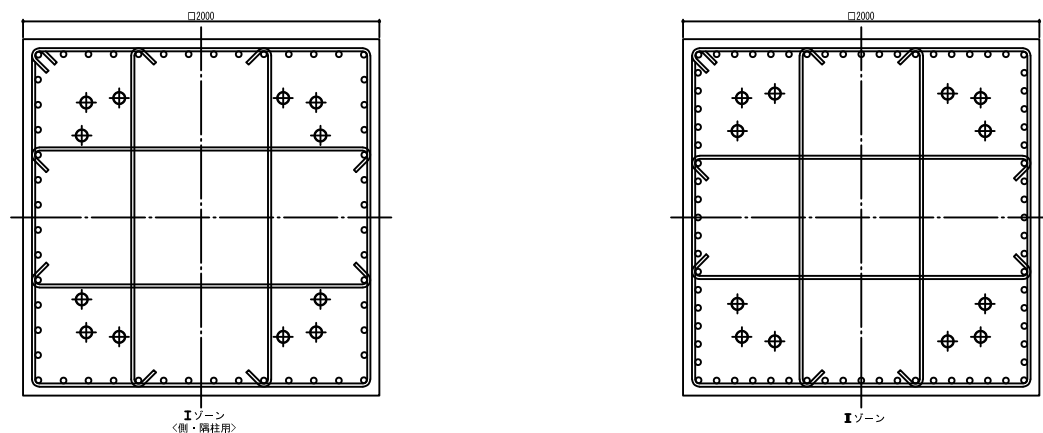


GB1150-12-72

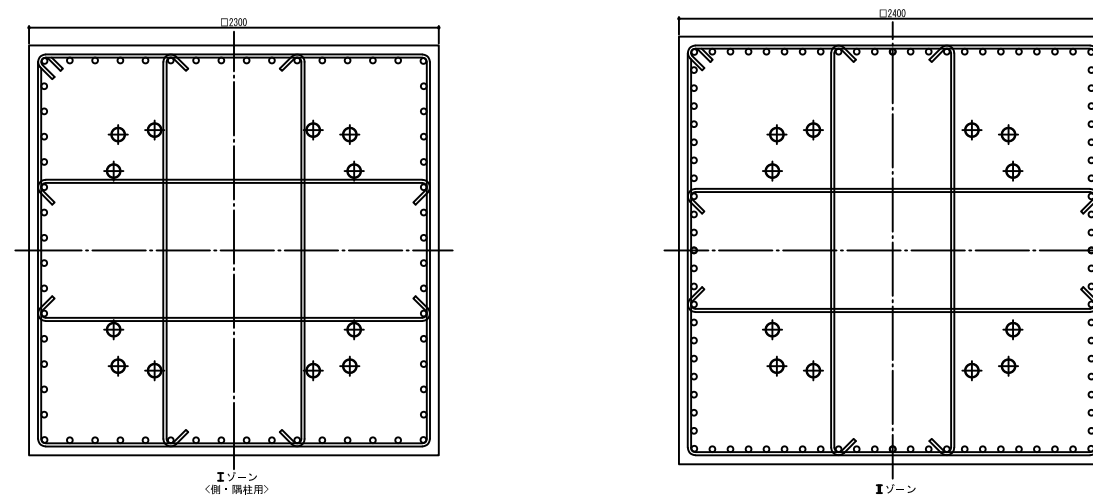
ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc24の場合)

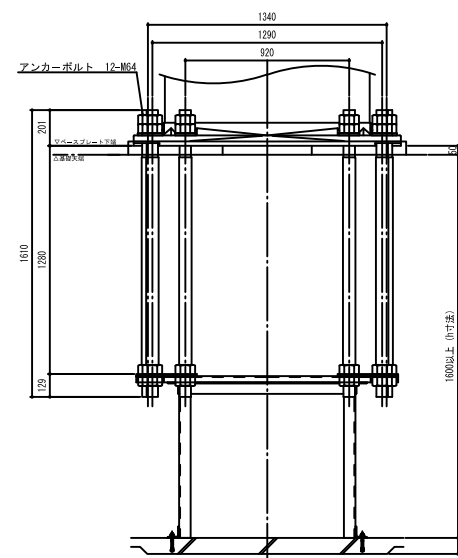


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



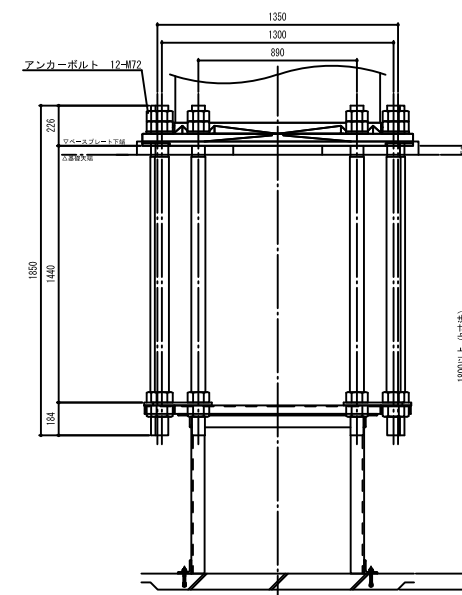
適用柱		角形鋼管柱 □1150 (板厚範囲: 16~40mm)				鉄筋の 定着長さ (L)	
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	2000	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2000	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1090
<中柱用>	2000	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2000	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1090

- 注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力検証を参照下さい。
- 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
- 注5) アンカーボルト設置用集合は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □1150 (板厚範囲: 16~40mm)				鉄筋の 定着長さ (L)	
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	2300	60-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2300	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

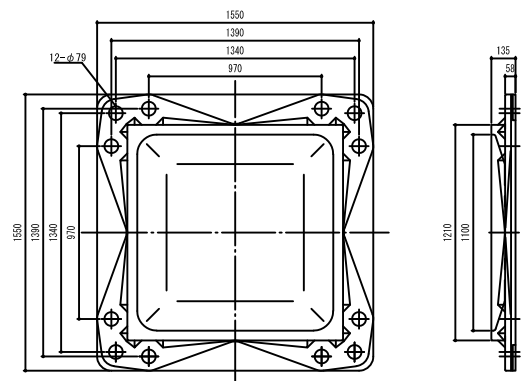
- 注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力検証を参照下さい。
- 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
- 注5) アンカーボルト設置用集合は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

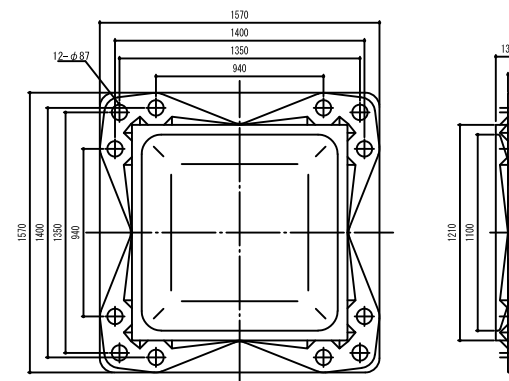
GB1200-12-64

ベースプレート詳細図

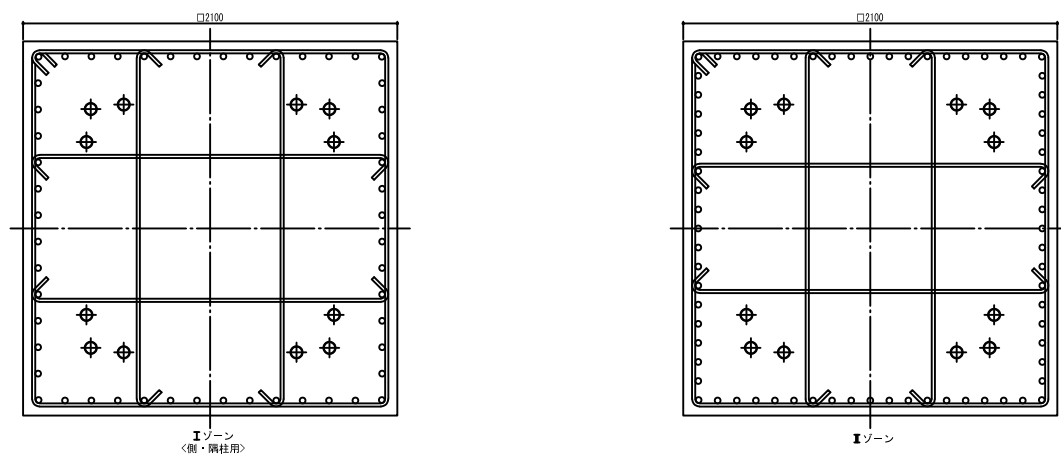


GB1200-12-72

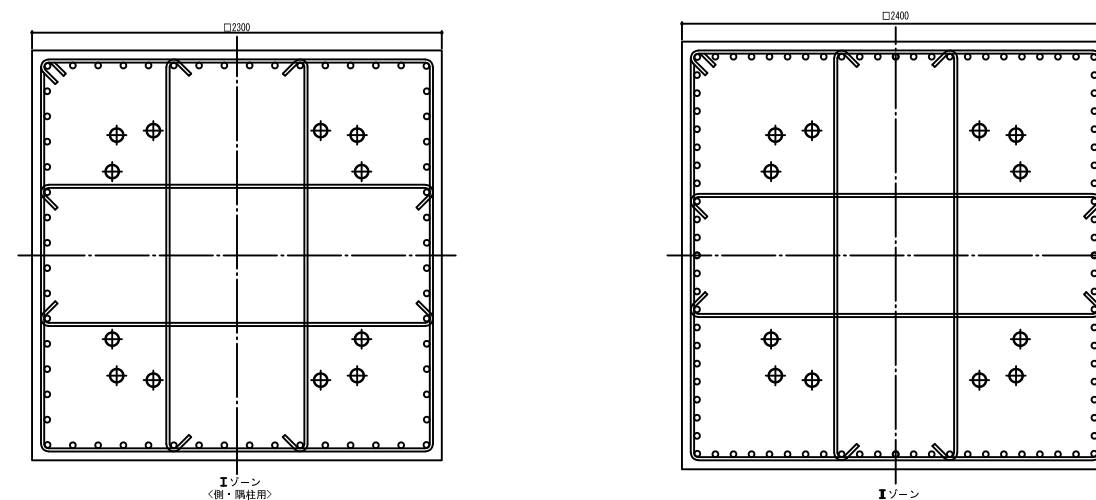
ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc24の場合)

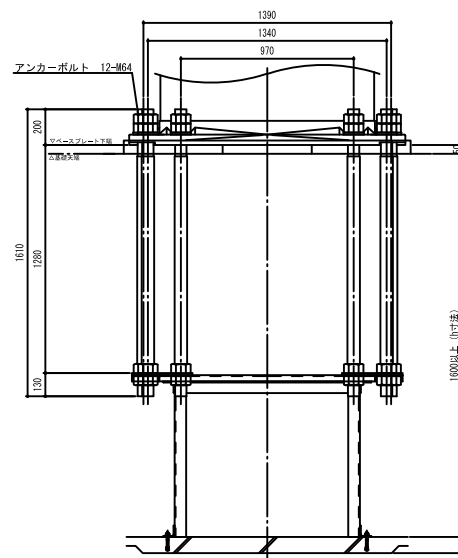


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



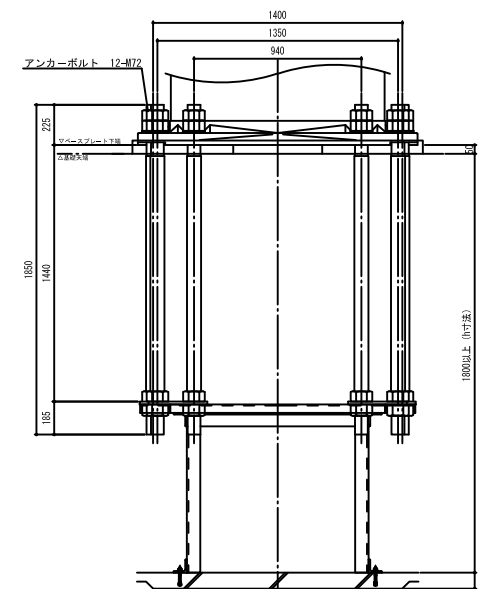
適用柱		角形鋼管柱 □1200 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	2100	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2100	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1070	
<中柱用>	2100	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2100	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1070	

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力性能を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に及び、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □1200 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	2300	60-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260	
<中柱用>	2300	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260	

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力性能を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に及び、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

GM850-8-64	GM900-8-64	GM950-8-64	GM1000-8-64																																																																																																																																																								
<p>ベースプレート詳細図</p>	<p>ベースプレート詳細図</p>	<p>ベースプレート詳細図</p>	<p>ベースプレート詳細図</p>																																																																																																																																																								
<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p>	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p>	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p>	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p>																																																																																																																																																								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1250</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1300</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#80 (SD295)</td> <td>1090</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1250</td> <td>28-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1300</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#80 (SD295)</td> <td>1090</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準じ、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1250	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1090	<中柱用>	1250	28-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1090	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1350</td> <td>36-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1350</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準じ、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070	<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1350</td> <td>36-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1350</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準じ、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070	<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1400</td> <td>36-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1400</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1120</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1400</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1400</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16#100 (SD295)</td> <td>1120</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準じ、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1400	36-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1120	<中柱用>	1400	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1120
適用柱		円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1250	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1090																																																																																																																																																				
<中柱用>	1250	28-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1090																																																																																																																																																				
適用柱		円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
適用柱		円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16#80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
適用柱		円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1400	36-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1120																																																																																																																																																				
<中柱用>	1400	32-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16#100 (SD295)	1120																																																																																																																																																				

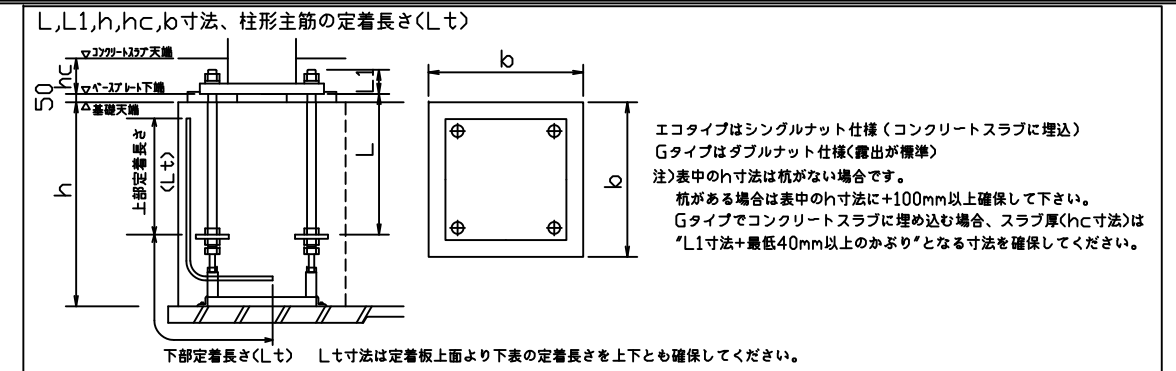
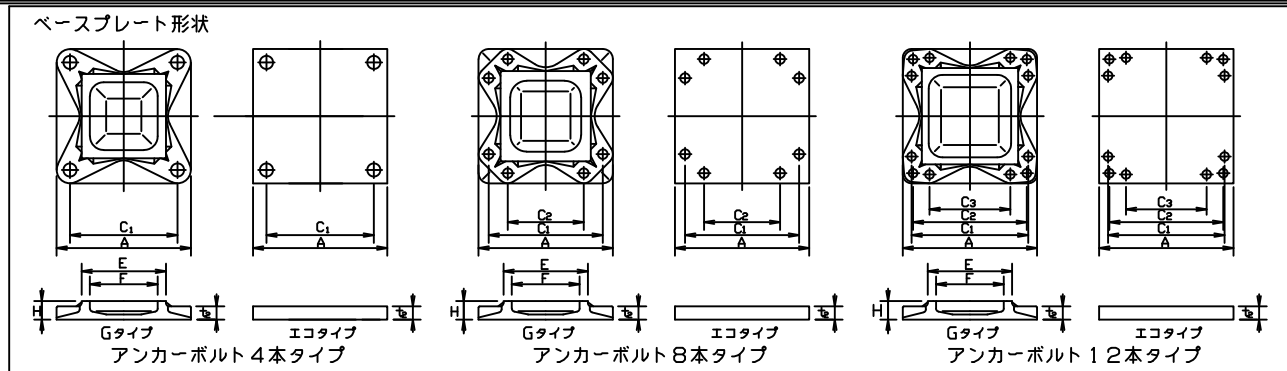
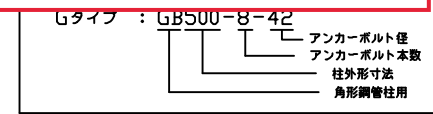
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) <角形鋼管柱用 150~550>

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠の板厚範囲を修正



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用150~550)

Table with columns for column size, height, type (Eco/G), anchor bolts, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, column, stirrups).

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。

センクシア株式会社 (Senkya Co., Ltd.) contact information including TEL numbers for various regions (Tokyo, Chubu, Kansai, Chugoku, Kyushu) and the company URL.

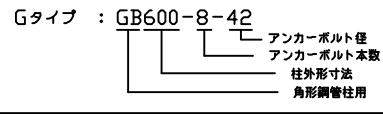
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)

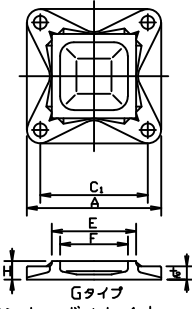
MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

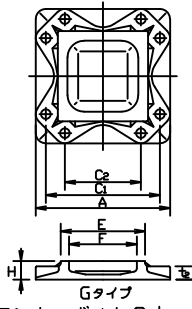
赤枠部分を追加



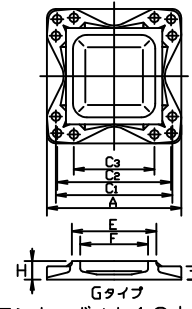
ベースプレート形状



アンカーボルト4本タイプ

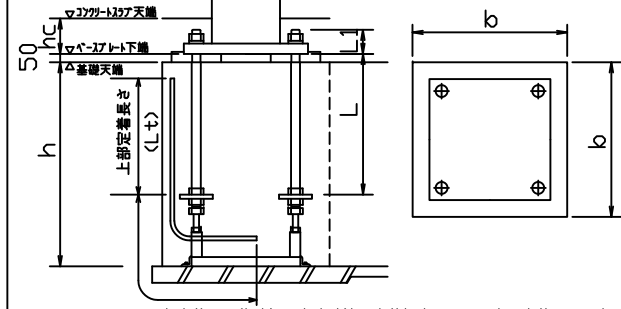


アンカーボルト8本タイプ



アンカーボルト12本タイプ

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。 杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。 Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は 'L1寸法+最低40mm以上のかぶり'となる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用)口600~口1200)

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-section, L, L1, h, hc, b, Lt). Includes a red border around the main data area.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアに問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力範囲を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を口450以下はD10@250、口500以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

セクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260

URL https://www.senqcia.co.jp/

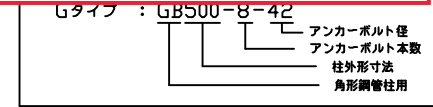
関西 TEL 06-6395-2133 中四国 TEL 082-240-1630 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) <角形鋼管柱用 150~550>

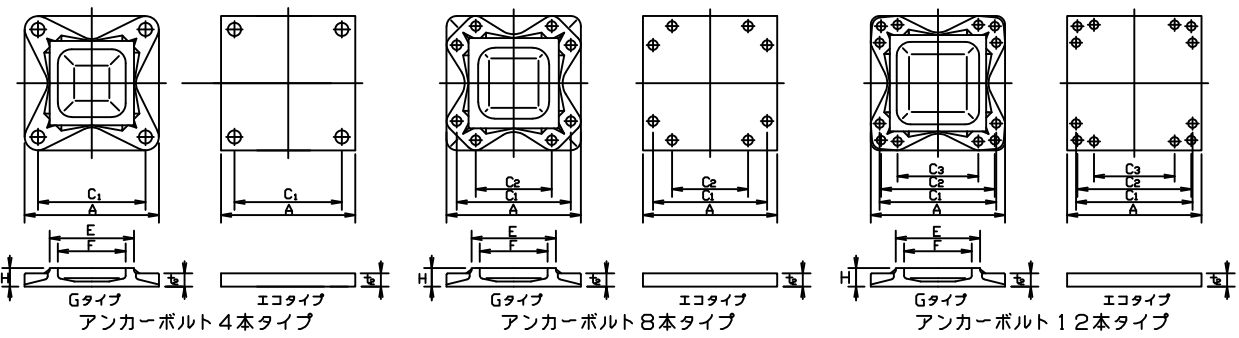
(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

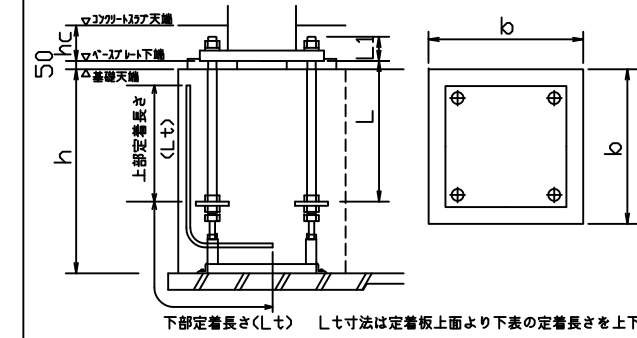
赤枠の板厚範囲を修正



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。 杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。 Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は 'L1寸法+最低40mm以上のかぶり'となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用150~550)

Table with columns for column size, height, type (Eco/G), anchor bolts, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, column diameter, main reinforcement, stirrups, anchorage length Lt).

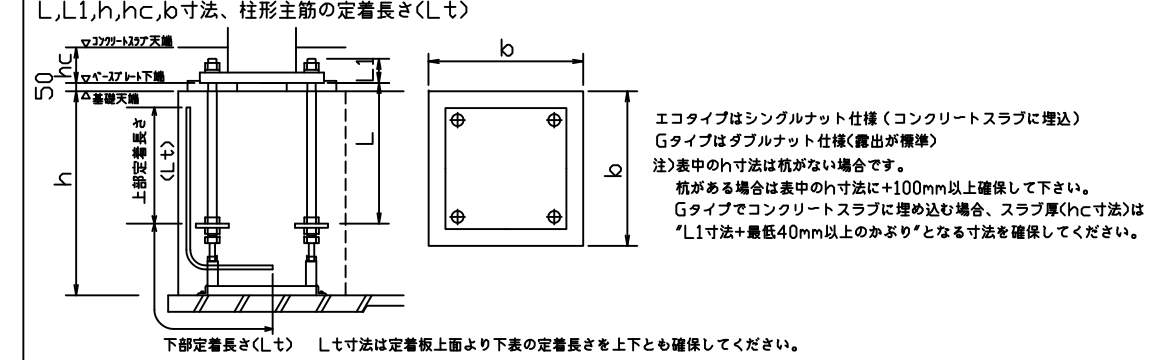
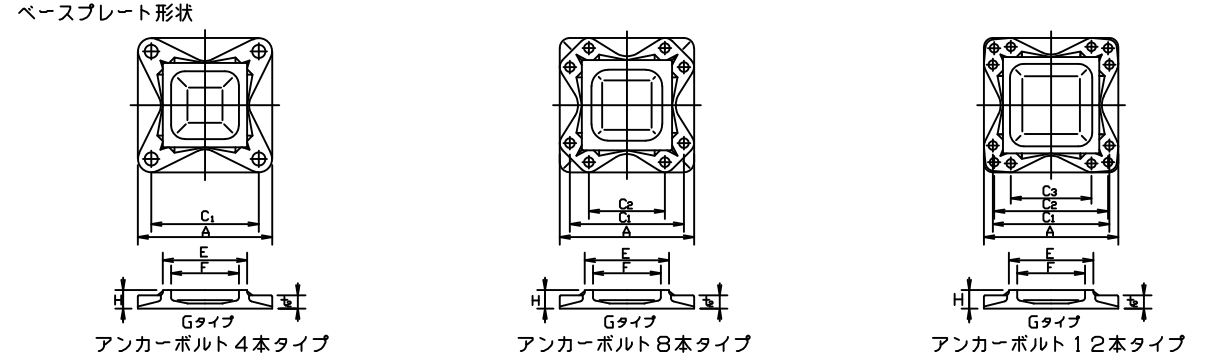
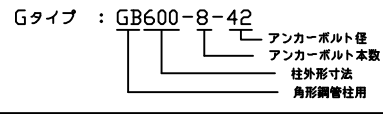
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力範囲を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上りがない場合(基礎梁と基礎柱形が一致する場合)の設計例です。上りがある場合は、別途設計をお願いします。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D150以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の重量はアンカーボルト部品と形を合わせた重量です。

センクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加



・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用□600~□1200)

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, L, L1, hc, b, main reinforcement, stirrups, etc.).

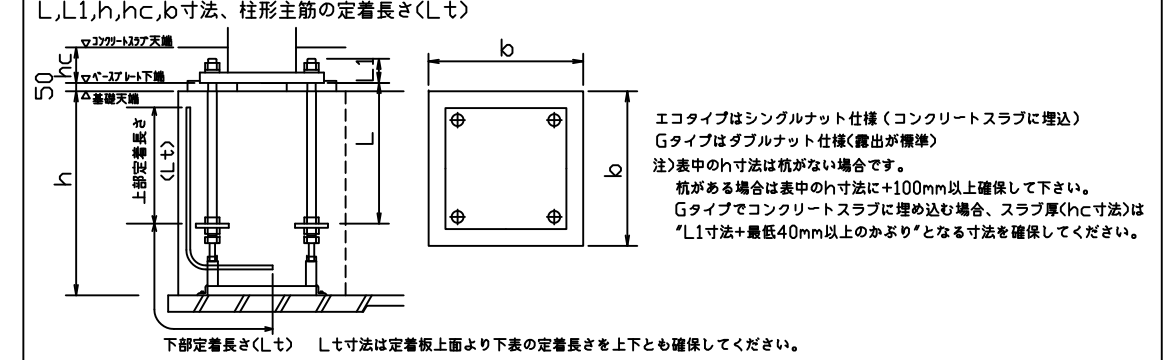
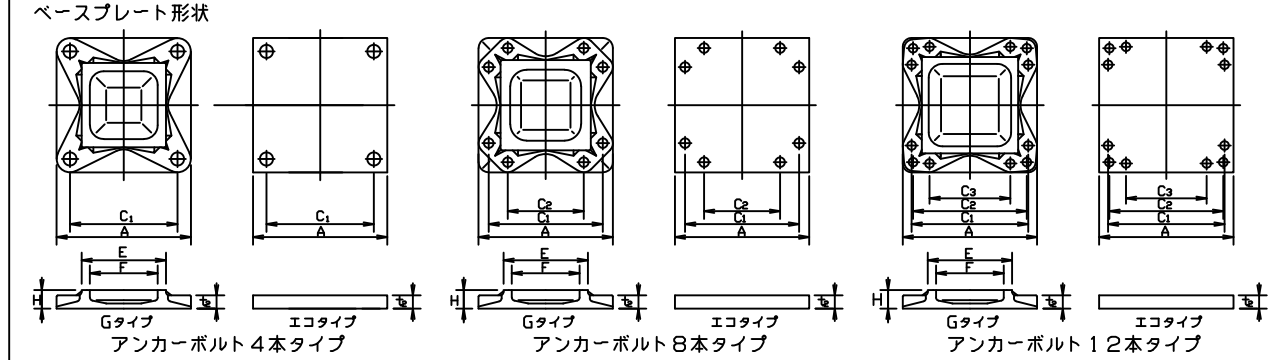
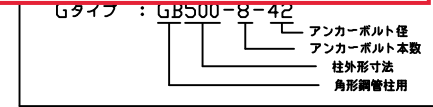
鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。 注1) I・IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠の板厚範囲を修正



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用φ150~φ550)

Table with columns for column size, height, NEO type, anchor bolt, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, column b, reinforcement).

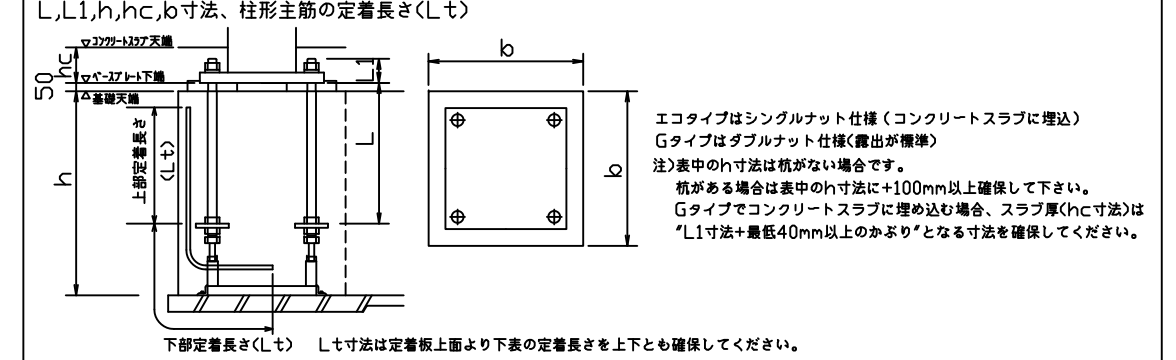
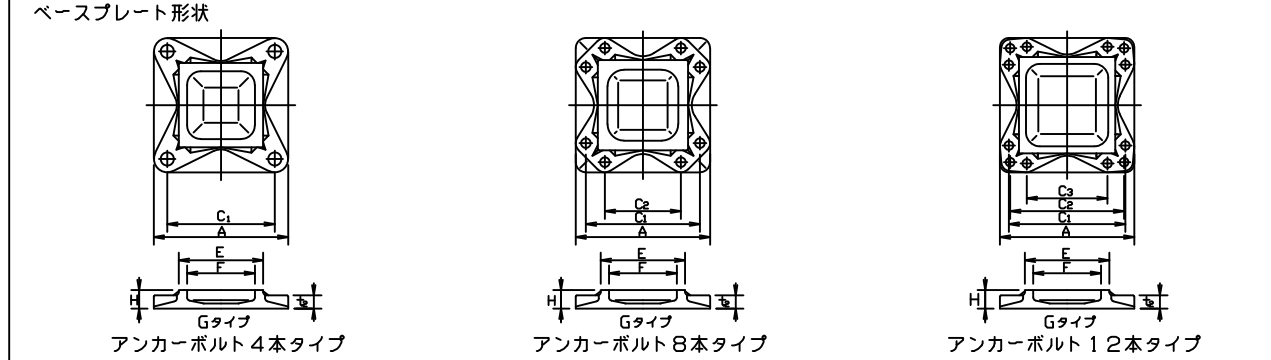
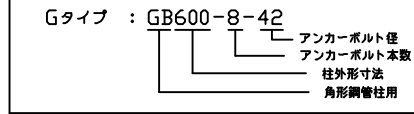
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力範囲を参照下さい。注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示し、この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上からの場合(基礎梁と基礎柱形が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ450以下はD10@250、φ500以下はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形を合わせた質量です。

セクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用)600~1200

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, L, L1, h, hc, b, main reinforcement, stirrups). Includes a red border around the main data area.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I・IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

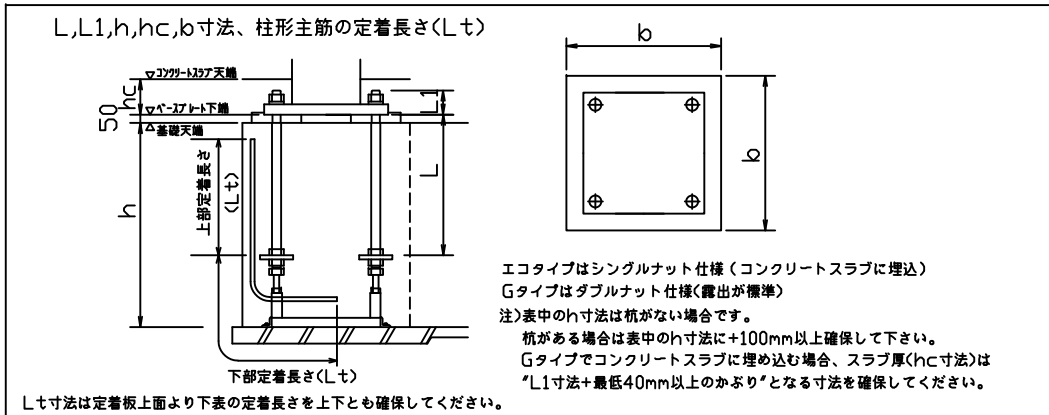
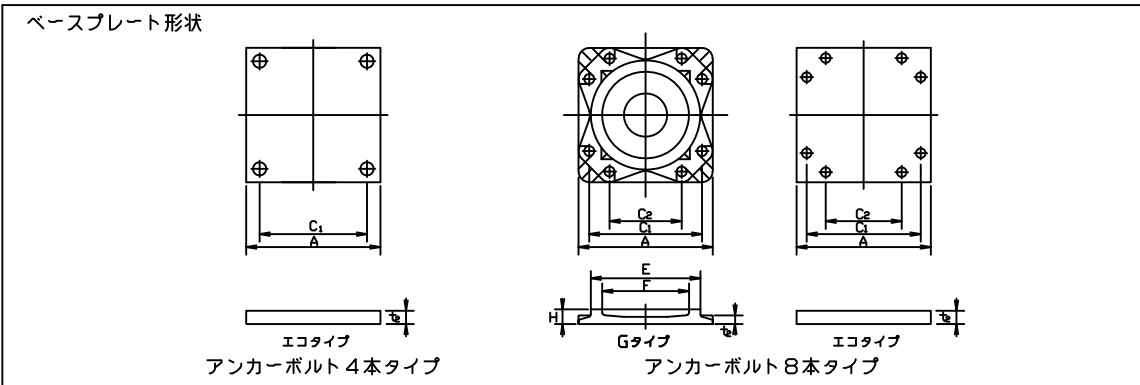
センクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ) BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加

エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外径寸法
円形鋼管柱用



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes sub-tables for I-zone and II-zone reinforcement designs.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。上りがない場合、独立基礎の場合は、
ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。
あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品の質量を合わせた質量です。

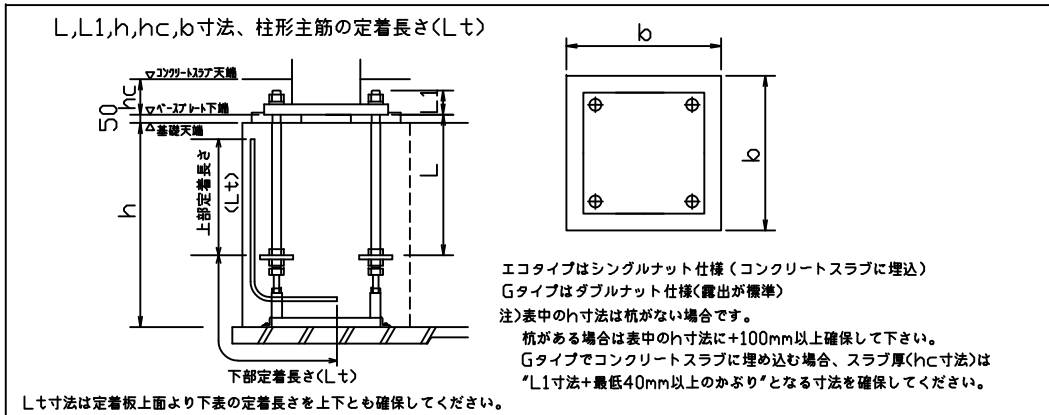
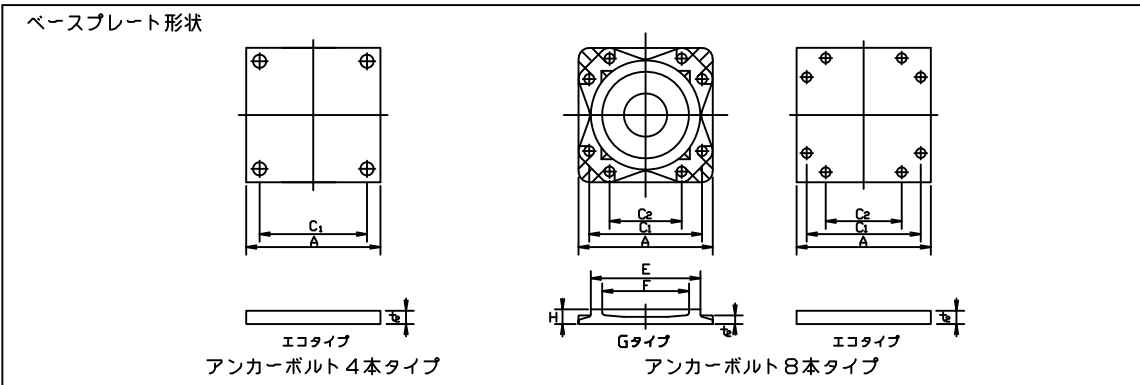
センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加

エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外径寸法
円形鋼管柱用



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes sub-tables for design examples (Fc24) for column and middle column.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。上りがない場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

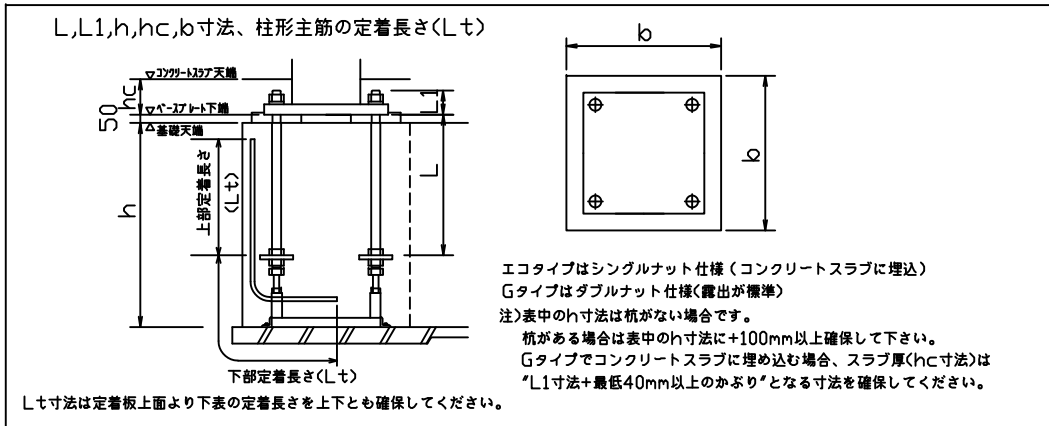
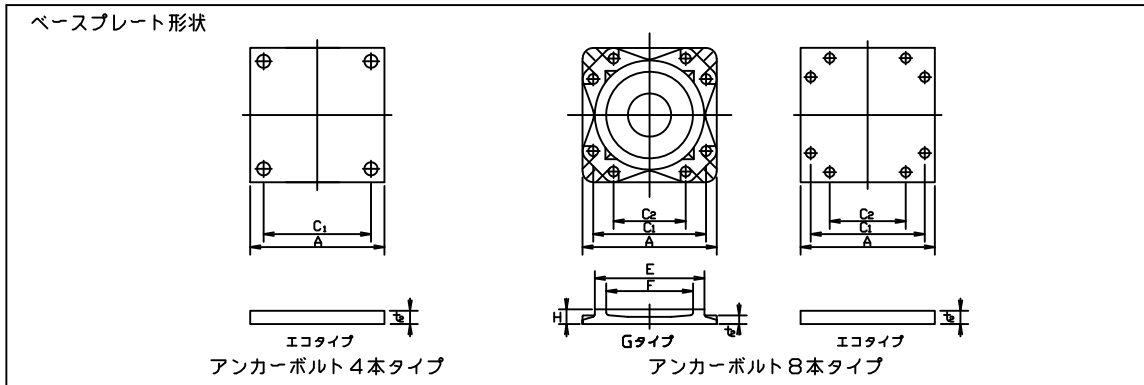
センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ) BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加

エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外径寸法
円形鋼管柱用



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes sub-tables for design examples (Fc27) for column and middle column.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の重量はアンカーボルト部品と形板を合わせた重量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

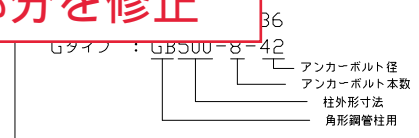
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合)

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
(ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

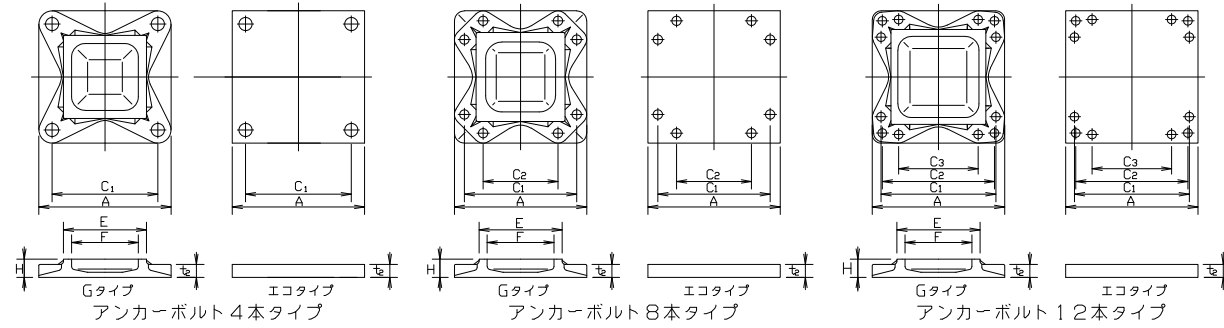
大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ)
BCJ評定-ST0059(エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

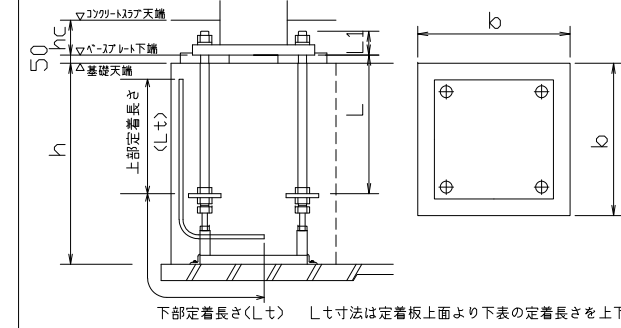
赤枠部分を修正



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



Eコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込)
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は
*L1寸法+最低40mm以上のかぶりとなる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法
(角形鋼管柱用□150~□550)

Table with columns for column size, plate thickness, type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), mass (kg), and reinforcement details (I-beam, reinforcement bars, column diameter, reinforcement length). Includes a red box highlighting specific rows.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご利用ください。表中に無いサイズについてはお問い合わせください。
注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は重量立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を含めた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

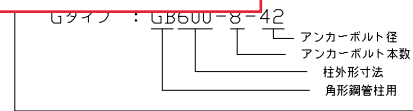
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

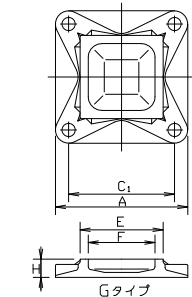
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

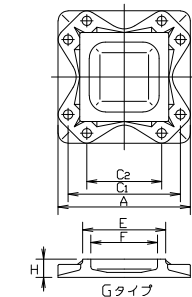
赤枠部分を修正



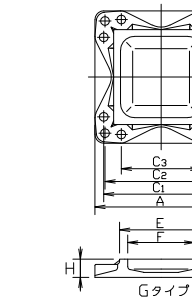
ベースプレート形状



アンカーボルト4本タイプ

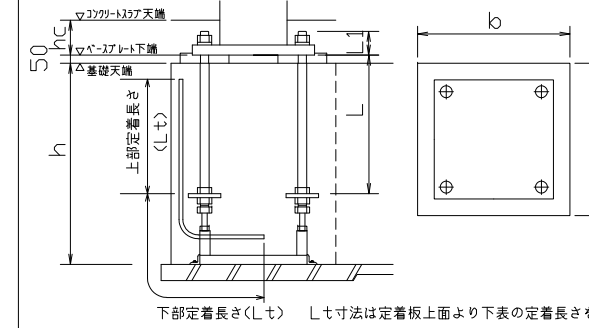


アンカーボルト8本タイプ



アンカーボルト12本タイプ

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



Eコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は*L1寸法+最低40mm以上のかぶりとなる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用) □600~□1200

Table with columns for column size, plate range, NEO type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, te), mass (kg), L, L1, h, hc, and reinforcement details (I-zone, column diameter, main bars, stirrups, anchorage length Lt).

柱サイズ□850~□1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。 柱サイズ□1050~□1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーンの分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を選択して下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社

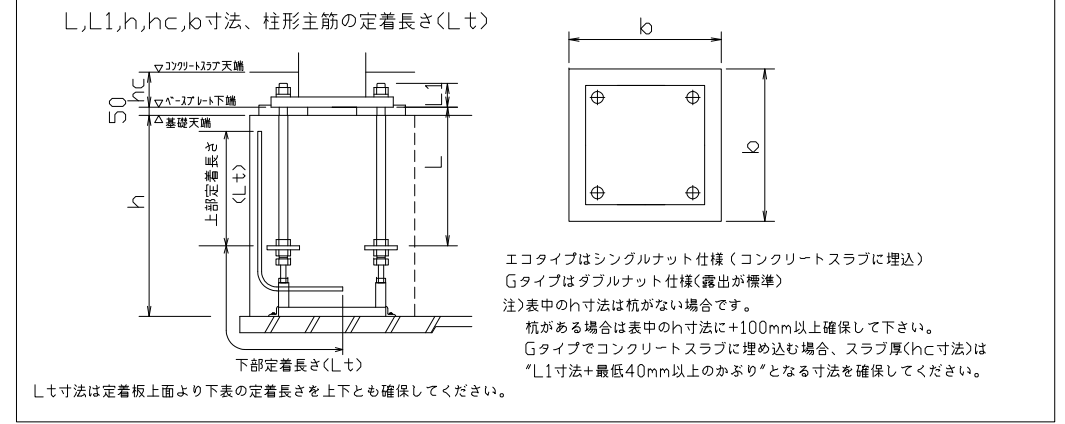
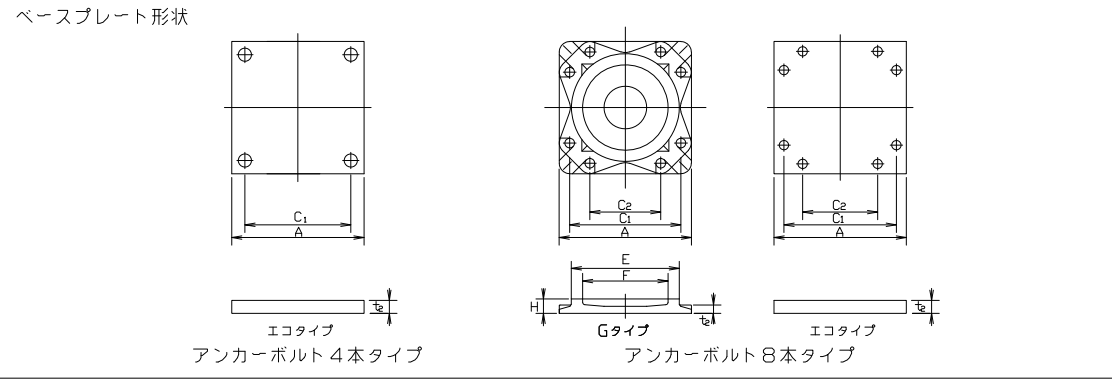
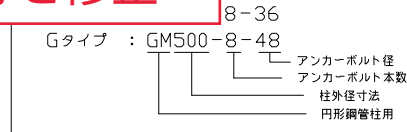
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBL T-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ) 本工法的设计・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を修正



・ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column specifications (採用, 適用柱, ハイベースNEO型式), dimensions (寸法), weight (質量), and reinforcement details (基礎柱形の設計例). Includes a note about column diameter φ850~φ1016 design examples.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社

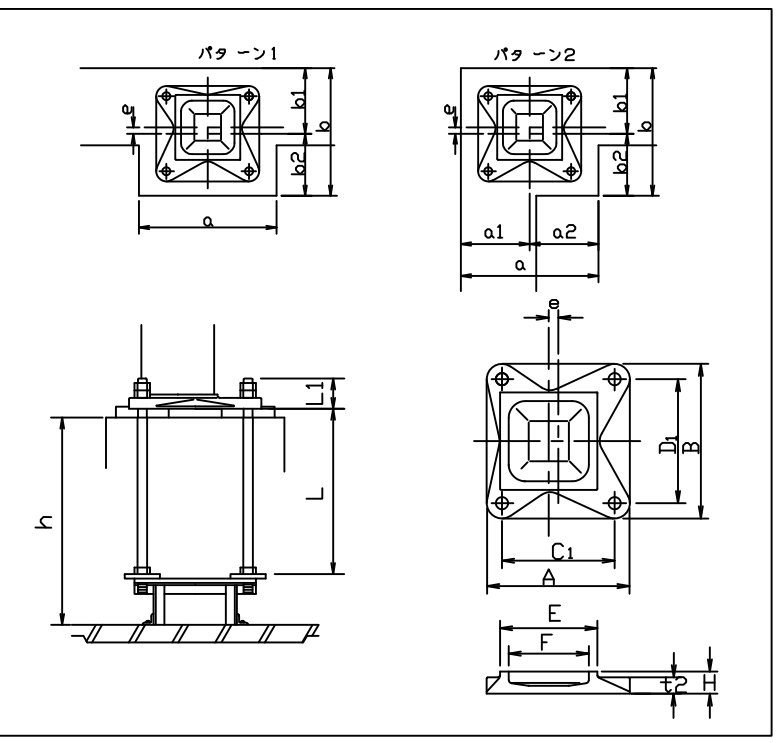
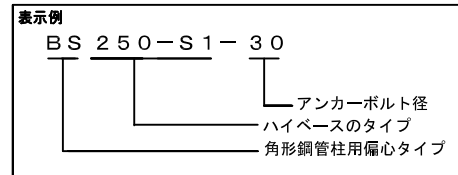
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL https://www.senqcia.co.jp/

Fc21対応の内容から Fc24対応の内容に修正

スーパーハイベース工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合)

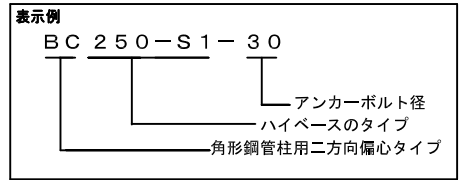
- 偏心型スーパーハイベース (角形鋼管)
- 一方向偏心型 (BSタイプ)



BS型式の基礎柱形の設計例

採用 柱符号	通用柱 数量	適用 サイズ	適用 厚板	ハイベース型式	偏心量 e	ばね定数 × 10 ¹⁰ N/m ² ・rad	寸法 (mm)														質量 (kg)		セット 質量 (kg)		L		h	基礎柱形の設計例						柱形主筋 Iゾーン	柱形主筋 IIゾーン	帯筋 鉄筋量	基礎柱形主筋の定着長さ (mm)
							偏心方向		A	B	C ₁	D ₁	E	F	H	t ₂	ハイベース	部品	パターン1		採用	パターン2		採用	柱形主筋			基礎柱形主筋の定着長さ									
							偏心方向	非偏心方向	a × b	b1	b2	a × b	a1	a2	b1	b2	Iゾーン	IIゾーン	Iゾーン	IIゾーン																	
□ 200 × 200	6 ~ 12	BS200-S1	-24	30	19.9	21.3	310	330	250	270	210	160	70	47	35	20	55	490	101	700以上	510 × 520	260	260	540 × 520	270	270	260	260	8-D16 (SD295)	16-D16 (SD295)	D13φ150 (SD295)	230					
							-30	35.7	46.3	380	460	280	360	256	200	85	67	72	33	105	600	134	820以上	620 × 560	280	280	640 × 560	320	320	280	280	12-D19 (SD345)	16-D19 (SD345)	D13φ150 (SD295)	340		
□ 250 × 250	6 ~ 16	BS250-S1	-36	40	43.1	56.5	450	530	340	420	306	240	95	77	112	53	165	720	157	940以上	690 × 630	315	315	710 × 630	355	355	315	315	12-D22 (SD345)	16-D22 (SD345)	D13φ150 (SD295)	420					
							-42	73.0	90.0	500	600	380	480	356	290	105	86	155	88	200	840	172	1070以上	720 × 650	325	325	730 × 650	365	365	325	325	12-D25 (SD345)	16-D25 (SD345)	D13φ150 (SD295)	520		
□ 300 × 300	6 ~ 22	BS300-S1	-42	50	79.8	115	500	600	380	480	356	290	105	86	155	91	246	840	181	1070以上	780 × 690	345	345	790 × 690	395	395	345	345	12-D25 (SD345)	16-D25 (SD345)	D13φ150 (SD295)	510					
							-48	103	134	590	690	450	550	408	328	120	100	240	124	279	960	193	1200以上	780 × 690	345	345	790 × 690	395	395	345	345	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ150 (SD295)	610		
□ 400 × 400	9 ~ 28	BS400-S1	-56	50	126	172	590	690	450	550	408	328	120	100	240	128	368	960	207	1200以上	850 × 760	380	380	860 × 760	430	430	380	380	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	530					
							-64	158	205	670	790	530	650	508	420	115	95	310	201	441	1120	223	1360以上	880 × 780	390	390	880 × 780	440	440	390	390	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	700		
□ 450 × 450	9 ~ 32	BS450-S1	-56	50	154	204	640	740	500	600	458	370	115	97	277	131	408	960	204	1200以上	900 × 810	405	405	910 × 810	455	455	405	405	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	520					
							-64	182	242	720	840	580	700	558	470	115	93	355	205	482	1120	220	1360以上	930 × 830	415	415	930 × 830	465	465	415	415	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	690		
□ 500 × 500	9 ~ 32	BS500-S1	-56	60	177	241	670	790	530	650	508	420	115	95	310	133	443	960	202	1200以上	950 × 840	420	420	960 × 840	480	480	420	420	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	510					
							-64	207	283	720	840	580	700	558	470	115	93	355	214	509	1120	216	1360以上	1030 × 910	455	455	1030 × 910	515	515	455	455	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	660		
□ 550 × 550	12 ~ 32	BS550-S1	-56	60	220	281	720	840	580	700	558	470	115	93	355	136	491	960	200	1200以上	1000 × 890	445	445	1010 × 890	505	505	445	445	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	500					
							-64	251	330	770	890	630	750	610	520	110	91	410	214	569	1120	216	1360以上	1030 × 910	455	455	1030 × 910	515	515	455	455	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	660		
□ 600 × 600	12 ~ 32	BS600-S1	-56	60	249	326	770	890	630	750	610	520	110	91	410	139	549	960	198	1200以上	1050 × 940	470	470	1060 × 940	530	530	470	470	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	490					
							-64	295	385	840	960	690	810	660	570	125	105	528	219	629	1120	214	1360以上	1080 × 960	480	480	1080 × 960	540	540	480	480	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	650		
□ 650 × 650	12 ~ 32	BS650-S1	-56	60	350	448	840	960	690	810	660	570	125	105	528	224	752	1120	228	1370以上	1130 × 1010	505	505	1130 × 1010	565	565	505	505	24-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	630					
							-64	404	516	890	1010	740	860	710	620	120	102	584	294	822	1280	247	1530以上	1140 × 1030	515	515	1150 × 1030	575	575	515	515	24-D25 (SD345)	36-D25 (SD345)	D16φ100 (SD295)	710		
□ 700 × 700	12 ~ 32	BS700-S1	-56	60	405	506	890	1010	740	860	710	620	120	102	584	229	823	1120	225	1370以上	1180 × 1060	530	530	1180 × 1060	590	590	530	530	24-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	620					
							-64	463	583	990	1110	840	960	810	720	130	110	640	299	893	1280	244	1530以上	1190 × 1080	540	540	1200 × 1080	600	600	540	540	24-D25 (SD345)	36-D25 (SD345)	D16φ100 (SD295)	700		

部品の質量はアンカーボルト部品と形板の1セットの質量です。
 表中に無いサイズについても対応可能です。セクションAに問い合わせ下さい。
 注 1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注 2) 基礎柱形の設計例(Fc24)の場合です。
 注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注 4) 表中の寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法に100mm以上確保して下さい。



二方向偏心型 (BCタイプ)

採用 柱符号	通用柱 数量	適用 サイズ	適用 厚板	ハイベース型式	偏心量 e	ばね定数 × 10 ¹⁰ N/m ² ・rad	寸法 (mm)														質量 (kg)		セット 質量 (kg)		L		h	基礎柱形の設計例						柱形主筋 Iゾーン	柱形主筋 IIゾーン	帯筋 鉄筋量	基礎柱形主筋の定着長さ (mm)
							偏心方向		A	B	E	F	H	H1	t ₂	ハイベース	部品	パターン1		採用	パターン2		採用	柱形主筋		基礎柱形主筋の定着長さ											
							偏心方向	非偏心方向	a × b	a1	a2	b1	b2	Iゾーン	IIゾーン	Iゾーン	IIゾーン																				
□ 250 × 250	6 ~ 16	BC250-S1	-30	40	35.7	43.1	380	280	256	200	230	131	67	120	32	152	600	115	820以上	88	25	115	560 × 560	280	280	280	280	8-D19 (SD345)	16-D19 (SD345)	D13φ150 (SD295)	380						
							-36	54.4	73.0	450	340	306	240	260	141	77	192	50	170	720	123	940以上	80	25	120	570 × 570	285	285	285	285	8-D22 (SD345)	16-D22 (SD345)	D13φ150 (SD295)	500			
□ 300 × 300	6 ~ 22	BC300-S1	-42	40	79.8	115	450	340	306	240	260	141	77	192	51	243	720	133	940以上	90	35	125	630 × 630	315	315	315	315	12-D22 (SD345)	16-D22 (SD345)	D13φ150 (SD295)	470						
							-48	103	134	500	380	356	290	280	149	86	263	85	277	840	143	1070以上	80	35	135	650 × 650	325	325	325	325	12-D25 (SD345)	16-D25 (SD345)	D13φ150 (SD295)	600			
□ 350 × 350	9 ~ 22	BC350-S1	-42	50	126	172	500	380	356	290	280	149	86	263	88	351	840	152	1070以上	88	25	120	690 × 690	345	345	345	345	12-D25 (SD345)	16-D25 (SD345)	D13φ150 (SD295)	580						
							-48	158	205	590	450	408	328	310	160	100	411	121	384	960	160	1200以上	80	25	120	690 × 690	345	345	345	345	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ150 (SD295)	700			
□ 400 × 400	9 ~ 28	BC400-S1	-56	50	154	204	640	500	458	370	305	159	97	478	125	536	960	174	1200以上	91	45	130	760 × 760	380	380	380	380	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	570						
							-64	182	242	720	580	558	470	300	158	93	588	196	607	1120	183	1360以上	82	45	140	780 × 780	390	390	390	390	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	760			
□ 450 × 450	9 ~ 32	BC450-S1	-56	50	220	281	720	580	558	470	300	158	93	588	128	606	960	171	1200以上	90	45	130	810 × 810	405	405	405	405	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	550						
							-64	251	330	770	630	610	520	300	159	91	657	200	678	1120	180	1360以上	81	45	140	830 × 830	415	415	415	415	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	730			
□ 500 × 500	9 ~ 32	BC500-S1	-56	60	249	326	770	630	610	520	300	159	91	657	130	653	960	169	1200以上	89	25	110	840 × 840	420	420	420	420	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	540						
							-64	295	385	840	690	660	570	325	171	105	859	203	726	1120	178	1360以上	80	25	120	860 × 860	430	430	430	430	20-D25 (SD345)	28-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	710			
□ 550 × 550	12 ~ 32	BC550-S1	-56	60	350	448	840	690	660	570	325	171	105	859	133	721	960	167	1200以上	89	25	110	890 × 890	445	445	445	445	16-D25 (SD345)	20-D25 (SD345)	D13φ100 (SD295)	530						
							-64	404	516	890	740	710	620	325	173	102	936	208	796	1120	176	1360以上	80	25	120	910 × 910	455										